

## 第4節 光構内(御手洗遺跡・月待山遺跡)の調査



写真 106 A～D調査区調査前全景（北西から）



写真 107 E～G調査区調査前全景（北東から）



写真 108 H調査区調査前全景（北東から）

1. 教育学部附属光学校下水道接続工事に伴う本発掘調査・立会調査

**調査地区** 光構内

**調査面積** 約1014.4㎡(本発掘調査:A～C調査区約45㎡、D調査区約16.1㎡、E～G調査区約51.2㎡、H調査区約13.1㎡、立会調査約889㎡)

**調査期間** 本発掘調査 平成24年5月21日～8月16日

立会調査 平成21年8月7日～11月20日・12月7日

**調査担当** 田畑直彦・松浦暢昌

**調査結果**

(1)調査の経緯(図76、写真106～108)

平成24年度に教育学部附属光学校下水道接続工事が決定したことに伴い、附属小学校・中学校校舎から、正門北西側に位置する本管に至る排水管の新設工事が行われることになった。

当館では、平成23年度に上記計画に伴い、予備発掘調査を実施した。平成23年度第2回埋蔵文化財資料館専門委員会(10月11日開催)でその結果を審議した結果、予備発掘調査区周辺については顕著な遺構等が確認されなかったことから、立会調査を行うことになった。また、本発掘調査区については、詳細な工事計画が決定次第、地点を検討して実施することになった。

今回の工事決定を受け、本発掘調査では、附属中学校北西側にA～D調査区、附属小学校北西側にE～G調査区、附属中学校体育館南東側にH調査区を設定した。

また、立会調査では汚水枡設置箇所を工事施工時の名称に準じてNo.0～16とし、その他報告箇所を1～49地点とした。

以下、本発掘調査、立会調査の順で報告する。

### 【註】

1) 田畑直彦(2013)「第5節1 教育学部附属光学校下水道接続工事に伴う予備発掘調査」山田大学埋蔵文化財資料館(編)『山田大学埋蔵文化財資料館年報－平成23年度－』,山田

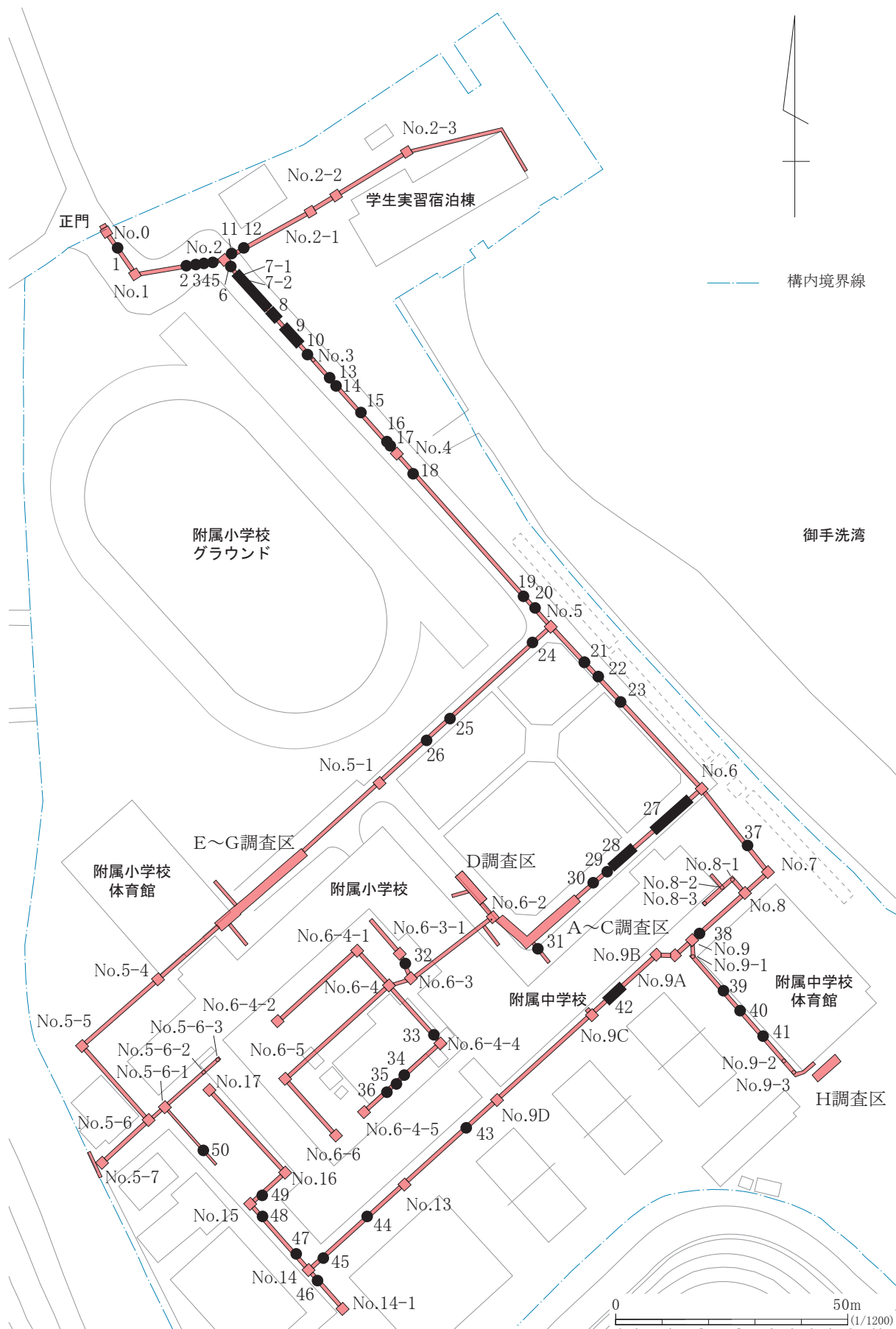


図 76 調査区位置図

## (2) A～C調査区

## a. 基本層序(図77・写真109～111)

A～C調査区は、附属中学校校舎北西側に位置する。基本層序は下記の通りである。

- 第1層 表土(アスファルト 層厚約4～9cm)
- 第2層 造成土(層厚16～30cm)
- 第3層 第1遺構面形成層(層厚11～46cm)
- 第4層 第2遺構面形成層(層厚6～24cm)
- 第5層 第3遺構面形成層(層厚7～25cm)
- 第6～21層 第3遺構面形成以前の堆積層(層厚78cm以上)

第3層は第3-1～9層に細分される。第3-1～5層は第1-1遺構面形成層、第3-6～9層は第1-2遺構面形成層である。第4層は第4-1～4層に細分される。ほぼ水平に堆積しており、第4-1～3層は南西端を除くA調査区に分布し、第4-4層はA調査区南西端からB・C調査区に分布する。第5層は第5-1～3層に細分される。B調査区北東部より南西側には第5-3層が堆積する。また、B調査区北東部では第5-3層が北東部へ傾斜しており、その上に第5-2層が堆積する。

第9層以下は部分的な掘削にとどまったため、詳細は不明であるが、第9～19層は、南西から北東方向に傾斜して堆積している。

## b. 遺構(図77～81・写真112～128)

第1遺構面は近世～近代の遺構面と考えられる。造成土直下で検出された第1-1遺構面は検出遺構からガラス・瓦・コンクリート片等が出土することから、現在の校舎以前に存在した木造校舎に伴う遺構と考えられる。このため、第1-1層は機械掘削時に撤去し、第1-2遺構面で遺構検出を行った。第1-2遺構面は、平成15年度実施の小学校エレベーター昇降路等新設に伴う試掘調査・立会調査区(以下平成15年度調査区)の第1遺構面に対応すると考えられる。第1-1遺構面の遺構のうち、1-1-SK-1～5はゴミ捨て穴と考えられる。第1-2遺構面では、拳大の石が敷き詰められた1-2-SD1を検出した。また、ピットを17基検出した。ピットは径20～30cmのものが主体で、深さはほとんどが20cm以内であり、その機能は不明である。1-2-SD1・ピットからは遺構の時期を示す遺物がほとんど出土しなかった。縄文土器、土師器、須恵器片が出土したが、下部遺構面及び遺構を破壊したことにより混入したのであろう。なお、以下で報告する土師器片については、極小の破片もあるため、弥生土器との区別が困難なものも含まれる。

第2遺構面は平成15年度調査区の第2遺構面に対応し、古墳時代と考えられる。ピット18基、土壙5基を検出した。このうち、SK1・2は埋土が第3層と近似していること、SK2から磁器、土師質土器片が出土したことから、第1遺構面の遺構であった可能性が高い。SK3～5は部分的な検出にとどまったため全体の形状は不明で、断面形状は浅い播鉢状を呈する。ピットは第1-2遺構面同様、深さ20cm以内のものが大半を占め、その機能は不明である。ただし、深さ30cm以上のピット、Pit5・9は建物の一部であった可能性がある。第2遺構面検出遺構からは、縄文土器、土師器、韓式系軟質土器、須恵器片、棒状土錘が出土したが、いずれも小片で遺構の時期を断定できない。Pit12から縄文土器片と古墳時代の棒状土錘が出土していることも上記を裏付ける。

第3遺構面は平成15年度調査区の第3遺構面に対応し、古墳時代と考えられる。ピット34基、土壙1基を検出した。A調査区ではピットを1基検出したのみで、遺構はB・C調査区に集中している。ピットの形状は第1・2遺構面同様のものが多く、柱穴としての機能を想定することは困難である。SK1は平面形が

不整形で断面形状は浅い挿鉢状を呈する。これらの遺構からは土師器、須恵器の小片が出土しているが、小片のため遺構の時期を断定できない。なお、Pit14からは瓦質土器、Pit16からは鉄釘が出土したが、いずれも第1遺構面の遺構に切られているため、混入したものと考えられる。

【註】

- 1) 横山成己(2005)「第1章第6節. 教育学部附属光小学校エレベーター昇降路他新設に伴う試掘・立会調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報—平成15年度—』, 山口

(3) D調査区

a. 基本層序(図82・写真129)

D調査区は附属小学校校舎北東側に位置する。基本層序は下記の通りである。

第1層 表土(アスファルト 層厚約6~12cm)

第2層 造成土(層厚9~25cm)

第3層 第1遺構面形成層(層厚4~25cm)

第4層 第2遺構面形成層(層厚3~18cm)

第5層 第3遺構面形成層(層厚4~16cm)

第6~15層 第3遺構面形成以前の堆積層(層厚91cm以上)

第3層は第3-1層、第3-2層に細分される。第3-1層は第1遺構面形成層である。第3-2層は平成15年度調査区の第2層に対応する層と考えられる。第4層は第4-1層、第4-2層に細分され、第5層は第5-1層、第5-2層に細分される。第6~15層は調査区北西部で一部を検出したのみであるが、検出した範囲ではほぼ水平に堆積していた。第1~3遺構面はA~C調査区と対応する遺構面である。

b. 遺構(図82~85・写真131~139)

第1遺構面では、ピット4基、溝1条、不明遺構2基を検出した。ピットの平面形には楕円形のもの(Pit1・2・4)と円形のもの(Pit3)がある。深さはいずれも10cm未満である。Pit1からは瓦片、Pit3からは土師器、須恵器片が出土した。SD1の底面には拳大の石を敷き詰められており、暗渠と考えられる。土師器、磁器、瓦片が出土した。不明遺構SX1・2は長軸方向がSD1と一致することから、SD1よりも古い溝の残欠である可能性がある。

第2遺構面では、ピット4基、土壌1基、不明遺構1基を検出した。検出面となった第4-1層はオリーブ黒色粗砂を斑状に含むため、遺構検出が困難であった。ピット4基はいずれも礎石を有していたが、埋土が第3-2層とほぼ同一であったことから、同層から掘り込まれた遺構であった可能性が高い。SX1は南北方向に長軸を持つ落ち込みで、土師器、須恵器片が出土した。SK1はSX1を切るが、深さはわずか2cmであった。

第3遺構面では、ピット16基、土壌2基、不明遺構3基を検出した。ピットの平面形はPit4・15が円形で他は楕円形である。Pit2・5・16・SX2はSX1の上面から掘り込まれていた。Pit16以外は深さ20cm以内であった。これらのピット埋土からは弥生土器、土師器、須恵器が出土したが、いずれも小片である。SK1は全体を検出していないが、平面形が隅丸方形とみられる。深さは30cmで土師器、須恵器片が出土した。SK2は排水管及びSX3に切られているため、平面形は不明である。深さ9cmで埋土上面から竈形土器片が出土した。SX1の平面形は東西方向から南北方向に曲がるL字状を呈する。上面遺構及びPit2・5・16・SX2に切られているため、残存状況は悪いが、深さは最深部で48cmである。底面レベルはc-d間が標高2.44m、e-f間が2.66mで北西側が低い。埋土から縄文土器、弥生土器、土師器片が出土した。

光構内(御手洗遺跡・月待山遺跡)の調査

- 1 アスファルト
- 2-1 造成土 バラス
- 2-2 造成土 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 粗砂 バラス含む
- 3-1 灰白色 (2.5Y7/1) 粗砂 0.5~3cm大の礫含む
- 3-2 黄褐色 (2.5Y5/3) 粗砂 0.5~12cm大の礫含む
- 3-3 黄褐色 (2.5Y5/3) 粗砂 0.5~3cm大の礫含む
- 3-4 黄灰色 (2.5Y4/1) 粗砂 瓦礫含む
- 3-5 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粗砂 瓦礫含む
- 3-6 にぶい黄色 (2.5Y6/3) 粗砂 0.5~1cm大礫を少量含む
- 3-7 黄褐色 (2.5Y5/3) 粗砂 3-3よりも0.5~3cm大の礫を多く含む
- 3-8 黄褐色 (2.5Y5/3) 粗砂 わすかに褐色を帯びる。0.5~3cm大の礫を含む
- 3-9 褐色 (10YR4/4) 粗砂 0.5~5cm大の礫を含む
- 4-1 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 粗砂
- 4-2 にぶい黄褐色 (10YR5/4)、明黄褐色 (10YR6/6)、黒褐色 (10YR3/2) 粗砂のブロック砂 0.5~3cm大礫含む
- 4-3 明黄褐色 (2.5Y7/6) 粗砂 0.5~3cm大礫を多く含む
- 4-4 灰色 (5Y6/1) 礫 明黄褐色 (2.5Y6/6) 粗砂を少量含む
- 5-1 明黄褐色 (2.5Y7/6) 粗砂 0.5~3cm大礫を含む 黒褐色 (7.5YR3/2) 粗砂を斑状に含む
- 5-2 明黄褐色 (10YR6/6) 粗砂 0.5~3cm大礫を含む 黒褐色 (7.5YR3/1) 粗砂を斑状に含む (5-3よりも多い)
- 5-3 明黄褐色 (10YR6/6) 粗砂 0.5~4cm大礫を含む 黒褐色 (7.5YR3/1) 粗砂を斑状に含む
- 6 黒褐色 (7.5YR3/2) 粗砂 2~3cm大礫を多く含む
- 7 黒褐色 (7.5YR3/2) 粗砂 2~3cm大礫を少量含む
- 8 明黄褐色 (2.5Y7/6) 粗砂と黒褐色 (7.5YR3/2) 粗砂のブロック砂
- 9 明黄褐色 (10YR7/6) 粗砂 0.5~3cm大礫を含む 黒褐色 (7.5YR3/1) 粗砂を斑状に含む
- 10 灰黄褐色 (10YR5/2) 礫 0.5~1cm大礫主体 粗砂含む
- 11 灰白色 (2.5Y7/1) 粗砂 0.5~2cm大の礫を少量含む
- 12 灰黄色 (2.5Y7/2) 細砂 0.5~2cm大の礫を少量含む
- 13 にぶい黄褐色 (10YR7/2) 粗砂 0.5~2cm大礫含む 黒褐色 (7.5YR3/1) 粗砂を斑状に含む
- 14 にぶい黄褐色 (10YR6/3) 礫 0.5~1cm大礫主体 粗砂含む
- 15 黄色 (2.5Y8/6) 粗砂 0.5~3cm大礫含む
- 16 にぶい黄褐色 (10YR5/3) 粗砂 0.5~3cm大礫含む 黒褐色 (7.5YR3/1) 粗砂を斑状に含む
- 17 にぶい黄褐色 (10YR5/3) 粗砂 0.5~3cm大礫含む
- 18 灰白色 (10YR8/2) 粗砂 0.5~3cm大礫含む
- 19 灰白色 (10YR8/1) 粗砂 0.5~3cm大礫含む 黒褐色 (7.5YR3/1) 粗砂を斑状に含む
- 20 淡黄色 (2.5Y8/4) 粗砂 0.5~3cm大礫含む 黒褐色 (10YR3/2) 粗砂を斑状に含む
- 21 明黄褐色 (2.5Y7/6) 粗砂 0.5~3cm大礫含む

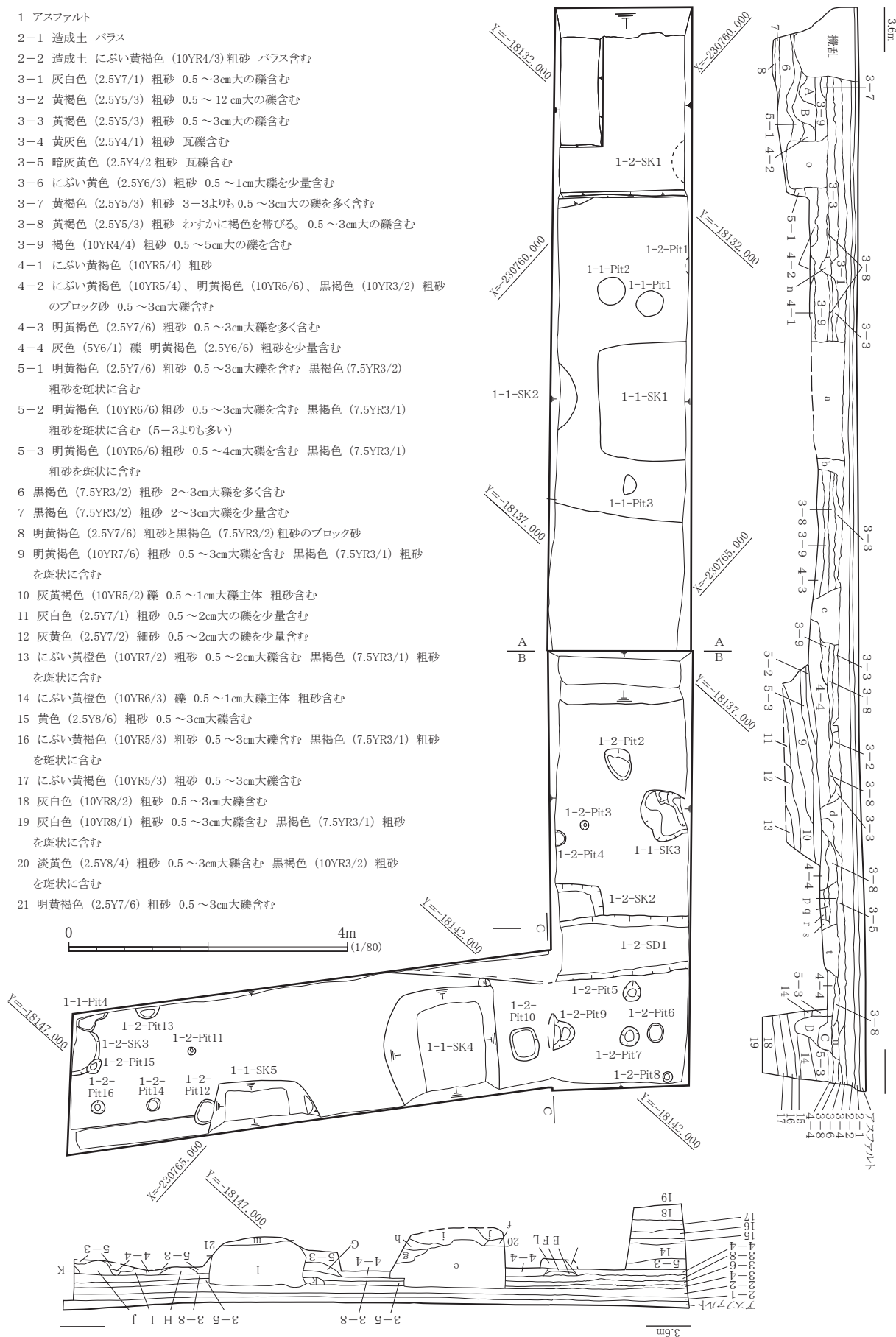


図 77 A~C調査区第1遺構面平面図・土層断面図

- a 1-1-SK1埋土 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粗砂 コンクリート片を含む
- b 1-1-SK1埋土 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粗砂
- c 1-1-遺構埋土 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粗砂
- d 1-1-SK3埋土 暗灰黄色 (2.5Y4/1) 粗砂 黒褐色 (2.5Y3/1) 粗砂・レンガ片・炭を含む
- e 1-1-SK4埋土 黒色 (2.5Y2/1) 粗砂・暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粗砂・5-3・20・iのブロック砂
- f 1-1-SK4埋土 20と同じ
- g 1-1-SK4埋土 5-3と同じ
- h 1-1-SK4埋土 淡黄色 (2.5Y8/4) 粗砂 0.5～3cm大礫を多く含む 黒褐色 (10YR3/2) 粗砂を斑状に含む
- i 1-1-SK4埋土 にぶい黄褐色 (10YR7/2) 粗砂 0.5～3cm大礫を含む
- j 1-1-SK4埋土 にぶい黄褐色 (10YR7/2) 粗砂 0.5～1cm大礫を含む
- k 1-1-遺構埋土 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 粗砂
- l 1-1-SK5埋土 黒 (2.5Y5/1) 砂 瓦礫を含む
- m 1-1-SK5埋土 黄褐色 (2.5Y5/4) 粗砂 0.5～3cm大礫を含む 黒褐色 (10YR3/2) 粗砂を斑状に含む
- n 1-2-Pit1埋土 にぶい黄褐色 (2.5Y6/3) 粗砂 0.5～1cm大礫を少量含む
- o 1-2-SK1埋土 灰色 (5Y6/1) 礫に灰黄褐色 (10YR5/2) 粗砂を少量含む
- p 1-2-遺構埋土 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 粗砂 0.5～3cm大礫を含む
- q 1-2-遺構埋土 褐色 (10YR4/4) 粗砂 0.5～3cm大礫を含む
- r 1-2-遺構埋土 黒褐色 (10YR3/1) 粗砂 0.5～3cm大礫を含む
- s 1-2-遺構埋土 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 粗砂 Pよりも0.5～3cm大礫を多く含む
- t 1-2-SD1埋土 黄褐色 (2.5Y5/3) 細砂に20cm大の円礫を含む
- u 1-2-遺構埋土 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 粗砂
- A 第2遺構面遺構埋土か 灰黄色 (2.5Y6/2) 粗砂 0.5～2cm大礫を含む
- B 第2遺構面遺構埋土か 黄褐色 (2.5Y6/3) 粗砂 0.5～2cm大礫を少量含む
- C 第2遺構面 Pit9埋土 黒褐色 (10YR3/1) 粗砂に4-4を斑状に含む
- D 第2遺構面 Pit9埋土 5-3と15のブロック砂
- E 第2遺構面遺構埋土 黒褐色 (2.5Y3/1) 粗砂に4-4を斑状に含む
- F 第2遺構面遺構埋土 黄色 (2.5Y8/6) 粗砂 0.5～2cm大礫を含む
- G 第2遺構面遺構埋土 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 粗砂
- H 第2遺構面遺構 Pit10埋土 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 埋土 0.5～3cm大礫を含む
- I 第2遺構面遺構 Pit10埋土 黒褐色 (2.5Y3/1) 粗砂 0.5～3cm大礫を含む
- J 第2遺構面 SK4埋土 黒褐色 (2.5Y3/2) 粗砂 0.5～3cm大礫を含む
- K 第2遺構面 SK4埋土 にぶい黄褐色 (10YR5/3) 粗砂 3～5cm大礫を多く含む
- L 第3遺構面 Pit5埋土 黒褐色 (2.5Y3/1) 粗砂 0.5～3cm大礫を多く含む

SX2はSX1を切っている。一部の検出にとどまったため、平面形は不明である。深さは88cmで、埋土は4層に分かれ、最上層以外の層は北西方向から南東方向に傾斜する。これらの層から土師器片が出土した。

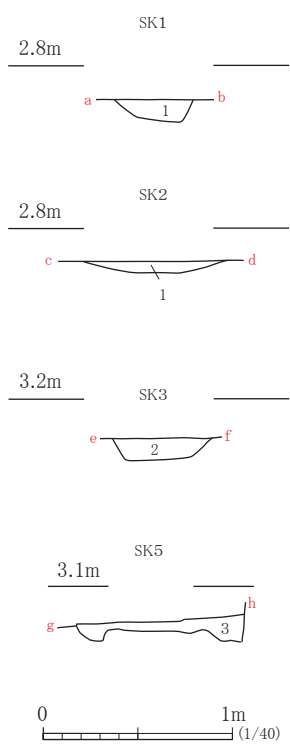
#### (4) E～G 調査区

##### a. 基本層序(図86・87・写真140～142)

E～G調査区は附属小学校北西側に位置する。基本層序は下記の通りである。

- 第1層 表土(アスファルト 層厚約7～9cm)
- 第2層 造成土(層厚11～75cm)
- 第3層 第1遺構面形成層(層厚4～39cm)
- 第4層 第2遺構面形成層(層厚5～36cm)
- 第5層 第3遺構面形成層(層厚2～50cm)
- 第6～12層 第3遺構面形成以前の堆積層(層厚40cm以上)

E調査区は南西端を除く全面が攪乱を受けていた。第1～第3遺構面はA～D調査区の遺構面と対応すると考えられる。また、検出標高から第2遺構面は平成2年度調査の附属小学校運動場改修工事に伴う発掘調査(以下平成2年度調査区)の第1遺構面、第3遺構面は同第2遺構面との対応が考えられる。



- 1 灰黄褐色 (10YR5/2) 粗砂 0.5~3cm大礫含む
- 2 灰黄褐色 (10YR4/2) 粗砂 0.5~3cm大礫含む
- 3 黒褐色 (2.5Y3/1) 粗砂 1~3cm大礫多く含む

図 79 SK1・2・3・5土層断面図

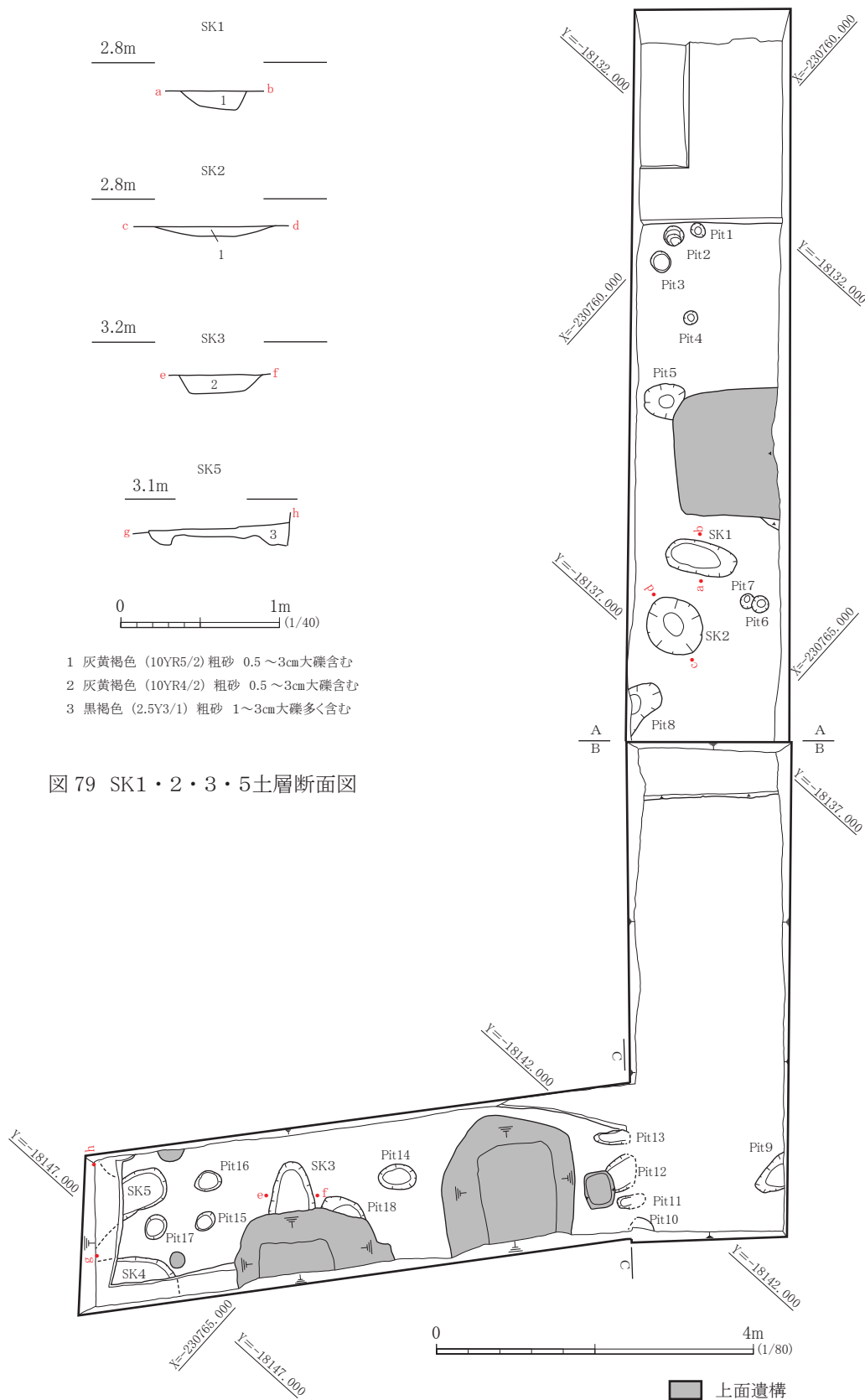


図 78 A~C調査区第2遺構面平面図

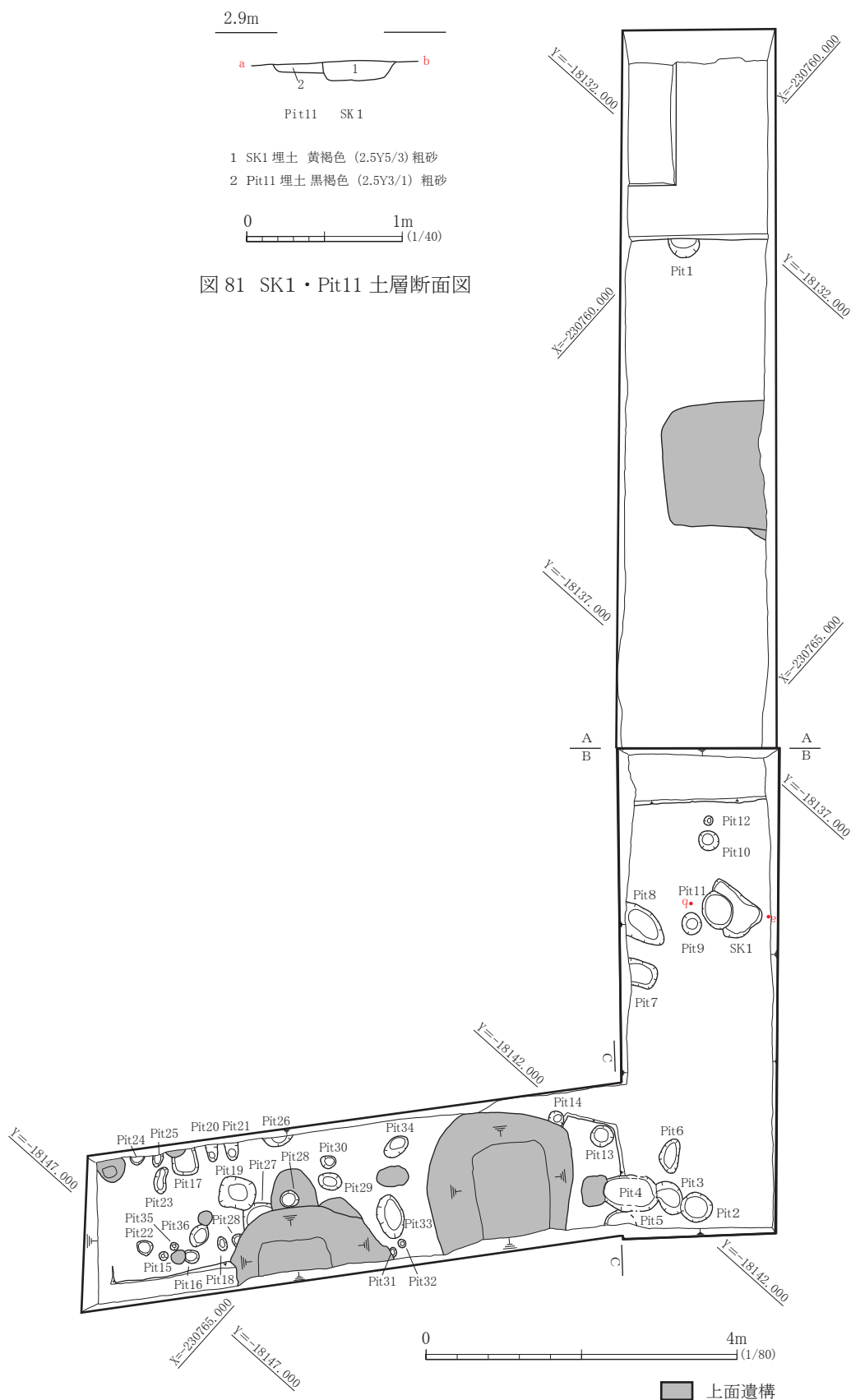


図 81 SK1・Pit11 土層断面図

図 80 A~C調査区第3遺構面平面図



- 1 アスファルト
- 2-1 造成土 バラス
- 2-2 造成土 にぶい黄褐色 (10YR4/3)粗砂 バラス含む
- 3-1 にぶい黄色 (2.5Y6/3) 粗砂 0.5~1cm大礫を少量含む
- 3-2 褐色 (10YR4/4) 粗砂 0.5~5cm大の礫を含む
- 4-1 灰オリーブ色 (7.5Y4/2)粗砂にオリーブ黒色 (7.5Y3/1) 粗砂を斑状に含む
- 4-2 オリーブ黒色 (7.5Y3/2)粗砂 1~3cm大の礫を含む 部分的に灰オリーブ色 (7.5Y4/2)粗砂を含む
- 4-3 黄褐色 (2.5Y5/3) 粗砂 0.5~3cm大礫含む
- 5-1 明黄褐色 (10YR6/6)粗砂 0.5~4cm大礫を含む 黒褐色 (7.5YR3/1)粗砂を斑状に含む
- 5-2 5-1に黄灰色 (2.5Y4/1) 粗砂を斑状に含む 1~3cm大礫含む
- 6 明黄褐色 (10YR6/6) 礫 0.5~1cm大礫主体
- 7 黄色 (5Y7/6) 礫 1~3cm大礫主体
- 8 オリーブ色 (5Y5/6) 礫 0.5~3cm大礫主体。
- 9 灰白色 (2.5Y8/1)粗砂 0.5~3cm大礫含む。
- 10 淡黄色 (2.5Y8/2)粗砂 0.5~1cm大礫
- 11 灰オリーブ色 (5Y5/3) 粗砂 0.5~2cm大礫含む
- 12 灰白色 (5Y7/2)粗砂 0.5~3cm大礫多く含む
- 13 黄色 (5Y7/6)粗砂 0.5~3cm大礫含む
- 14 灰オリーブ色 (5Y4/2)粗砂 0.5~3cm大礫含む
- 15 浅黄色 (5Y7/3)粗砂 0.5~2cm大礫含む
- a 第1遺構面SD1埋土 にぶい黄褐色 (10YR5/3) 粗砂 0.5~3cm大礫含む 直径20cm大の円礫を含む
- A 第2遺構面SX1埋土 にぶい黄褐色 (10YR5/3) 粗砂 0.5~3cm大礫含む
- B 第3遺構面Pit3埋土 褐色 (10YR4/1) 粗砂 0.5~1cm大の礫含む
- C 第3遺構面SX1埋土 オリーブ黒色 (5Y3/1) 粗砂 0.5~1cm大の礫含む
- D 第3遺構面SX2埋土 オリーブ黒色 (7.5Y3/1) 粗砂 (1~3cm大礫含む) に灰オリーブ色 (7.5Y4/2) 粗砂を含む
- E 第3遺構面SX2埋土 オリーブ黒色 (7.5Y3/1) 粗砂 (1~3cm大礫含む) に灰オリーブ色 (7.5Y4/2) 粗砂を少量含む
- F 第3遺構面SX2埋土 灰オリーブ色 (7.5Y4/2) 粗砂 (1~3cm大礫含む) にオリーブ黒色 (7.5Y3/1) 粗砂を少量含む
- G 第3遺構面SX2埋土 明黄褐色 (7.5Y7/6) 粗砂 (1~3cm大礫含む) にオリーブ黒色 (7.5Y3/1) 粗砂を少量含む
- H 第3遺構面SK1埋土 オリーブ黒色 (5Y3/2) 粗砂 (1~3cm大礫含む)
- I 第3遺構面SK1埋土 灰オリーブ色 (5Y4/2) 粗砂 (1~3cm大礫を多く含む)
- J 第3遺構面埋土 5-1に黒褐色 (2.5Y3/1)粗砂を含む (1~3cm大礫含む)
- K 第3遺構面埋土 オリーブ黒色 (7.5Y3/1) 粗砂 0.5~2cm大礫含む
- L 第3遺構面Pit14埋土 オリーブ黒色 (7.5Y3/1) 粗砂 1~3cm大礫含む
- M 第3遺構面Pit1埋土 灰オリーブ色 (5Y5/2) 粗砂 1~3cm大礫含む

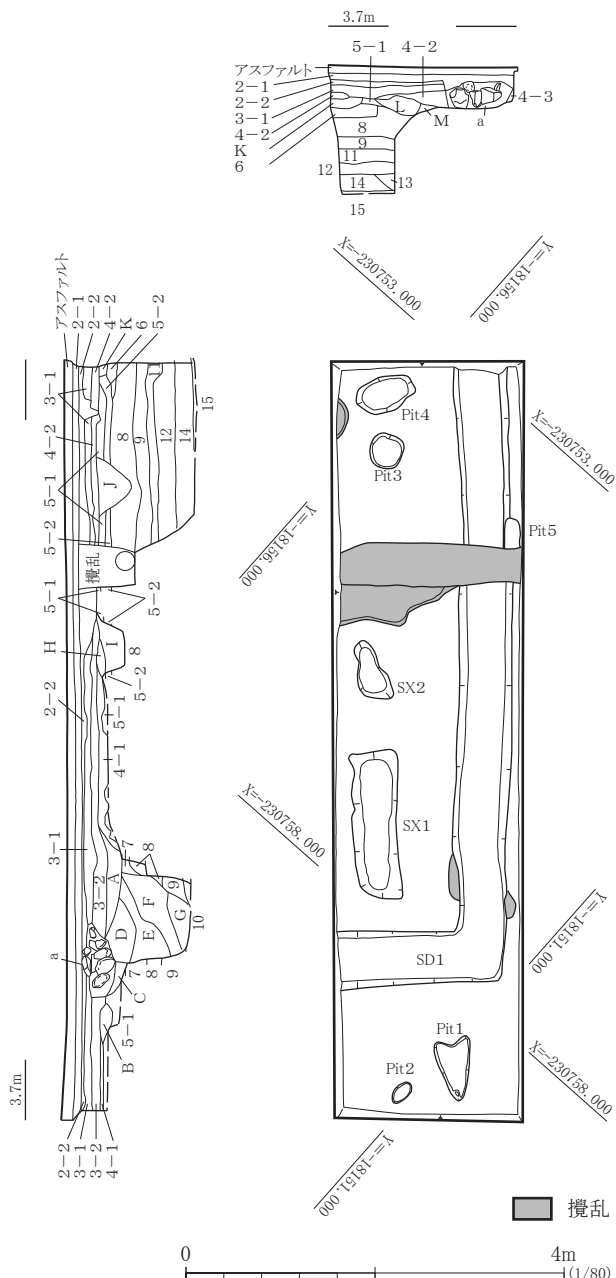


図82 D調査区第1遺構面平面図・土層断面図

第3層は第3-1層、第3-2層に細分される。第3-1層はG調査区でのみ検出された。現在の校舎以前に存在した木造校舎に伴う遺構面形成層と考えられる。第3-2層は第1遺構面形成層である。第4層はE調査区南西端からG調査区北東部にかけてみられ、G調査区南西部では第3-2層に切られて消失している。第5層は第5-1~5層に細分される。このうち、遺構が検出されたのは第5-2・4・5・7層上面で、他については、検出標高・切り合いから第3遺構面形成層と考えられる。

**b.遺構(図87~93・写真143~161)**

第1遺構面では、Pit8基、土壇6基、不明遺構1基を検出した。ピットのうち、Pit5は深さ43.6cm、Pit6は深さ82.3cmで、他よりも深く、柱状の立石が認められた。立石の機能は不明であるが、何らかの区画を意図したものと推測される。また、Pit7は上部を攪乱により削平されており、同埋土を除去した段階で検

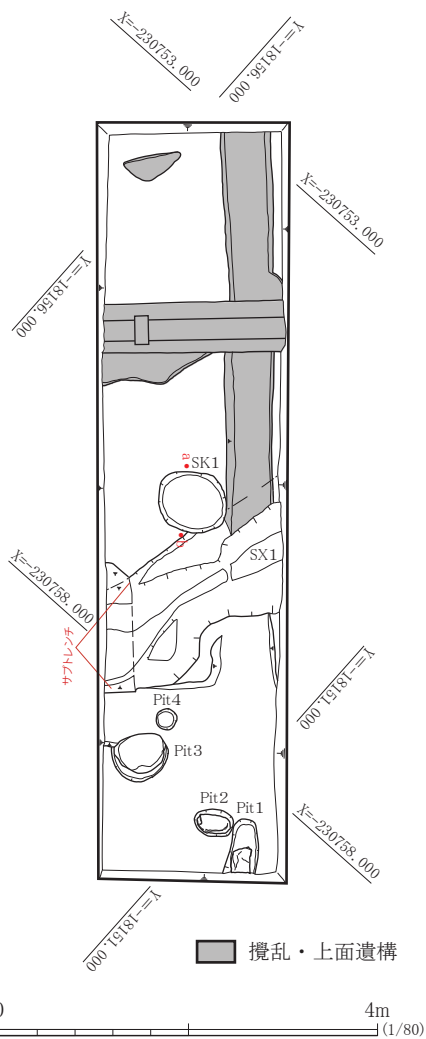


図 83 D調査区第2遺構面平面図

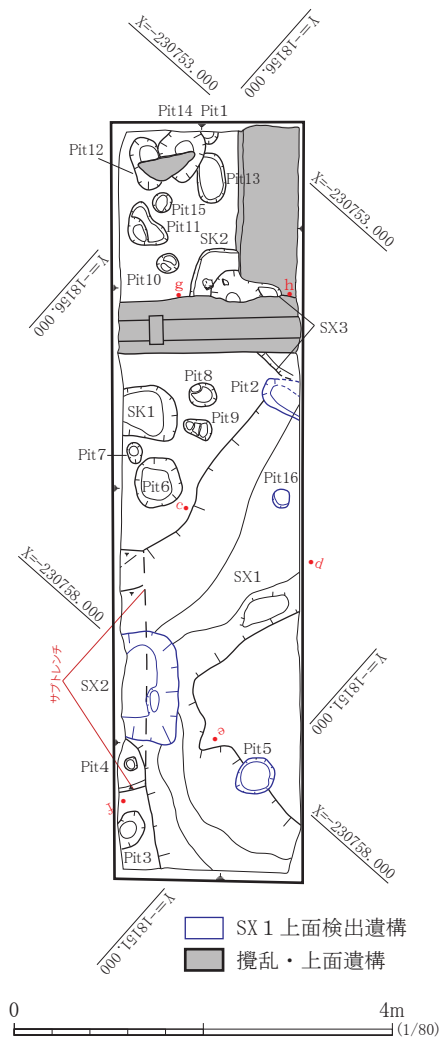


図 84 D調査区第3遺構面平面図

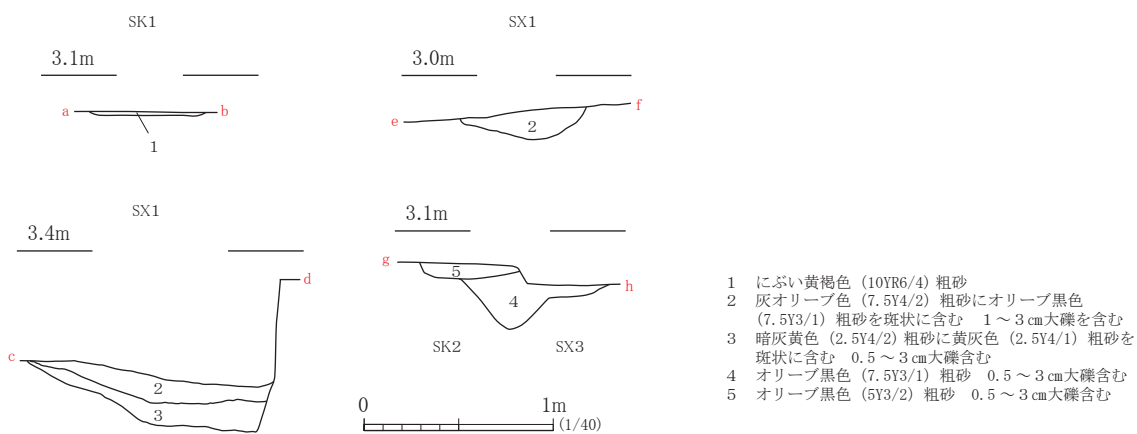


図 85 D調査区第2遺構面・第3遺構面検出遺構断面図

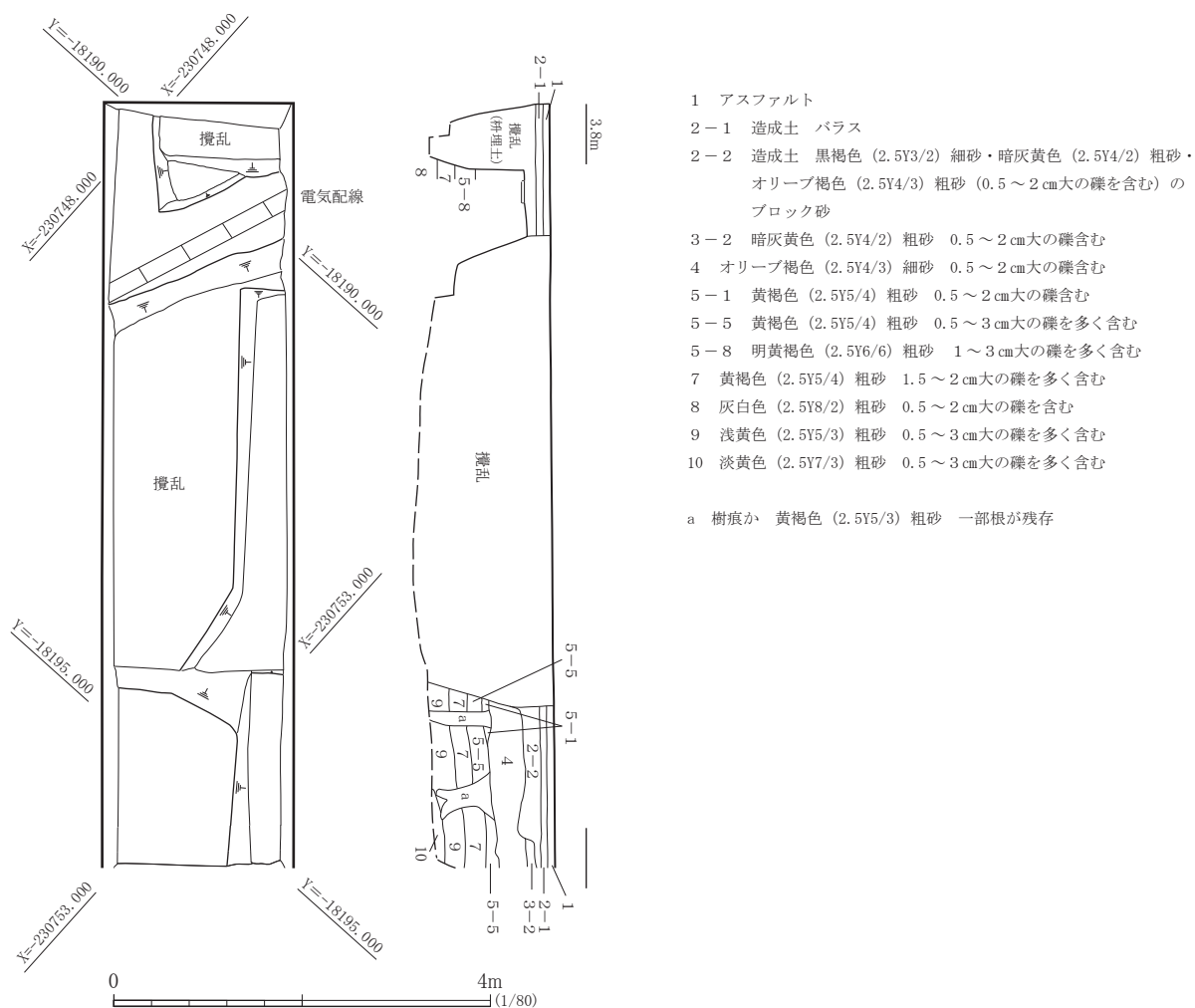


図 86 E調査区平面図・土層断面図

出された。埋土には同一個体とみられる土師質土器、瓦質土器片が多数含まれており、それらの特徴から、Pit7は近世(18世紀後半～19世紀)の遺構と考えられる。土壌のうち、SK1～4は底面に拳大の石を敷き詰めていた。また、軸方向が一致しており、建物の一部であった可能性がある。中心を基準としたSK1・2間の距離は約200cm、SK3・4間の距離は約240cm、SK1・3間の距離は約200cm、SK2・4間の距離は約200cmである。SK5は楕円形で深さ12cm。土師器片が出土した。SK6は不整形で深さ11.7cm。須恵器片が出土した。SX1は不規則な形状で、深さ4.9cmである。樹痕の可能性が高い。

第2遺構面では、ピット1基を検出した。給水管・攪乱に切られていたため、全体を検出できなかったが、平面系は楕円形と考えられる。深さは20cmで、埋土は炭を含む灰黄褐色(10YR4/2)粗砂の単一層であった。埋土上面では竈形土器を検出し、埋土中位～下位にかけても上面出土と同一とみられる竈形土器片のほか、土師器甕が出土した。共に使用痕が認められることから、使用後に廃棄されたと考えられる。6世紀頃に位置づけられよう。

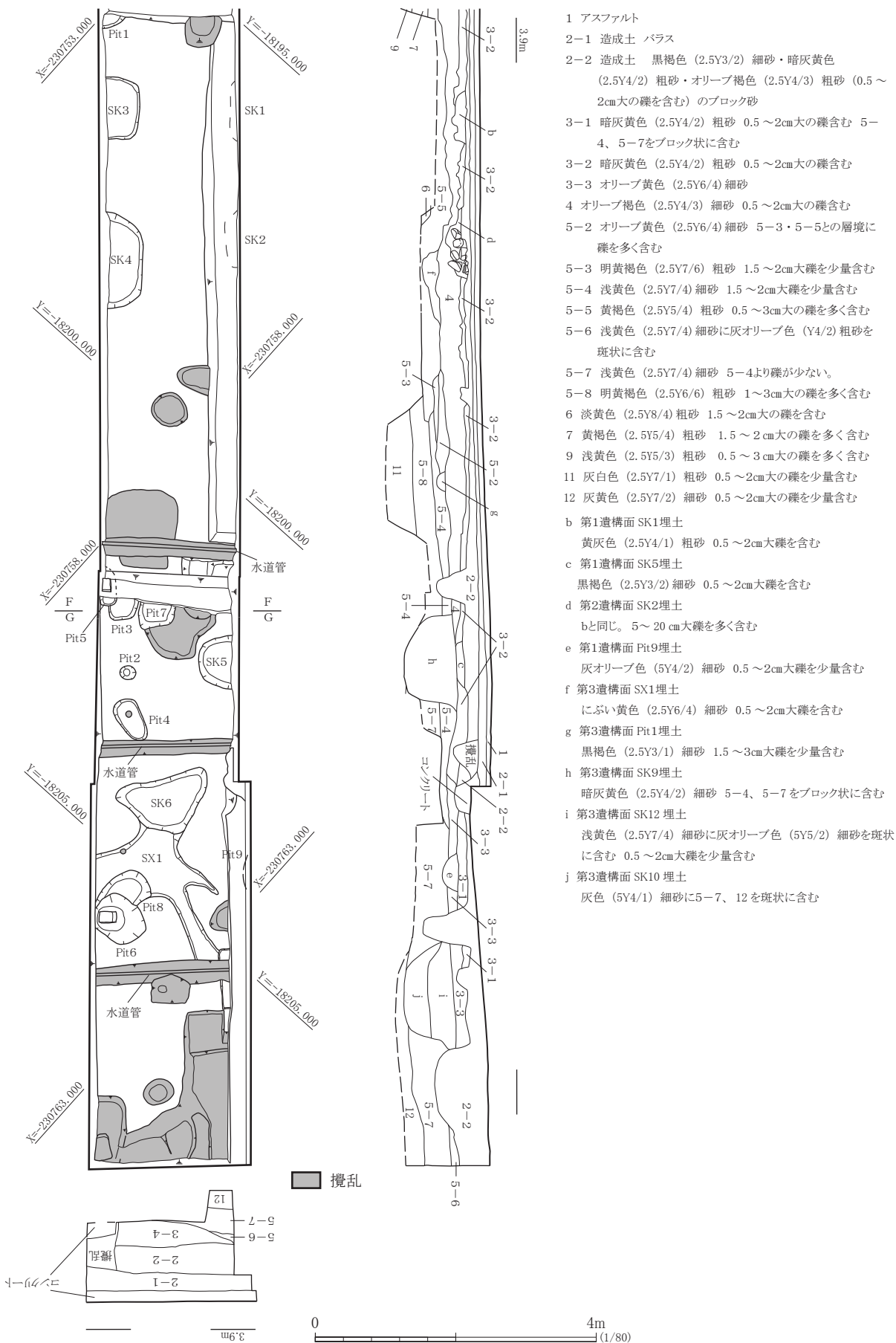
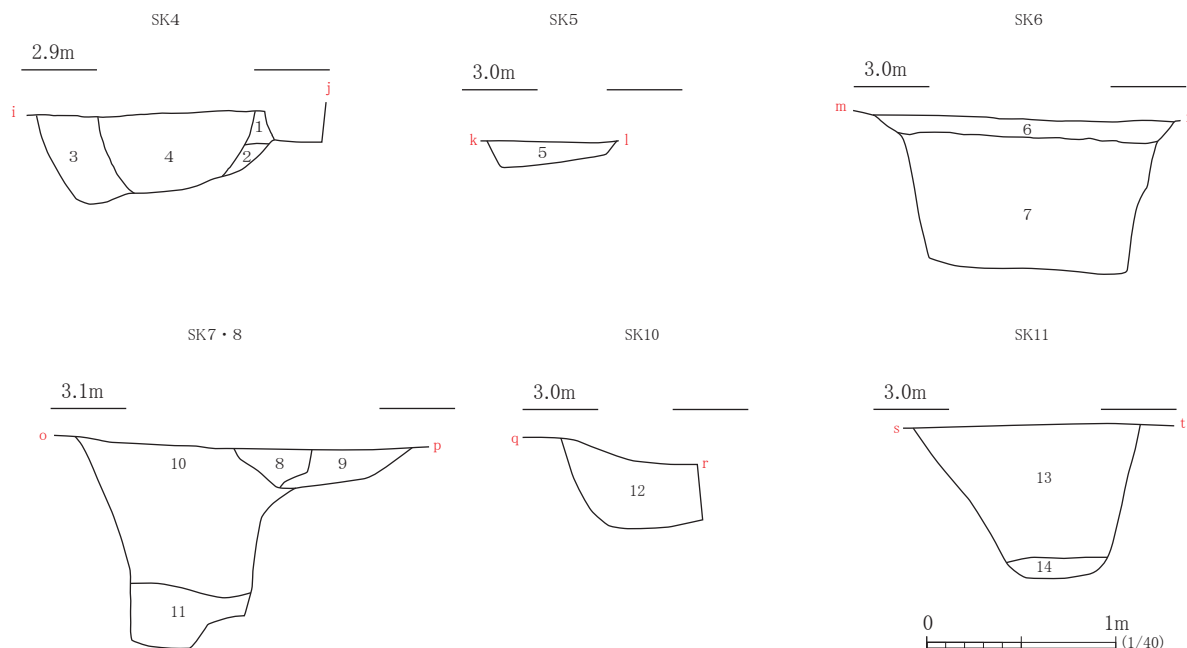


図 87 F・G調査区第1遺構面平面図・土層断面図





- 1 第3遺構面形成層 黄褐色 (2.5Y5/4) 粗砂 1.5～3cm大礫を多く含む
- 2 灰白色 (2.5Y7/1) 粗砂 0.5～2cm大礫を含む
- 3 第3遺構面SK4埋土 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 細砂 黒褐色 (2.5Y3/1) 細砂を斑状に含む 0.5～1.5cm大礫を少量含む
- 4 第3遺構面SK4埋土 3と同じ 3よりも黒褐色 (2.5Y3/1) 細砂を多く含む
- 5 第3遺構面SK5埋土 黄褐色 (2.5Y5/4) 細砂と暗灰黄色 (2.5Y4/2) 細砂を斑状に含む 0.5～1.5cm大礫を少量含む
- 6 第3遺構面SX1埋土 にぶい黄色 (2.5Y6/4) 細砂 0.5～2cm大の礫を含む
- 7 第3遺構面SK6埋土 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 細砂 黒褐色 (2.5Y3/1) 細砂・0.5～1.5cm大礫を含む
- 8 第1遺構面Pit6埋土 灰黄褐色 (10YR4/2) 細砂 0.5～1.5cm大礫を少量含む
- 9 第3遺構面SK7埋土 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 埋土 0.5～2cm大礫を少量含む
- 10 第3遺構面SK8埋土 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 細砂
- 11 第3遺構面SK8埋土 灰黄色 (2.5Y6/2) 細砂 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 細砂を斑状に含む 0.5～2cm大礫を含む
- 12 第3遺構面SK10埋土 黄灰色 (2.5Y4/1) 細砂ににぶい黄色 (2.5Y6/3) 細砂を含む 0.5～2cm大礫を少量含む
- 13 第3遺構面SK11埋土 10と同じ
- 14 第3遺構面SK11埋土 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 細砂 0.5～2cm大礫を含む

図93 F調査区第3遺構面断面図2

第3遺構面ではピット4基、土壇12基、不明遺構1基が検出された。

F調査区ではSK1～3を完掘後、周辺が遺構面よりもわずかに色調・土質が異なっていたため、清掃した結果、SX1を検出した。平面形からSK1～3はSX1を切っていたと考えられる。また、SK1を切るPit2・3があるが、埋土が共に黒褐色(2.5Y3/1)細砂であることから、柱根であった可能性がある。さらにSX1を完掘後、底面からSK4～6を検出した。このうち、SK5の南半部はSX1埋土と共に掘削してしまったため、北半部のみ検出した。上記の遺構のうち、SX1・SK1・3・5・6から土器が出土しているが、いずれも小片で時期を断定できない。切り合い関係から、SK4・5・6→SX1→SK1～3の順序が考えられ、平面形からSX1はSK4～6埋没後の整地に伴うものであった可能性がある。

G調査区では、Pit4・SK7～12を検出した。土壇はすべて一部の検出にとどまったが、SK7が深さ19cmであるのを除くと、すべて40cmを超えており、最も深いSK8で108cmである。層序は単一ないし2層である。埋土からは土師器、須恵器の小片が出土しているが、小片で時期を断定できない。以上から不明な点が多いものの、楕円形の可能性がある平面形と深さから、掘立柱建物の一部であった可能性がある。

【註】

3) 河村吉行(1992)「第3章 光構内教育学部附属光小学校運動場改修に伴う発掘調査」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報X』,山口

- 1 表土 (マサ土)
- 2-1 造成土 (コークス)
- 2-2 造成土 (マサ土)
- 2-3 造成土 (バラス)
- 2-4 造成土 (マサ土)
- 2-5 灰色 (5Y4/1) 粗砂 5cm 大礫、ガレキ含む
- 3 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 粗砂 ～1cm 大礫を多く含む
- 4 黒褐色 (2.5Y3/2) 礫 1～2cm 大礫主体 粗砂を少量含む
- 5 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 細砂・粗砂・礫 (1～2cm 大) の互層  
※下部 5～8cm は礫
- 6 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 細砂・粗砂・礫 (1～2cm 大) の互層  
※下部 5～8cm は礫 上面は厚 4～6cm の粗砂 上面でピット検出
- 7 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 礫 8・10 と一連の堆積 1～2cm 大礫主体
- a SK1 埋土  
オリーブ黒色 (5Y3/1) 礫 1～2cm 大礫主体 粗砂を少量含む
- b SK1 埋土  
暗灰黄色 (2.5Y4/2) 礫 8 と一連の堆積 1～2cm 大礫主体

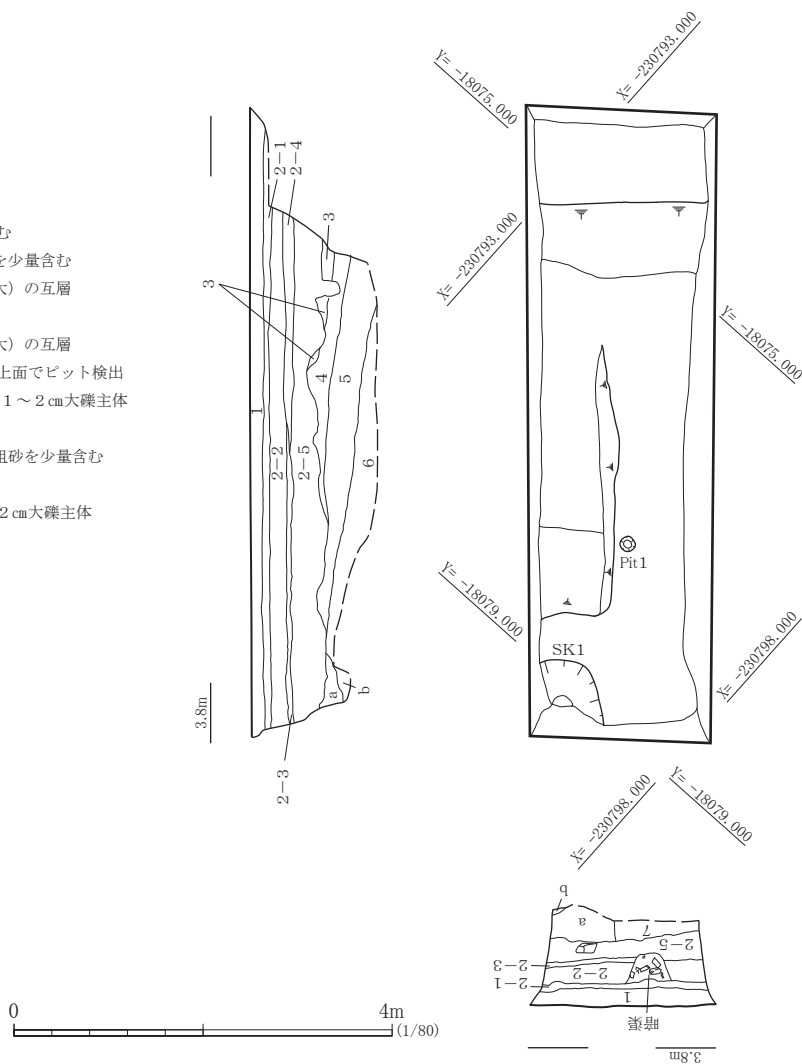


図 94 H調査区平面図・土層断面図

(5) H調査区

a. 基本層序 (図94・写真162)

H調査区は附属中学校南東側に位置する。基本層序は下記の通りである。

- 第1層 表土 (層厚11～17cm)
- 第2層 造成土 (層厚45～70cm)
- 第3層 暗灰黄色粗砂 (層厚8～14cm)
- 第4・5層 遺物包含層 (層厚2～58cm)
- 第6層 遺構面形成層 (層厚30cm以上)

基本層序はA～G調査区と大きく異なる。第2層が厚く、近世～近代の遺構面は削平された可能性が高い。第4～6層は南西から北東方向に傾斜して堆積しており、旧地形が峨眉山から海側に傾斜していたことよるものとみられる。第4・5層のほか、遺構面形成層である第6層も遺物包含層であり、摩滅した土器片を含む

b. 遺構 (図94・写真162)

第6層上面で土壇1基、ピット1基を検出した。SK1からは土師器片が出土したが、小片で時期は断定できない。

表9 A～C調査区第1遺構面遺構観察表

種類	遺構番号	平面形態	平面規模(cm)	深さ(cm)	出土遺物	備考
ピット	1-1-Pit1	楕円形	35×40	約15	瓦	
	1-1-Pit2	円形	径38	15.4		
	1-1-Pit3	楕円形	18×30	15.4		
	1-1-Pit4	不整形か	不明×50	19.7	土師器、須恵器、瓦質土器	
	1-1-Pit5	楕円形か	不明×34	28.2		
	1-2-Pit1	円形か	不明×不明	16.0		
	1-2-Pit2	楕円形	35×50	4.0	土師器	
	1-2-Pit3	円形	径13	5.0		
	1-2-Pit4	楕円形か	23×不明	2.6		
	1-2-Pit5	楕円形	25×29	8.2	土師器	
	1-2-Pit6	楕円形	23×28	14.0		
	1-2-Pit7	楕円形	26×29	12.6		
	1-2-Pit8	円形	径15	10.9		
	1-2-Pit9	不整形	52×約38	16.5		
	1-2-Pit10	隅丸長方形	40×48	3.4		
	1-2-Pit11	円形	径20	2.7		
	1-2-Pit12	楕円形	約28×38	17.2		
1-2-Pit13	楕円形	17×20	21.7			
1-2-Pit14	楕円形	16×25	13.3			
1-2-Pit15	円形	径20	6.3			
1-2-Pit16	楕円形	13×20	15.2		樹根か	
1-2-Pit17	円か	26×不明	17.2			
土壌	1-1-SK1	不明	不明	約10		未掘
	1-1-SK2	方形	(123)×170	72以上	コンクリート片	
	1-1-SK3	円形か	不明	約10		未掘
	1-1-SK4	不整形	73×(64)	30.0	土師器	
	1-1-SK5	不整形	(125)×(150)	86.0	須恵器、瓦質土器、磁器、陶器、硯(以上、抽出遺物)	
	1-1-SK6	不整形	(65)×(112)	70.0	須恵器、陶器、磁器、硯、骨製歯ブラシ(以上、抽出遺物)	
	1-2-SK1	円形か	74×不明	60.0		
	1-2-SK2	方形か	(54)×(67)	10.0	土師器、瓦	
1-2-SK3	円形か	(37)×(67)	16.0	縄文土器、土師器、瓦質土器		
溝	1-2-SD1		90×(469)	25.0	土師器、須恵器	石敷暗渠

表10 A～C調査区第2遺構面遺構観察表

種類	遺構番号	平面形態	平面規模(cm)	深さ(cm)	出土遺物	備考
ピット	Pit1	楕円形	16×20	9.8	土師器	
	Pit2	円形	径25	20.5		
	Pit3	楕円形	24×27	13.3		
	Pit4	楕円形	16×19	3.6		
	Pit5	楕円形	42×50	38.6	土師器	
	Pit6	円形	径21	12.6		
	Pit7	円形	不明×19	10.6		
	Pit8	不整形	39×不明	20.1	土師器	
	Pit9	楕円形か	34×不明	52.0		
	Pit10	円形か	不明×不明	8.0		
	Pit11	楕円形	16×約36(推定)	6.7	土師器、須恵器	
	Pit12	楕円形	38×不明	11.2	縄文土器、土錘	
	Pit13	楕円形	18×40(推定)	11.6		
	Pit14	楕円形	32×46	11.0		
	Pit15	楕円形	21×29	8.1		
	Pit16	楕円形	25×35	27.8	土師器	
	Pit17	楕円形	27×33	10.7	土師器	
	Pit18	楕円形か	不明×不明	19.6	土師器	
土壌	SK1	楕円形	41×89	11.0		第1遺構面遺構か
	SK2	楕円形	63×73	6.0	磁器、土師質土器	第1遺構面遺構か
	SK3	不整形	59×(63)	12.2	土師器、朝鮮系軟質土器	
	SK4	楕円形	(55)×(101)	21.0		
	SK5	楕円形	(95)×(110)	18.0	土師器	



表11 A～C調査区第3遺構面遺構観察表

種類	遺構番号	平面形態	平面規模(cm)	深さ(cm)	出土遺物	備考
ピット	Pit1	円形か	不明×40	15.2	土師器	
	Pit2	円形	径38	5.7	土師器	
	Pit3	楕円形	不明×44	8.5		
	Pit4	楕円形	45×不明	18.6	土師器	
	Pit5	円形か	不明×不明	15.0		
	Pit6	楕円形	24×45	9.0	土師器	
	Pit7	楕円形か	34×不明	5.8	土師器、須恵器	
	Pit8	楕円形か	40×不明	14.1	土師器、須恵器	
	Pit9	楕円形	24×29	7.4		
	Pit10	円形	径25	11.6		
	Pit11	楕円形	40×50	14.0	土師器	
	Pit12	円形	径12	15.0		
	Pit13	楕円形	26×29	14.0		
	Pit14	円形か	20×不明	7.8	瓦質土器(混入)	
	Pit15	円形	径11	3.1	土師器	
	Pit16	楕円形	16×不明	15.0	鉄釘(混入)	
	Pit17	楕円形	33×不明	5.2	土師器	
	Pit18	楕円形	12×19	3.4	土師器	
	Pit19	隅丸方形	40×48	4.1	土師器	
土壌	Pit20	楕円形	15×不明	13.6	土師器	
	Pit21	楕円形	15×不明	36.8	土師器	
	Pit22	楕円形	19×22	5.6		
	Pit23	楕円形	13×35	7.4		
	Pit24	円形か	18×不明	7.0		
	Pit25	楕円形	13×不明	9.4		
	Pit26	楕円形か	不明×不明	10.6		
	Pit27	不明	不明×不明	21.4		
	Pit28	楕円形	20×23	4.1		
	Pit29	楕円形	22×31	9.5		
	Pit30	楕円形	16×20	13.4		
	Pit31	楕円形	不明×12	8.5		
	Pit32	円形	径10	7.0		
	Pit33	楕円形	34×56	15.5		
	Pit34	楕円形	22×36	16.0		
土壌	SK1	不整形	54×110	42.0	土師器	

表12 D調査区第1遺構面遺構観察表

種類	遺構番号	平面形態	平面規模(cm)	深さ(cm)	出土遺物	備考
ピット	Pit1	不整形	40×59	9.2	瓦	
	Pit2	楕円形	15×26	3.9		
	Pit3	不整形	37×39	9.0	土師器、瓦質土器	
	Pit4	楕円形	36×60	8.4		
溝	SD1		58×810	18.2	土師器、磁器、瓦	石敷暗渠
不明遺構	SX1	不整形	45×160	6.7	土師器、瓦	溝の残欠か
	SX2	不整形	33×69	13.2	土師器、須恵器、陶器、瓦質土器、瓦	溝の残欠か

表13 D調査区第2遺構面遺構観察表

種類	遺構番号	平面形態	平面規模(cm)	深さ(cm)	出土遺物	備考
ピット	Pit1	楕円形	29×不明	13.8		礎石有 第3-2層 検出面遺構か
	Pit2	楕円形	29×41	4.7		礎石有 第3-2層 検出面遺構か
	Pit3	円形か	59×不明	5.1	土師器	礎石有 第3-2層 検出面遺構か
	Pit4	円形か	径22	8.6		礎石有 第3-2層 検出面遺構か
土壌	SK1	楕円形	63×67	2.0		
不明遺構	SX1		(116)×(215)	15.0	土師器、須恵器	SK1に切られる 第3遺構面SX1を 切る

表14 D調査区第3遺構面遺構観察表

種類	遺構番号	平面形態	平面規模(cm)	深さ(cm)	出土遺物	備考
ピット	Pit1	不明	不明×不明	8.7	土師器	
	Pit2	楕円形	27×不明	11.3	土師器	SX1を切る
	Pit3	楕円形か	28×不明	4.9		
	Pit4	円形	径14	3.5		
	Pit5	楕円形	39×44	4.1		SX1を切る
	Pit6	楕円形	50×52	11.4		
	Pit7	楕円形	16×23	8.5		
	Pit8	楕円形	25×30	13.8		

光構内(御手洗遺跡・月待山遺跡)の調査

種類	遺構番号	平面形態	平面規模(cm)	深さ(cm)	出土遺物	備考
ピット	Pit9	楕円形	22×32	6.8		
	Pit10	楕円形	20×22	5.3		
	Pit11	不整形	30×50	12.0	弥生土器、土師器	
	Pit12	楕円形	29×56	10.2		Pit14に切られる
	Pit13	楕円形	30×54	2.6	土師器	Pit14に切られる
	Pit14	楕円形	不明×不明	16.2		Pit12・13を切る
	Pit15	円形	径20	20.7	土師器	
土壌	Pit16	楕円形	16×19	43.2		
	SK1	不整形か	(55)×(58)	30.0	土師器、須恵器	SX1を切る。
不明遺構	SK2	不明	(50)×(50)	9.0	土師器	第1遺構面SD1に切られる。第3遺構面SX3を切る。
	SX1		(175)×(450)	48.0	縄文土器、弥生土器、土師器	第2遺構面Pit1～4、SX1、第3遺構面Pit2、5、16、SX2、3に切られる。
	SX2	隅丸方形か	(65)×(114)	88.0	土師器	SX1を切る。
	SX3	不明	不明×不明	28.0	土師器	第1遺構面SD1、第3遺構面SK2に切られる。SX1、Pit2を切る。

表15 F・G調査区第1遺構面遺構観察表

種類	遺構番号	平面形態	平面規模(cm)	深さ(cm)	出土遺物	備考
ピット	Pit1	不明	不明×不明	16.4	土師器、陶器、磁器	
	Pit2	楕円形	20×23	34.3		
	Pit3	隅丸方形か	38×不明	41.5		
	Pit4	楕円形	34×65	9.8	土師器	
	Pit5	楕円形	22×約45	43.6		立石
	Pit6	楕円形	60×73	82.3		立石
	Pit7	不整形	45×不明	20.0	土師器、土師質土器、瓦質土器	
	Pit8	楕円形か	不明×不明	35.9	土師器、須恵器、土師質土器、陶器、磁器	
土壌	SK1	隅丸方形か	(11)×(75)	20.0		石敷
	SK2	隅丸方形か	(17)×(100)	29.0		石敷
	SK3	隅丸方形か	87×(47)	26.8	土師器	石敷
	SK4	楕円形	85×(46)	28.0	土師器	石敷
	SK5	楕円形	77×(47)	12.0	土師器	
	SK6	不整形	(80)×132	11.7	須恵器	SX1を切る。
不明遺構	SX1	不整形		4.9	陶器、磁器	樹根か。SK6に切られる。

表16 F・G調査区第2遺構面遺構観察表

種類	遺構番号	平面形態	平面規模(cm)	深さ(cm)	出土遺物	備考
ピット	Pit1	楕円形か	不明×不明	20.0	土師器、須恵器	攪乱に切られる。

表17 F・G調査区第3遺構面遺構観察表

種類	遺構番号	平面形態	平面規模(cm)	深さ(cm)	出土遺物	備考
ピット	Pit1	円形か	42×不明	23.9		
	Pit2	楕円形	30×34	17.0		
	Pit3	楕円形	32×36	20.0		
	Pit4	楕円形	22×28	11.0		
土壌	SK1	楕円形	70×242	42.5	土師器、須恵器	
	SK2	楕円形	44×75	17.0		
	SK3	楕円形	(28)×83	16.0	土師器	
	SK4	楕円形	79×84	84.0		SK6を切る。
	SK5	楕円形	約65×70	15.0	縄文土器	
	SK6	楕円形か	132×(77)	71.0	土師器、須恵器	SK4に切られる。
	SK7	楕円形か	(90)×(110)	19.0	土師器	
	SK8	楕円形か	(29)×(116)	107.0	土師器、須恵器	
	SK9	楕円形か	(60)×(145)	76.0		
	SK10	楕円形	(38)×(72)	47.0		
	SK11	楕円形か	(37)×(120)	81.0	土師器	
	SK12	楕円形か	(70)×(140)	72.0		
不明遺構	SX1		88×(180)	25.0	土師器	

表18 H調査区遺構観察表

種類	遺構番号	平面形態	平面規模(cm)	深さ(cm)	出土遺物	備考
ピット	Pit1	円形	径15	10.3		
土壌	SK1	楕円形か	(50)×(65)	39.0	土師器	



写真109 A調査区南東壁土層断面(北から)



写真110 B調査区南端部土層断面(北から)



写真111 C調査区南西壁土層断面(東から)



写真112 A調査区第1遺構面(南東から)



写真113 B調査区第1遺構面検出状況(北東から)



写真114 B調査区第1遺構面完掘状況(北東から)



写真115 C調査区第1遺構面完掘状況(南東から)



写真116 A調査区第2遺構面完掘状況(北から)



写真117 C調査区第2遺構面検出状況(南東から)



写真118 C調査区北西部第2遺構面検出遺構半裁状況(南から)



写真119 A調査区第2遺構面SK1半裁状況(南東から)



写真120 A調査区第2遺構面SK2半裁状況(北から)



写真121 C調査区第2遺構面SK3半裁状況(南西から)



写真122 A調査区第3遺構面検出状況(北東から)



写真123 B調査区第3遺構面遺構検出状況(北東から)



写真124 B調査区第3遺構面完掘状況(北東から)



写真125 B調査区第3遺構面Pit11・SK1半裁状況(北東から)



写真126 C調査区第3遺構面検出状況(南東から)



写真127 C調査区第3遺構面完掘状況(南東から)



写真128 C調査区北西部第3遺構面検出遺構半裁状況(南から)



写真129 D調査区南西壁土層断面(東から)



写真130 D調査区第1遺構面検出遺構半裁状況(南東から)



写真130 D調査区作業風景(北から)



写真131 D調査区第1遺構面検出遺構半裁状況(南東から)



写真132 D調査区第2遺構面検出状況(南東から)



写真133 D調査区第2遺構面完掘状況(南東から)



写真134 D調査区第2遺構面SK1土層断面(南西から)



写真135 D調査区第3遺構面検出状況(南東から)



写真136 D調査区第3遺構面完掘状況(南東から)



写真137 D調査区北西部第3遺構面検出状況  
(東から)



写真138 D調査区第3遺構面SK1土層断面  
(北東から)



写真139 D調査区第3遺構面SX1土層断面(南から)



写真140 E調査区南東壁土層断面(北から)



写真141 F調査区南西部南東壁土層断面(北西から)



写真142 G調査区南東壁土層断面(北から)



写真143 F調査区第1遺構面SK1~4半裁状況  
(北東から)



写真144 G調査区南西部第1遺構面検出状況  
(北東から)



写真145 G調査区北東部第1遺構面検出状況  
(北東から)



写真146 G調査区第1遺構面Pit7検出状況  
(北東から)



写真148 F調査区第2遺構面Pit1竈形土器出土状況  
(北東から)



写真149 F調査区第2遺構面Pit1土層断面  
(北東から)



写真147 G調査区第1遺構面完掘状況(北東から)



写真150 F調査区第3遺構面完掘状況(北東から)





写真151 F調査区第3遺構面SK1~3半裁状況  
(北東から)



写真152 F調査区第3遺構面SX1検出状況  
(北東から)



写真153 F調査区第3遺構面SK4半裁状況  
(南西から)



写真154 F調査区第3遺構面SK5半裁状況  
(南から)



写真155 F調査区第3遺構面SK6検出状況  
(南東から)



写真156 F調査区第3遺構面SK6土層断面  
(南東から)



写真157 F調査区第3遺構面SK7・8土層断面  
(南東から)



写真158 G調査区第3遺構面SK9土層断面  
(北西から)



写真159 G調査区第3遺構面SK10土層断面  
(南東から)



写真160 G調査区第3遺構面SK11土層断面  
(南東から)



写真161 G調査区第3遺構面SK12土層断面  
(北西から)



写真162 H調査区完掘状況(東から)

(6)本発掘調査出土遺物(図95～97・写真163～166)

**a.B調査区出土遺物**

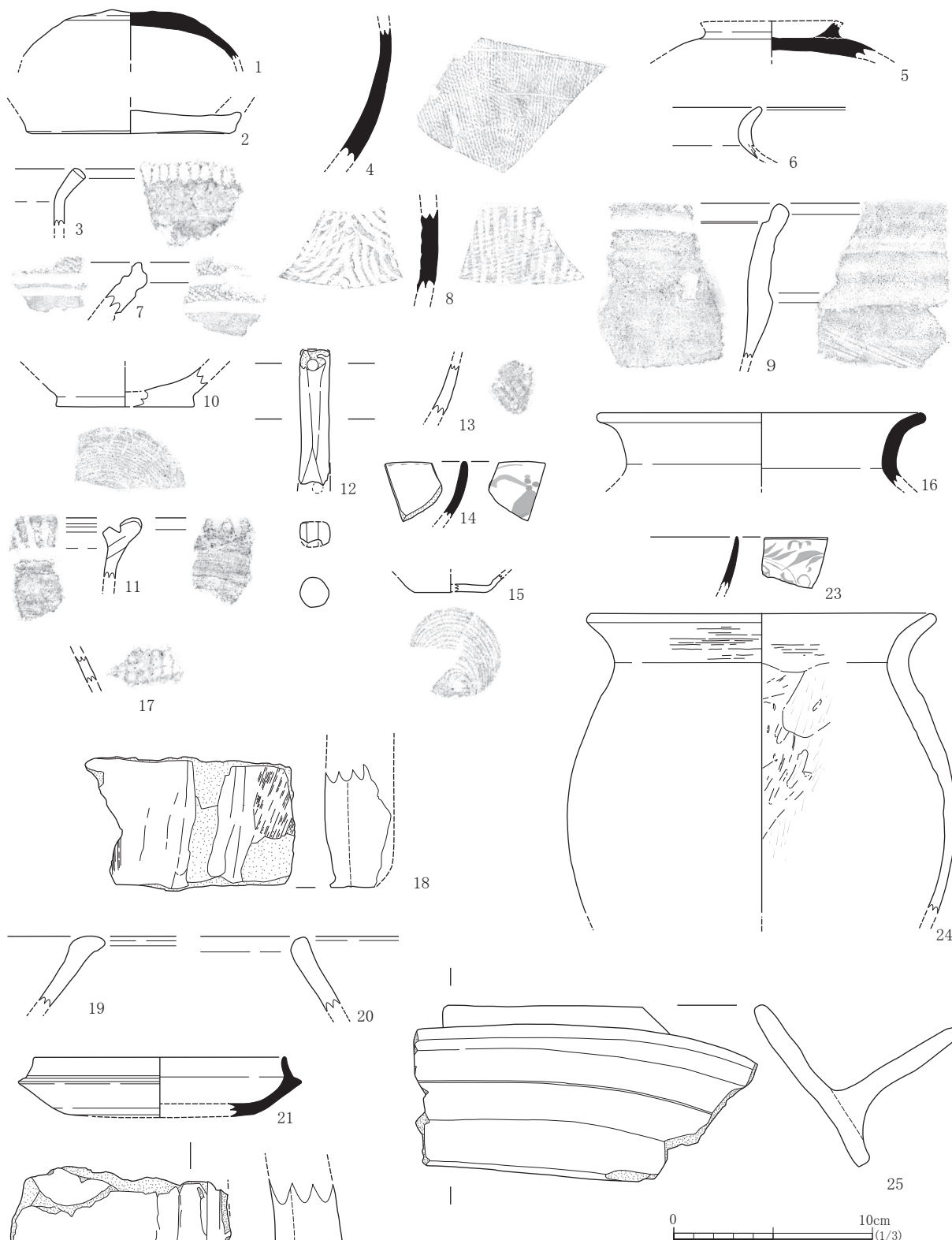
1は第3-2・3・5層出土。須恵器坏蓋。2・3は第3-8層出土。2は縄文土器深鉢底部。後～晩期か。3は弥生時代前期の甕口縁部。4は第1遺構面検出時出土。陶質土器壺もしくは甕の胴部で、外面には縄蓆文タタキの後、2条の沈線、内面にナデを施す。5・6は第2遺構面Pit11出土。5は輪状つまみを持つ須恵器坏蓋。6は土師器甕の口縁部。7は第4-4層出土。縄文時代後期(磨消縄文系)の深鉢口縁部。口縁部内面に2条の沈線を施す。また、口唇部と外面の沈線間にRLの縄文を施す。8は第3遺構面Pit8出土。外面に平行タタキ・カキメ、内面に同心円当て具痕が残る。

**b.C調査区出土遺物**

9・10は第1-2遺構面SK3出土。9は縄文時代晩期中葉(岩田IV類)の深鉢口縁～胴部。胴部外面に二枚貝条痕が残る。10は土師器埴底部。底面は糸切り。11・12は第2遺構面Pit12出土。11は縄文時代後期深鉢口縁部。12は棒状土錘。下端部を欠損するが、上下端部を穿孔する。13は第2遺構面SK3出土。韓式系軟質土器の甕もしくは鉢の胴部片<sup>註1</sup>。胴部外面に格子目タタキを施す。

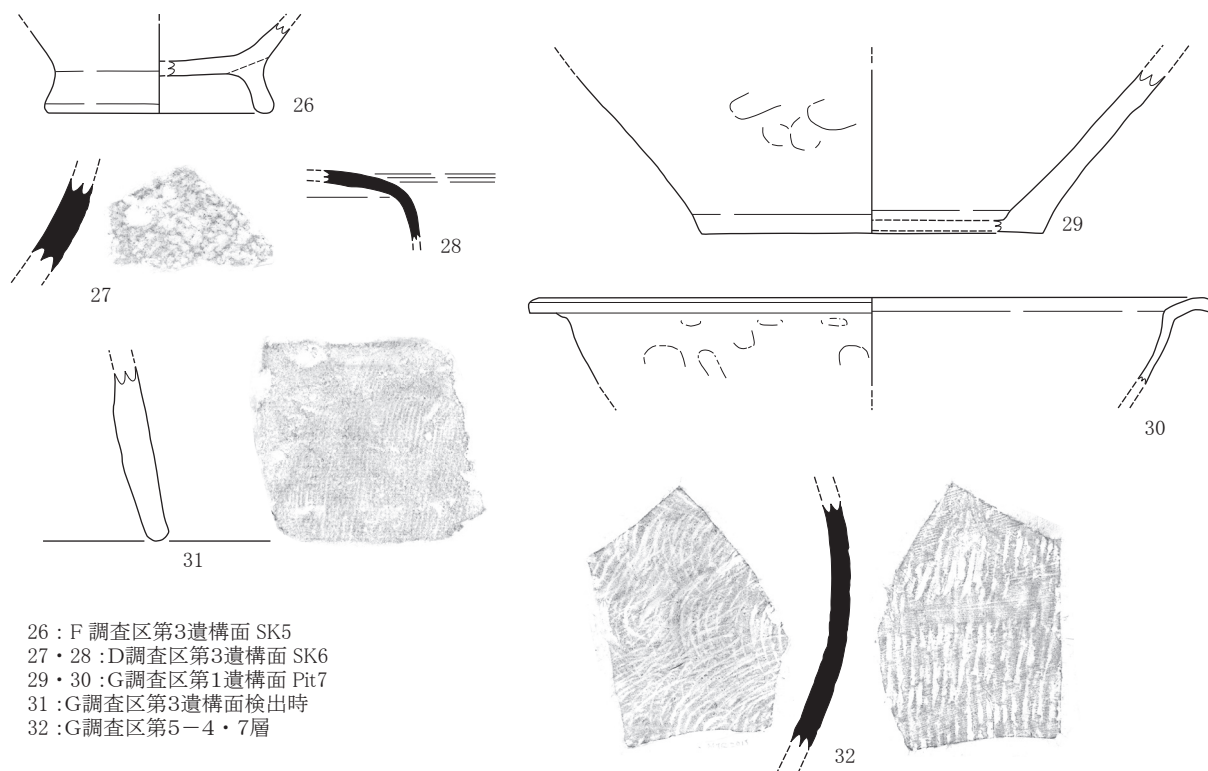
**c.D調査区出土遺物**

14は第1遺構面SD1出土。磁器碗。18世紀の肥前系のくらわんか碗。外面に草花文を染め付ける。15・16は第1遺構面SX2出土。土師器皿。器壁が薄く硬質な焼成で底面は糸切り。近世と考えられる。16は須恵器甕口縁部。内外面にヨコナデを施す。17は第3-2層出土。韓式系軟質土器の甕もしくは鉢の胴部片。胴部外面に格子目タタキを施す。18は第3遺構面検出時出土。土師器竈形土器の基部。底部を



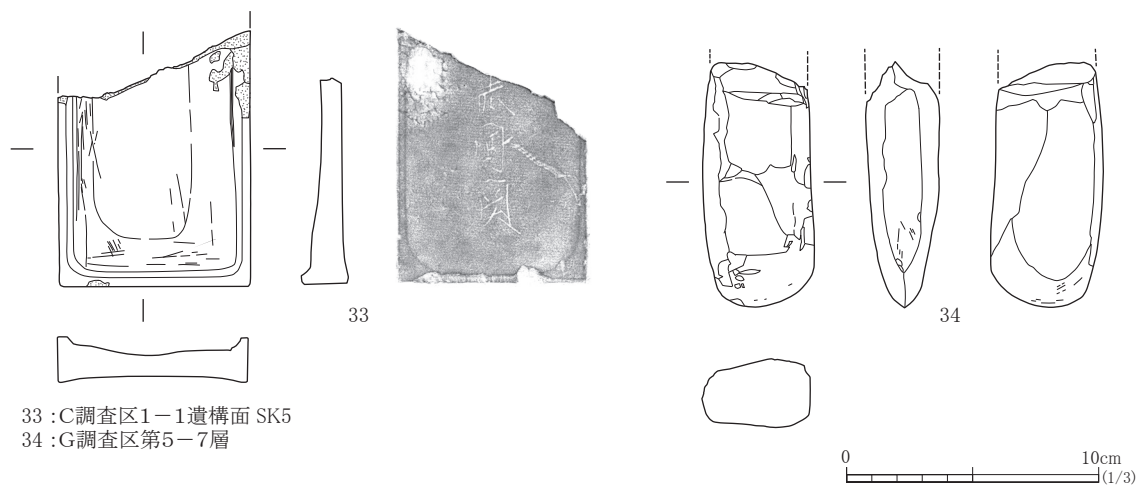
- |                         |                        |
|-------------------------|------------------------|
| 1 : B調査区第3-2・3・5層       | 14 : D調査区第1遺構面 SD1     |
| 2・3 : B調査区第3-8層         | 15・16 : D調査区第1遺構面 SX2  |
| 4 : B調査区第1遺構面検出時        | 17 : D調査区第3-2層         |
| 5・6 : B調査区第2遺構面 Pit11   | 18 : D調査区第3遺構面検出時      |
| 7 : B調査区4-4層            | 19・20 : D調査区第3遺構面 SX1  |
| 8 : B調査区第3遺構面 Pit8      | 21 : D調査区第3遺構面 SK1     |
| 9・10 : C調査区1-2遺構面 SK3   | 22 : D調査区第3遺構面 SK2     |
| 11・12 : C調査区第2遺構面 Pit12 | 23 : F調査区第1遺構面 Pit1    |
| 13 : C調査区第2遺構面 SK3      | 24・25 : F調査区第2遺構面 Pit1 |

図95 出土遺物実測図①



26 : F 調査区第3遺構面 SK5  
 27・28 : D調査区第3遺構面 SK6  
 29・30 : G調査区第1遺構面 Pit7  
 31 : G調査区第3遺構面検出時  
 32 : G調査区第5-4・7層

図 96 出土遺物実測図②



33 : C調査区1-1遺構面 SK5  
 34 : G調査区第5-7層

図 97 出土遺物実測図③

欠損する。19・20は第3遺構面SX1出土。19は縄文時代晩期の浅鉢口縁部。20は土師器竈形土器の掛口部。21は第3遺構面SK1出土。須恵器坏身。22は第3遺構面SK2出土。土師器竈形土器の基部付近で、把手の剥離痕がある。突帯は底の一部であろう。

#### d.F調査区出土遺物

23は第1遺構面Pit1出土。18世紀後半の肥前系磁器碗。外面に草花文を染め付ける。24・25は第2遺構面Pit1出土。24は土師器甕。口縁部内外面にヨコナデ、胴部内面に下から上方向のケズリを施す。胴部にはススが付着する。25は土師器竈形土器の掛口～底部。外面にはススがわずかに残る。26は第3遺構面SK5出土。縄文時代後～晩期の深鉢底部。底部は貼り付けている。27・28は第3遺構面SK6出土。27は須恵器甕の胴部。焼成不良で外面に格子目タタキを施す。28は須恵器坏蓋。



写真 163 出土遺物①

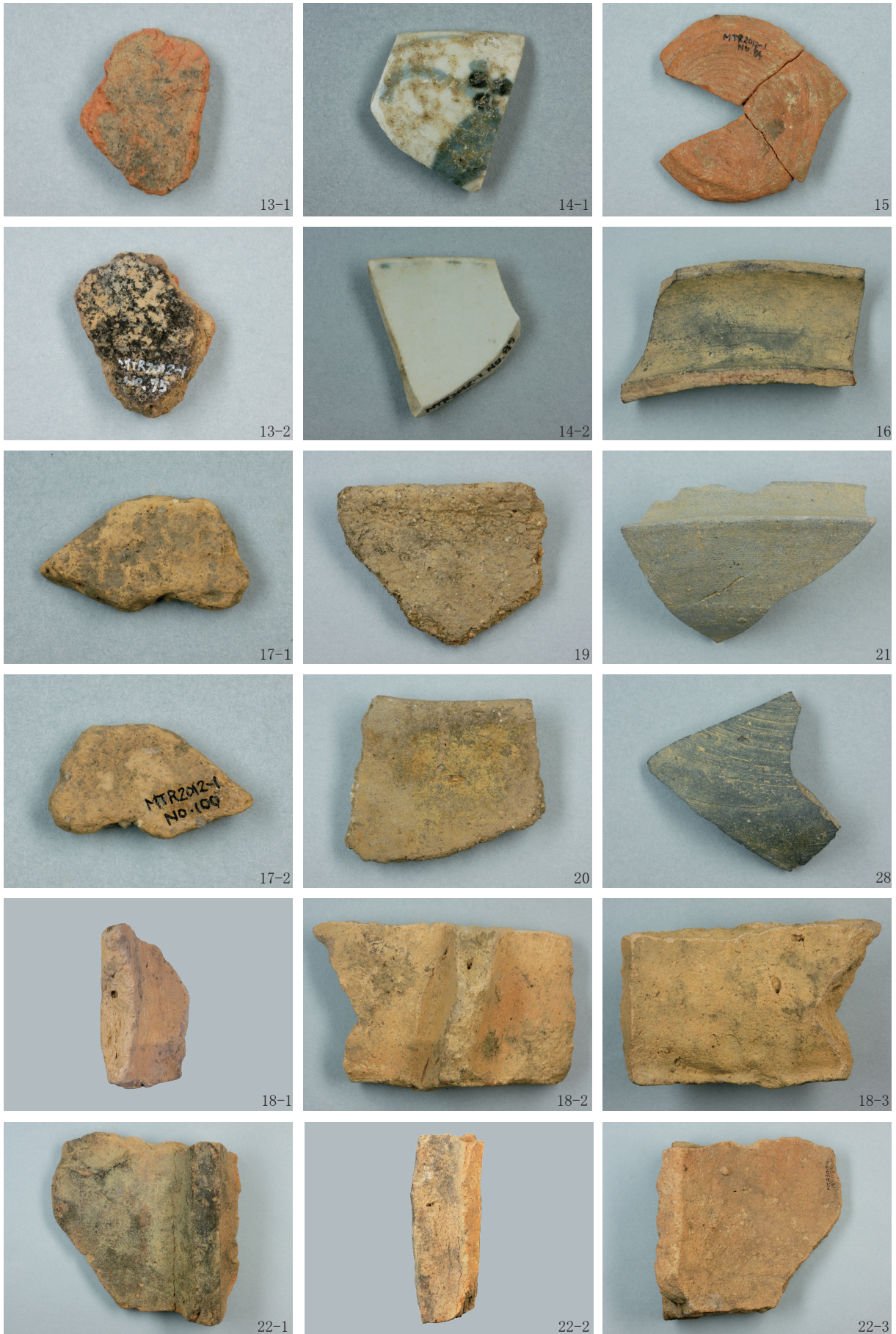


写真 164 出土遺物②



写真 165 出土遺物③

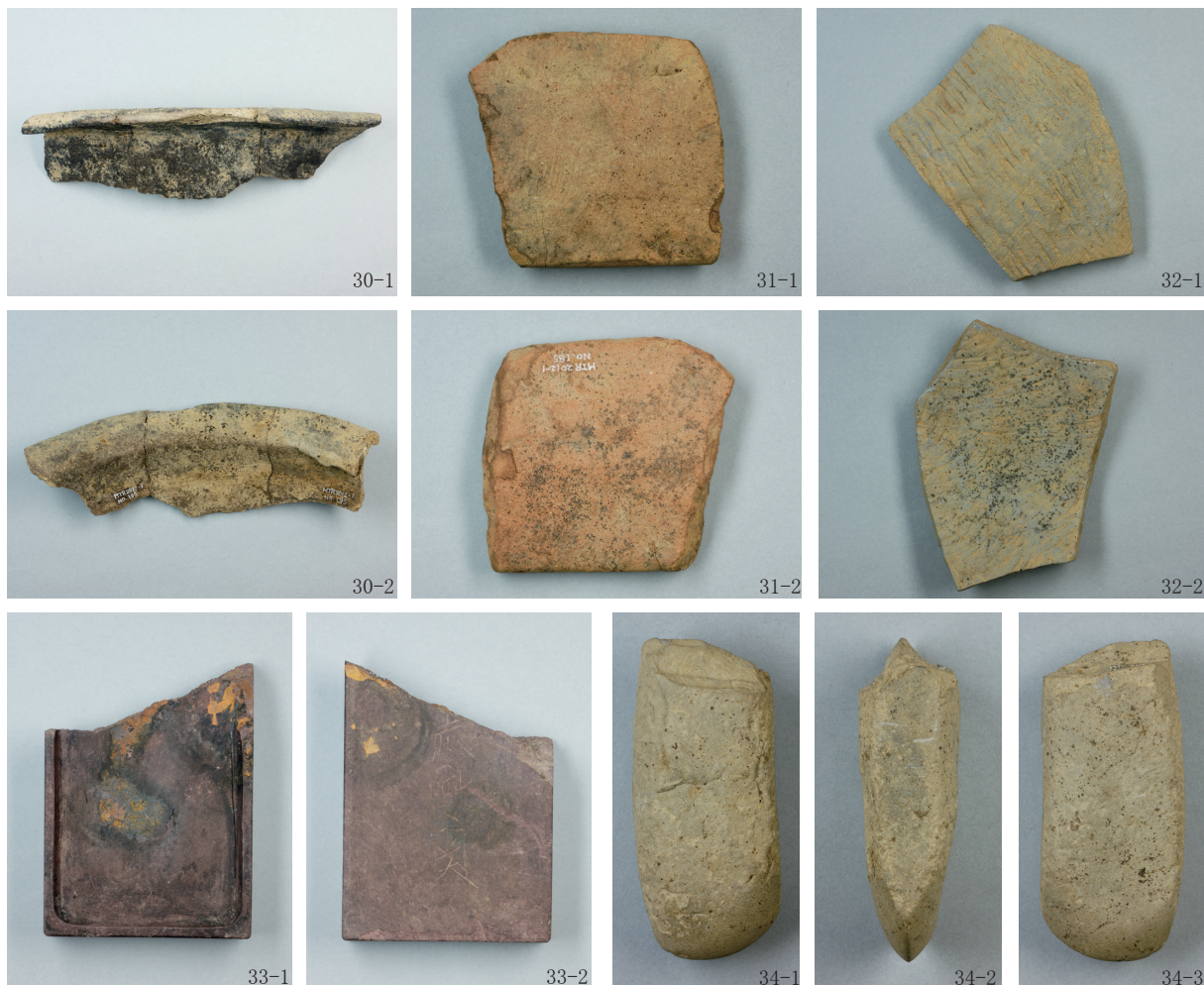


写真 166 出土遺物④

表19 出土遺物(土器・土製品)観察表

法量( )は復元値

遺物 番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm)		色調		胎土	備考
				①口径②底径③器高		①外面 ②内面			
1	B調査区 第3-2・3・5層	須恵器 坏蓋	天井部 ~脚部			①灰色(N5/0) ②灰色(N4/0)		0.1~5mmの砂粒を含む	機械掘削 時出土
2	B調査区 第3-8層	縄文土器 深鉢	底部	②(10.6)		①灰色(5Y4/1) ②にぶい黄色(2.5Y6/3)		0.1~3mmの砂粒を含む	
3	B調査区 第3-8層	弥生土器 甕	口縁部			①②にぶい黄色(2.5Y6/4)		0.1~2mmの砂粒を 含む	
4	B調査区 第1 遺構面検出時	陶質土器 壺	胴部			①灰黄色(2.5Y6/2) ②灰黄褐色(10YR5/2)		0.1~1mmの砂粒を含む	
5	B調査区 第2遺構面Pit11	須恵器 坏蓋	天井部			①②オリーブ黄色(5Y6/3)		0.1~3mmの砂粒を含む	
6	B調査区 第2遺構面Pit11	土師器 甕	口縁部			①にぶい黄色(2.5Y6/4) ②黄灰色(2.5Y4/1)		0.1~2mmの砂粒を含む	
7	B調査区 第4-4層	縄文土器 深鉢	口縁部			①②にぶい黄色(2.5Y6/3)		0.1~1mmの砂粒を含む	
8	B調査区 第3遺構面Pit8	須恵器 甕	胴部			①②灰色(5Y6/1)		0.1~1mmの砂粒を含む	
9	C調査区 1-2遺構面SK3	縄文土器 深鉢	口縁部 ~胴部			①②にぶい黄褐色 (10YR6/4)		0.1~3mmの砂粒を含む	
10	C調査区 1-2遺構面SK3	土師器 埴	底部	②(7.0)		①にぶい黄橙色(10YR6/3) ②にぶい黄橙色(10YR6/4)		0.1~3mmの砂粒を含む	
11	C調査区 第2遺構面Pit12	縄文土器 深鉢	口縁部			①にぶい黄色(2.5Y6/4) ②にぶい黄褐色(10Y6/4)		0.1~3mmの砂粒を含む	
12	C調査区 第2遺構面Pit12	土錘	胴部	残存長6.9 最大幅1.5		①②にぶい橙色(7.5YR6/4)		0.1~5mmの砂粒を含む	重量18.4g
13	C調査区 第2遺構面SK3	韓式系軟質土 器 甕もしくは鉢	胴部			①にぶい橙色(7.5YR6/4) ②黒褐色(2.5Y3/1)		0.1~1mmの砂粒を含む	
14	D調査区 第1遺構面SD1	磁器 碗	口縁部			釉 灰色(7.5Y7/1) 素地 灰白色(7.5Y8/1)		精良	



遺物 番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調		胎土	備考
					①外面	②内面		
15	D調査区 第1遺構面SX2	土師器 皿	底部	②(2.8)	①明赤褐色(5YR5/6) ②にぶい赤褐色(5YR5/4)		精良	
16	D調査区 第1遺構面SX2	須恵器 甕	口縁部		①②灰色(N5/0)		精良	
17	D調査区 第3-2層	韓式系軟質土 器 甕もしくは鉢	胴部		①②にぶい黄褐色 (10YR6/4)		0.1~2mmの砂粒を含む	
18	D調査区 第3 遺構面検出時	土師器 甕形土器	基部		①橙色(7.5YR7/6) ②明黄褐色(10YR7/6)		0.1~3mmの砂粒を含む	
19	D調査区 第3遺構面SX1	縄文土器 浅鉢	口縁部		①②灰オリーブ色(5Y6/2)		0.1~3mmの砂粒を含む	
20	D調査区 第3遺構面SX1	土師器 甕形土器	掛口部		①にぶい黄色(2.5Y6/3) ②暗灰黄色(2.5Y5/2)		0.1~5mmの砂粒を含む	
21	D調査区 第3遺構面SK1	須恵器 坏身	口縁部 ~底部	①(13.7)	①②灰色(5Y6/1)		精良	
22	D調査区 第3遺構面SK2	甕形土器	底部		①黄灰色(2.5Y4/1) ②橙色(7.5YR6/6)		0.1~3mmの砂粒を含む	把手の 剥離痕あり
23	F調査区 第1遺構面Pit1	磁器 碗	口縁部		釉 灰白色(10Y8/1) 素地 灰白色(5Y8/1)		精良	
24	F調査区 第2遺構面Pit1	土師器 甕	口縁部 ~胴部		①オリーブ黄色(5Y6/3) ②にぶい橙色(5YR6/4)		0.1~5mmの砂粒を含む	
25	F調査区 第2遺構面Pit1	土師器 甕形土器	掛口部 底部		①にぶい黄褐色(10YR6/4) ②にぶい赤褐色(5YR5/4)		0.1~4mmの砂粒を含む	
26	F調査区 第3遺構面SK5	縄文土器 深鉢	底部		①浅黄色(2.5Y7/4) ②にぶい黄色(2.5Y6/4)		0.1~2mmの砂粒を 含む	
27	F調査区 第3遺構面SK6	須恵器 甕	胴部		①灰オリーブ色(5Y6/2) ②灰白色(5Y7/2)		0.1~4mmの砂粒を 含む	焼成不良
28	F調査区 第3遺構面SK6	須恵器 坏蓋	天井部 ~胴部		①②灰色(N4/0)		0.1~1mmの砂粒を多く 含む	
29	G調査区 第1遺構面Pit7	土師質土器 甕	胴部~ 底部	②(13.6)	①にぶい黄色(2.5Y6/3) ②浅黄色(2.5Y7/3)		0.1~5mmの砂粒を含む	
30	G調査区 第1遺構面Pit7	瓦質土器 鍋か	口縁部 ~胴部	①(27.2)	①黒褐色(2.5Y3/1) ②にぶい黄色(2.5Y6/3)		0.1~3mmの砂粒を含む	外面にスス 附着
31	G調査区 第3 遺構面検出時	土師器 甕形土器	基部		①にぶい褐色(7.5YR6/3) ②にぶい橙色(5YR6/4)		0.1~0.5mmの砂粒を含 む	
32	G調査区 第5-4・7層	須恵器 甕	胴部		①②灰色(N6/0)		0.1~1mmの砂粒を含む	

表20 出土遺物(石器・石製品)観察表

遺物 番号	遺構・層位	器種	法量(cm)	重量(g)	材質	備考
33	C調査区 第1-1遺構面SK5	硯	全長10.2 最大幅7.7 最大厚1.9	215.33	赤色 頁岩	赤間硯(銘 赤間関)
34	G調査区 第5-7層	石斧	全長9.7 最大幅4.4 最大厚3.0	191.3	安山岩 か	基部を欠損

### e.G調査区出土遺物

29・30は第2遺構面Pit7出土。29は土師質土器(佐野焼)甕の胴部～底部。内面にヨコナデ、外面に指頭痕が残る。30は近世の瓦質土器。鍋か。口縁部をL字状に折り曲げる。外面全体にススが厚く付着する。31は第3遺構面検出時出土土器。土師器竈形土器の基部。外面にタテハケ、内面にナデを施す。32は第5-4・7層出土。須恵器甕胴部。外面に平行タタキ・カキメを施し、内面には同心円状当て具痕が残る。

### f.C・G調査区出土石器・石製品

33はC調査区第1-1遺構面SK5出土。赤色頁岩製赤間硯。硯面には墨痕が顕著に残り、「赤間関」の銘を持つ。銘の特徴から、19世紀前半から後半に位置づけられる。<sup>註2</sup>34は磨製石斧。やや湾曲する素材を使用し、基部は欠損する。縄文時代と考えられる。

#### 【註】

- 1) 以下で報告する韓式系軟質土器の甕もしくは鉢とした胴部片は鍋・甕の一部である可能性もあるが、記載は省略する。
- 2) 岩崎仁志(2005)「近世赤間硯の銘について」山口考古学会(編)『山口考古』第25号,山口

### (7)本発掘調査小結

今回の本発掘調査の結果、A～G調査区では平成15年度調査区と近似する層序と第1～3遺構面を確認した。第1遺構面は近世～近代の遺構面と考えられる。ほとんどの遺構からは時期を示す遺物が出土しなかったが、G調査区第1遺構面Pit7では、近世の土師質土器と瓦質土器が出土し、第1遺構面が近世の遺構面であったことを示す貴重な成果が得られた。また、古墳時代と推測される第2～3遺構面については、深さ20cmに満たず、土師器、須恵器の小片を伴うピット、土壌が主体であった。遺構面形成層の多くが遺物包含層であることから、時期幅のある土器が出土した遺構もみられ、詳細な時期を断定できる遺構はほとんどない。しかし、F調査区では第2遺構面Pit1から古墳時代後期と推測される竈形土器、甕がまとまって出土した。関連して、遺構に伴うのかは断定できないが、韓式系軟質土器、陶質土器の出土も注目される。また、G調査区では深さ50cm以上の土壌が検出された。近似する土壌は平成2年度調査区でも検出されている。<sup>註2</sup>これらの土壌は掘立柱建物の一部の可能性があり、今後の面的な調査が待たれる。

一方、H調査区は他調査区と層序が大きく異なっていた。遺構面を1面確認し、土壌・ピットが各1基検出されたが、時期は不明である。第4～6層は遺物包含層であるが、摩滅した土器片が多いことから、附属中学校体育館敷地で検出された遺物包含層とは異なる可能性が高い。<sup>註3</sup>以上、今回の調査で検出した遺構の時期や機能については不明な点が多く、今後も丹念な調査を積み重ねていく必要がある。

#### 【註】

- 1) 横山成己(2005)「第1章第6節. 教育学部附属光小学校エレベーター昇降路他新設に伴う試掘・立会調査」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報-平成15年度-』,山口
- 2) 河村吉行(1992)「第3章 光構内教育学部附属光小学校運動場改修に伴う発掘調査」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報X』,山口
- 3) 福本幸夫(1966)「II 光市における先原史時代の遺跡」,福本幸夫(編)『先原史時代の光市』,光(山口)  
横山成己(2005)「付篇 光市文化センター所蔵の御手洗遺跡出土遺物」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報-平成15年度-』,山口

## (8) 立会調査の方法と経緯

排水管新設工事は本管に近い正門側から小・中学校校舎側、すなわち北西から南東方向へ進行する工程が生まれ、上流側の排水枡を掘削後、その間のルートを下流側から掘削する手順で計画された。しかし、工事の開始が遅れたため、最大4箇所同時に掘削することになった。掘削にあたっては、地盤が砂地である関係上、附属中学校校舎南側の一部を除く区域で矢板施工による掘削が行われた。矢板施工による掘削は現地地表下1m程度まで素掘りで、その後は矢板を打ちながら行った。

上記の工事対して、9月26日までは田畑・松浦が、以後は田畑が調査を担当した。両名の土層記載方法は異なるが、複数箇所でも同時に掘削が行われていた関係上、両名で層序の確認を行うことができなかったため、以下では両名が記録した層名で報告する。層名の詳細は記載を省略したが、「粗砂」「粗粒砂」とした層は0.5～3cm大の礫を含んでいた。層序・遺構の確認と記録は施工業者の全面的な協力を得て、矢板を打つ前に重点的に行った。矢板施工後は崩落と安全確保の問題から層序の確認が困難であった。このため、矢板施工後の層序の記録作業は一部の地点にとどめ、記録した地点においてもおおよその標高を記録するにとどまった。また、以下で報告する各地点で検出された遺構・包含層については、調査担当者が短時間に複数箇所を調査する必要があったほか、随所にみられた攪乱により、地点間の連続性についてはすべての関連箇所を確認できなかった。

報告にあたっては、工事範囲が構内の広範囲に及ぶため、便宜上北西部(23地点より北西)、南東部(23地点より南東)に分けて行う。層序の記載は、近似した層序がみられる複数地点については代表的な箇所、これまで近隣で調査が実施されていない場所に限定した。また、土色の詳細は柱状図に記載のあるものについては省略し、主要な遺構の埋土は冒頭にアルファベットを付して柱状図に記載した。出土遺物について記載のない遺構は遺物が出土していないことを示す。

## (9) 立会調査における層序と遺構(図98～103・写真167～224)

## a. 北西部

No.0の矢板施工前の層序は、①表土・造成土(層厚45cm)、②黒褐色粗砂(層厚10cm)、③にぶい黄色粗砂(層厚15cm)、④黒褐色粗砂(層厚5cm)、⑤にぶい黄色粗砂(層厚25cm以上)である。以下では、黄褐色系の粗砂の堆積を確認したが、壁面崩落のため、詳細は不明である。崩落した土層の下位掘削土と推測される排土から縄文土器片(図104-1)が出土した。掘削底面付近では層厚30cm以上の⑥灰白色粗砂を確認した。

1地点南西壁の層序は、①表土・造成土(層厚60cm)、②浅黄色粗砂(層厚10cm)、③浅黄色粗砂(礫多 層厚127cm)、④にぶい黄褐色粗砂(層厚約70cm)、⑤にぶい黄色粗砂(層厚約42cm)、⑥灰白色粗砂(層厚6cm以上)である。南西壁断面の②層上面で径80cm、深さ27cmのピットを検出した。

2地点東壁の層序は、①表土・造成土(層厚35cm)、②明黄褐色細砂(層厚20cm)、③明黄褐色礫(層厚80cm以上)である。2～3地点の②層からは土師器、韓式系軟質土器、須恵器片が出土した。また、③層上面でピットを2基検出した。Pit1は径33cm、深さ39cm、Pit2は長径20cm、短径18cm以上、深さ5cmである。また北東部では、③層上面で落ち込みを検出した。埋土はオリーブ褐色(2.5Y4/3)粗砂で、深さは37cmである。土師器、韓式系軟質土器、須恵器片が出土した。

3地点北壁の層序は①表土・造成土(層厚60cm)、②明黄褐色細砂(層厚28cm)、③灰色粗砂(層厚20cm以上)。③層は2地点から続く落ち込みの埋土と考えられる。土師器、陶質土器片(排土)が出土し

た。

4地点では土層の詳細は確認できなかったが、現地地表下85cm、褐色(10YR4/6)中礫混粗粒砂上面で径43cm、深さ15cmのピットを検出した。埋土からは土師器壺の底部片(図104-12)が出土した。

5地点では標高2.3m付近で深さ約20cmの落ち込みを検出した。この落ち込みの埋土からは縄文土器、土師器片が出土した。

No.2北西壁の層序は、①表土・造成土(層厚58cm)、②明黄褐色細砂(層厚25cm)、③オリーブ褐色粗砂(層厚25cm)、④淡黄色粗砂(層厚25cm以上)である。③層は4地点から続く落ち込みの埋土で、北西壁(幅約2m)の範囲では、南西から北東にかけて緩やかに傾斜して堆積しており、6地点まで続いていた。③層からは縄文土器、土師器片が出土し、土師器には完形近く復元できる甕(図104-14)も含まれていた。また、③層上面で直径45cm、深さ約20cmのピットを検出し、土師器片が出土した。

7地点では、幅約11mの範囲で遺物包含層が検出された。約7-1地点(No.2より4m南東)北西壁の層序は①表土・造成土(層厚72cm)、②明黄褐色細砂(層厚20cm)、③黒褐色粗砂(層厚30cm以上)である。③層は遺物包含層である。落ち込みの埋土である可能性もあるが、始点を確認できなかったため、遺物包含層として扱う。同層からは土師器、韓式系軟質土器、韓式系瓦質土器、陶質土器、須恵器片が出土した。遺物はNo.2より南東4m付近で出土のものを北西部1、No.2より南東4~7.5m出土のものを北西部2、No.2より南東7.5~11mで出土のものを南東部として報告する。

また、7-2地点(No.2より4.5m南東)では、現地地表下61cm、標高2.69mの浅黄色細砂上面で埋甕を検出し、佐野焼甕の胴部~底部が出土した。上半部が失われていることから、近世遺構面が大幅に削平されていることが判明した。

8地点では、幅約5mに渡って、煉瓦による基礎が検出された。昭和前半以前の前身施設の建物跡と考えられる。

9地点では、幅約5mに渡って遺物包含層が検出された。No.2より21m南東における南西壁の層序は、①表土・造成土(層厚70cm)、②浅黄色細砂(層厚30cm)、③黄灰色細砂・黒褐色粗砂(層厚20cm以上)である。③層は遺物包含層である。No.2より22m南東では層厚約30cmで、縄文土器、土師器、韓式系瓦質土器、須恵器片が出土した。

10地点は、②層までは9地点と層序が近似する。標高2.2mで、層厚8cm以上の遺物包含層である③灰オリーブ色粗砂を検出した。②・③層からは土師器、六連式製塩土器片が出土した。また同層上面で長径50cm、短径38cm、深さ18cmのピットを検出した。このピットからは、弥生土器片が出土した。

11地点北西壁の層序は、①-1・2表土・造成土(層厚約38cm)、②褐色細粒砂(層厚約19cm)、③にぶい黄褐色中~極粗粒砂(層厚約27cm)、④にぶい黄褐色粗粒砂(層厚8cm以上)である。北西壁では、③層上面でピット1基、④層上面でピット1基を検出した。また、床面では④層上面で直径30cmのピットを2基検出した。ピットの深さは各々9・19cmである。これらのピットからは土師器片が出土した。また、12地点北東壁でも④層上面でピットを2基検出した。

No.2-1地点北東壁の層序は、①表土・造成土(層厚160cm)、②淡黄色系粗砂(層厚156cm以上)である。崩落と掘削底面付近の湧水が激しかったため、造成土以下の層序を明確に確認できなかった。なお、これより北東側の管路でも現地地表下1m前後の掘削が行われたが、造成土の範囲内であった。

13地点南東壁の層序は①表土・造成土(層厚78cm)、②浅黄色細砂(層厚25cm)、③暗灰黄色粗砂(層厚15cm)、④灰黄色粗砂(層厚20cm)である。南東側では②層の下に⑤褐色粗砂(層厚20cm)が見られた。③層は落ち込みの埋土とみられ、少なくとも幅が4mあり、埋土からは土師器片が出土した。②層

上面では直径80cm、深さ25cmのピットを検出した。遺物はないが、近世の遺構と考えられる。また、床面の⑤層上面で長径45cm、短径40cm、深さ20cm以上のピットを検出した。埋土からは土師器、六連式製塩土器片が出土した。

14地点では、②層までは13地点と同じ層序で、標高2.3m付近で暗灰黄色(2.5Y4/2)粗砂を検出した。同層は幅約3.5mあり、落ち込みの埋土と考えられる。埋土から土師器、須恵器片が出土した。また、同層上面で直径25cm、深さ12cmのピットを検出した。

15地点北東壁の層序は、①表土・造成土(層厚17cm)、②浅黄橙色極細粒～極粗粒砂(層厚50～60cm)、③褐色極粗粒～細粒砂(層厚16～20cm)、④にぶい黄褐色細粒～中粒砂(層厚48～59cm)で、その下位にはさらに⑤～⑦層が堆積する。②層は13・14地点の②層と同一層と考えられる。14～15地点の②層からは韓式系軟質土器片が出土した。また、15地点③層からは土師器、土師質土器、瓦質土器、陶器、磁器片が出土したことから近世の遺物包含層と考えられる。このほか、④層上位からは土師器、須恵器、韓式系軟質土器、土師質土器片が出土した。

16地点北東壁の層序は、①表土・造成土(層厚31cm)、②明黄褐色極細粒～極粗粒砂(層厚41cm)、③にぶい黄褐色細～中礫(層厚29cm)、④明黄褐色極粗粒砂～細礫(層厚16cm)、⑤褐色細～極粗粒砂(層厚8cm)、⑥暗灰黄色極粗粒砂混じり中粒砂(層厚20cm)、⑦にぶい黄橙色中～極粗粒砂(層厚23cm)、⑧灰黄褐色粗～中粒砂(層厚19cm)、⑨暗灰黄色中礫～細礫(層厚8cm)、⑩明黄褐色細粒～極粗粒砂(層厚20cm以上)である。④～⑤層上面から、縄文土器、土師器、韓式系軟質土器、須恵器、土師質土器、陶器、磁器片が出土した。⑤層は本発掘調査で確認された第1遺構面形成層に対応すると考えられる。

17地点の層序は、①表土・造成土(層厚29cm)、②灰白色(10YR8/2)粗砂、③褐色(10YR3/3)粗砂である。③層上面の標高は2.71mで、同層からは近世磁器碗底部片が出土した。

18地点北東壁の層序は、①表土・造成土(層厚25cm)、②灰白色粗砂(層厚60cm)③暗灰黄色粗砂(層厚40cm)、④黒色粗砂(層厚20cm以上)である。④層は幅約3mに渡り分布するが、明確に落ち込む箇所は確認していない。④層からは弥生土器、土師器、韓式系軟質土器片が出土した。

19地点では現地地表下約30cm(造成土直下)、標高2.98m付近で幅2mに渡って、近代とみられる石積を確認し、20地点でも幅約3mに渡って、同様の石積を確認した。

No.5では、現地地表下29cm(造成土直下)、標高2.96mの浅黄色(5Y7/3)粗砂上面で、幅95cm、深さ47cmの石敷暗渠を検出した。

21地点北東壁の層序は、①表土・造成土(層厚19cm)、②褐色極細粒～極粗粒砂(層厚35cm)、③褐色～にぶい黄褐色細粒～極粗粒砂(層厚21cm)、④にぶい黄褐色細粒～粗粒砂(層厚80cm)、⑤暗褐色・にぶい黄褐色極粗粒砂～細礫(層厚33cm)、⑥にぶい黄橙色極粗粒砂～細礫である。②層上面では幅約3mに渡って近代とみられる石垣を確認した。22地点では、21地点の③層と思われる土層から業者により弥生土器片が採集された(図106-60)。

23地点北東壁の層序は、①表土・造成土(層厚90cm)、②明黄褐色中粒～極粗粒砂(層厚63cm)、③黒褐色中粒～極粗粒砂(層厚8cm)、④黒褐色～暗褐色中粒～極粗粒砂(層厚26cm)、⑤黒褐色～暗褐色中粒～極粗粒砂(④層より礫を多く含む 層厚3cm以上)である。重機掘削の際、③～⑤層で土師器片が出土したが、上層からの混入である可能性がある。

24地点では、現地地表下51cmのにぶい黄橙色細～粗粒砂上面で、北西-南東方向の石敷暗渠が検出された。

## b.南東部

25地点では、現地表下約42cmの淡黄色(2.5Y8/4)粗砂上面で、直径35cm、深さ18cmのピットを検出した。ただし、埋土に淡黄色粗砂直上の灰黄褐色粗砂(瓦片等あり)を含むことから、近世～近代の遺構と考えられる。

26地点では、現地表下40cm、標高2.83mの淡黄色(2.5Y8/4)粗砂上面で直径18cm、深さ10cmのピットを2基検出した。平成15年度調査区の第2遺構面との対応が考えられる。

No.6北東・北西壁の層序は、①表土・造成土(層厚約100cm)、②にぶい黄褐色極粒細砂(層厚約5cm)、③浅黄橙色中粒～極粒細砂(層厚約20cm)、④灰黄褐色極粒細砂(層厚25cm程度か 一部崩落)、⑤暗褐色極粒粗砂～中礫(層厚約35cm)、⑥黄褐色細～中礫と褐色中粒砂～細礫の互層(層厚約40cm)、⑦黒褐色粗粒砂・中礫(水分多い)である。③層壁面から土師器片、⑤層掘削時に土師器片が出土した。

27地点(No.6より7.5m南西)では、矢板前底面の現地表下82cm、標高2.38mまでは造成土であった。また、矢板施工後は②淡黄色粗砂、③黄灰色粗砂の堆積を確認した。さらに掘削を進めた結果、標高1.96mで④黒褐色粗砂(水分多い 層厚53cm)を検出した。底面は⑤灰色粗砂であった。

④層はNo.6南西3.3～12m付近に分布する遺物包含層である。北東側ではさらに下降しているようであり、No.6の③～⑤層に続く可能性がある。過去に附属中学校体育館周辺で検出されている遺物包含層と一連である可能性が高い。④層の機械掘削は慎重に行い、排土は別置して遺物の回収に努めた。時間的制約から厳密な分層発掘ができなかったため、遺物は、北東部(No.6から南西3.3～7m)、南東部(No.6から南西7～12m)別に④・⑤層として取り上げ、土師器、韓式系軟質土器、陶質土器、須恵器片が出土した。ただし、排土出土を含めたほとんどの土器に④層が付着していたため、基本的には④層出土と判断できる。

28地点では、附属学校前身施設のものと考えられるコンクリート基礎を幅6.5mに渡って検出した。

29地点では、現地表下55cm、標高2.68mの明黄褐色(2.5Y7/6)上面で径37cm、深さ15cmのピットを検出した。本発掘調査A調査区第2遺構面に対応すると考えられる。

30地点では、現地表下64cm、標高2.37mのにぶい黄褐色(10YR5/4)粗砂上面で径25cm、深さ22cmのピットを検出した。本発掘調査A調査区第3遺構面に対応すると考えられる。

31地点では、現地表下37cmのB調査区第3～8層と同一と思われる黄褐色粗砂上面で近世～近代と考えられる径18cm、深さ39cmのピットを検出した。

No.6-2南東壁の層序は、①表土・造成土(層厚28cm)、②にぶい黄褐色(10YR3/4)粗砂(層厚35cm)、③褐灰色(10YR4/1)・黒褐色(10YR3/1)粗砂(層厚10～20cm)、④明黄褐色(10YR7/6)粗砂(層厚35cm)、⑤灰黄褐色(10YR5/2)粗砂(層厚30cm以上)であった。③層は標高約2.6mで検出した。本発掘調査D調査区第3遺構面SX1の延長部分の可能性もある。また、④層はD調査区第3遺構面に対応すると考えられる。同層上面で径18cm、深さ12cmのピットを検出した。

No.6-3南東壁の層序は、①表土・造成土(層厚52cm)、②にぶい黄褐色細砂(層厚24cm)、③灰黄褐色粗砂(層厚18cm)、④にぶい黄褐色細砂(層厚23cm)、⑤明黄褐色礫(層厚9cm)、⑥灰白色粗砂(層厚55cm以上)である。③層上面で幅100cm、深さ64cmの土壌を検出した。また、この土壌は⑤層上面から掘り込まれた土壌を切っていた。

32地点の層序はNo.6-3-1と近似する。現地表下80cm、標高2.72mのNo.6-3-1の④層上面で幅60cm、深さ10cmの不明遺構を検出した。

No.6-3-1南東壁の層序は、①表土・造成土(層厚52cm)、②淡黄色粗砂(層厚9cm)、③にぶい黄褐色粗砂(層厚8cm)、④黄褐色粗砂(層厚24cm)、⑤にぶい黄褐色粗砂(層厚23cm)、⑥明黄褐色粗砂(層厚10cm以上)である。④層上面で深さ24cmの溝もしくは落ち込みと考えられる遺構を検出した。⑤層上面では、北東壁で径50cm、深さ30cmの遺構断面を検出し、⑥層上面では、径22cm、深さ14cmのピットを検出した。

33地点北東壁の層序は、①表土・造成土(層厚41cm)、②褐色粗砂(層厚25cm)、③浅黄色粗砂(層厚20cm)、④淡黄色粗砂(層厚18cm)、⑤灰白色粗砂(層厚34cm以上)である。③層上面で径30cm、深さ15cmのピットと深さ16の溝もしくは落ち込みと考えられる遺構を検出した。

34地点の層序は①表土・造成土(層厚45cm)、②褐色(10YR4/4)粗砂で、以下は35地点と層序が近似する。標高2.86mの35地点②層上面で、径34cm、深さ20cmのピットを検出した。

35地点北西壁の層序は、①表土・造成土(層厚50cm)、②淡黄色細砂(層厚42cm)、③浅黄色粗砂(層厚15cm)、④灰白色粗砂(層厚33cm以上)である。②層上面で幅約150cm、深さ90cmの土壌もしくは溝と考えられる遺構を検出した。

36地点の層序は35地点と近似する。現地地表下60cmの35地点②層上面で幅98cm、深さ40cmの土壌と、幅72cm、深さ52cmの土壌を検出した。

No.6-4-5の層序も35地点と近似するが、③層上面が35地点より約15cm、④層上面が35地点より約20cm低い。②層を検出面として、南東壁では幅104cm、深さ77cmの土壌、北西壁では、幅77cm、深さ60cmの土壌を検出した。

No.6-5の層序は、①表土・造成土(層厚63cm)、②浅黄色(5Y7/3)細砂(層厚80)cm、③灰白色(2.5Y7/1)細砂(層厚16cm以上)である。掘削底面の標高は1.98mである。

37地点では、現地地表下約40cmの灰白色粗砂上面で石敷き暗渠を3箇所検出した。灰白色粗砂上面には褐色粗砂が20cm程度みられるが、これらの暗渠は近代の整地に伴うものである可能性がある。この地点よりNo.7間は掘削時の壁面崩落が著しく、層序を明確に確認できなかった。

No.7では現地地表下約2m、標高1.7mまで掘削を行った。底面近くの一部で灰白色(2.5Y8/1)粗砂を確認したが、大半は造成土の範囲内であった。

No.8南西壁の層序は、①表土・造成土(層厚30cm)、②暗褐色極細～中粒砂(層厚25cm)、③浅黄色細～極粗粒砂(層厚30cm)、④暗褐色細～粗粒砂(層厚55cm)、⑤暗褐色細～中粒砂(層厚20～56cm)、⑥黒色細～中粒砂(層厚5～36cm以上)である。④層からは近世～近代とみられる播鉢片が出土した。⑥層は南東側にかけて落ち込んでおり、過去の調査で確認されている遺物包含層<sup>註2</sup>である。No.8～No.8-1間で弥生土器、土師器、韓式系軟質土器、須恵器片が出土した。また、機械掘削による同層排土は別置して、遺物を回収したところ、ほとんどの遺物に⑥層が付着していた。

No.8-2北西壁の層序は①表土・造成土(層厚74cm)、②黄褐色細砂(層厚58cm)、③暗灰黄色粗砂(層厚16cm)、④黒色細砂(層厚22cm以上)である。④層はNo.8⑥層と一連の包含層である。④層上面の標高は1.97mで、No.8⑥層上面より17cm高い。なお、④層とNo.8⑥層の関連を確認できなかったため、No.8-1～2間の遺物は④層として取り上げた。

38地点の層序は、①表土・造成土(層厚95cm)、②暗褐色粗粒砂混じり中粒砂(層厚20cm)、③黒褐色細～中粒砂(層厚11cm)、④にぶい黄褐色粗粒砂～中粒砂(層厚25cm)、⑤④と同色か(崩落)極粗粒砂～細粒(層厚10cm以上)である。③層から遺物は出土しなかったが、No.8⑥層、No.8-2の④層と一連の層と考えられる。38地点より約2m北東では③層上面が約20cm低く、御手洗湾に向けて傾斜して

いる状況が確認できた。

39地点南西壁の層序は、現地地表下113cmまでが①表土・造成土で、以下113～143cmで②灰色(7.5Y4/1)粗砂・床面で③オリーブ黒色(5Y3/1)粗砂を検出した。②・③層は遺物包含層で、No9-1より南東3m付近から分布する。

40地点南西壁の層序は、①表土・造成土(層厚33cm)、②にぶい黄褐色粗砂(層厚50cm)、③灰色粗砂(層厚18cm)、にぶい黄褐色粗砂(層厚25cm以上)である。③・④層は41地点でも確認しており、41地点③層からは土師器片が出土した。また、40地点②層上面で石敷暗渠、④層上面で、幅65cm、深さ34cmの土壌を検出した。

No.9-3南西壁の層序は、①表土・造成土(層厚78cm)、②黄褐色(2.5Y5/4)礫、③黄褐色(2.5Y5/4)粗砂である。標高2.57mの②層上面から40地点③層と同一の灰色粗砂が北西方向に24cm落ち込んでいる状況が確認できた。なお、No.9-3より北西における管路の掘削底面はNo.9-2付近まで灰色粗砂であった。

No.9Bの層序は、①表土・造成土(層厚72cm)、②灰オリーブ色(5Y6/2)細砂、③にぶい黄褐色(10YR6/4)粗砂(層厚70cm)、④灰白色(2.5Y7/1)粗砂(層厚20cm以上)である。②層上面で径25cm、深さ10cmのピットを検出した。近世～近代の遺構と考えられる。また、標高2.175mの③層上面で長径40cm、短径30cm、深さ16cmのピットを検出した。

42地点の層序は、①表土・造成土(層厚55cm)、②にぶい黄色粗砂(層厚37cm)、③黒褐色粗砂(層厚21cm)、④にぶい黄褐色粗砂である。③層は遺物包含層で、土師器片が出土した。

No.9C北西壁の層序は、①表土・造成土(層厚66～70cm)、②にぶい黄色細砂(層厚47cm)、③にぶい黄褐色粗砂と黒褐色粗砂の互層(層厚45～50cm)、④明黄褐色細砂(層厚44cm)、⑤褐色粗砂(層厚20cm)、⑥黄色粗砂(層厚20cm)、⑦淡黄色細砂である。③層上面で径32cm、深さ50cmのピットを検出した。

43地点北西壁の層序は、①表土・造成土(層厚36cm)、②にぶい黄褐色(10YR5/4)細砂(層厚42cm)、③浅黄色(2.5Y7/4)細砂(層厚18cm、④淡黄色(2.5Y8/3)粗砂(層厚36cm以上)である。③層は平成23年度予備発掘B調査区6層<sup>註3</sup>と同一層と考えられる。②層上面で石敷暗渠、標高2.66mの③層上面で幅70cm、深さ53cmの土壌を検出した。

No.13の層序は①表土・造成土(層厚44cm)の直下が43地点③層であった。標高2.56mの③層上面で、幅120cm、深さ90cmの土壌を検出した。

44地点の層序はNo.13と近似する。標高3.0mの③層上面で径27cm、深さ17cmのピットと、幅35cm、深さ42cmのピットを検出した。

45地点の層序はNo.13・44地点と近似する。②層は43地点③層と同一層と考えられる。標高3.03mの②層上面で幅48cm以上、深さ21cmの遺構を検出した。また、やや削平を受けるが標高2.67mの②層上面でも、幅114cm、深さ40cmの土壌を検出し、土器片が1点出土した。

No.14南西壁の層序は、①表土・造成土(層厚48cm)、②暗灰黄色(2.5Y4/2)細砂(層厚19cm)、③浅黄色(2.5Y7/4)細砂(層厚55～67cm)、④灰白色(2.5Y8/1)粗砂である。③層は43地点③層と同一であるが、南東部では黄褐色(2.5Y5/3)粗砂となる。南西壁北西側では標高2.97mの③層上面に層厚約20cm黒褐色(2.5Y3/1)細砂があり、幅約100cm、深さ67cmに渡って落ち込んでいた。掘方は確認できなかったが、遺構の一部と考えられる。また、南西壁南東側では、標高3.0mの③層上面で幅53cm以上、深さ54cmの遺構断面を確認した。



46地点南西壁の層序は、①表土・造成土(層厚46cm)、②黒褐色細砂(③を斑状に含む 層厚約13cm)、③黄褐色粗砂(淡黄色粗砂を斑状に含む 層厚26cm以上)である。②層はNo.14②層と同一層と考えられる。②層上面で幅103cm、深さ39cmの土壌を検出した。ただし、土壌の埋土は②層と近似しているため、掘方は不明確であった。

47地点北東壁の層序は、①表土・造成土(層厚31cm)、②にぶい褐色粗砂(層厚11cm)、③黒褐色細砂(層厚35cm)、④にぶい黄褐色細砂(層厚48cm以上)で、48地点と近似する。③層は幅170cm、深さ48cmに渡って落ち込んでいた。掘方は確認できなかったが、遺構と考えられる。

48地点北東壁の層序は、①表土・造成土(層厚16cm)、②にぶい褐色粗砂(層厚22cm)、③黒褐色細砂(層厚21cm)、④にぶい黄褐色細砂(層厚54cm以上)である。標高3.37mの②層上面で直径62cm、深さ85cmの土壌(埋甕)を検出した。埋土中心部に佐野焼甕があり、内部は灰黄褐色粗砂と礫であった。また、甕の周囲の埋土は橙色粘土であった。全体を掘削していないこともあり、出土した甕を復元するには至らなかったが、埋設された甕は、口縁部形態から19世紀～20世紀に位置づけられる(図110-147)。この遺構により②層が近世～近代の遺構面であることが判明した。

49地点の層序は48地点と近似する。①表土・造成土(層厚32cm)の直下が48地点③層(層厚23cm)であり、幅90cm、深さ24cmに渡って落ち込んでいた。掘方は確認できなかったが、遺構と考えられる。

No.16南西壁の層序は、①表土・造成土(層厚42cm)、②にぶい黄褐色細砂(層厚106cm)、③灰白色粗砂である。②層は48地点④層と同一層である。北西側の一部は攪乱を受けるが、標高3.09mで幅95cm、深さ106cmの土壌を検出した。

50地点はNo.16と層序が近似する。標高2.61mのNo.16②層上面で幅68cm、深さ40cmの土壌と幅110cm、深さ62cmの土壌を検出した。

No.17南西壁の層序は、①表土・造成土(層厚59cm)、②にぶい黄褐色(10YR5/4)細砂(層厚15cm)、③にぶい黄褐色(2.5Y6/4)細砂(層厚59cm)、④灰白色(2.5Y8/2)細砂である。③層は16地点②層と同一層である。

No.5-7北西壁の層序は、①表土・造成土(層厚58~86cm)、②黒褐色細砂(層厚2~15cm)、③灰白色粗砂(層厚10~14cm)、④灰黄褐色細砂(層厚2~20cm)、⑤にぶい黄橙色粗砂(層厚80cm以上)である。②層は遺構埋土の可能性もある。なお、No.5-7より北東、No.5-6-3に至る管路の大半は南東側に位置する共同溝埋土と重複していた。また、附属小学校体育館前からNo.5-6に至る管路は攪乱が著しい状況であった。

#### 【註】

1) 福本幸夫(1966)「II 光市における先原史時代の遺跡」,福本幸夫(編)『先原史時代の光市』,光(山口)

横山成己(2005)「付篇 光市文化センター所蔵の御手洗遺跡出土遺物」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報-平成15年度-』,山口

2) 前掲註1)

3) 田畑直彦(2013)「第5節1 教育学部附属光学校下水道接続工事に伴う予備発掘調査」山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報-平成23年度-』,山口

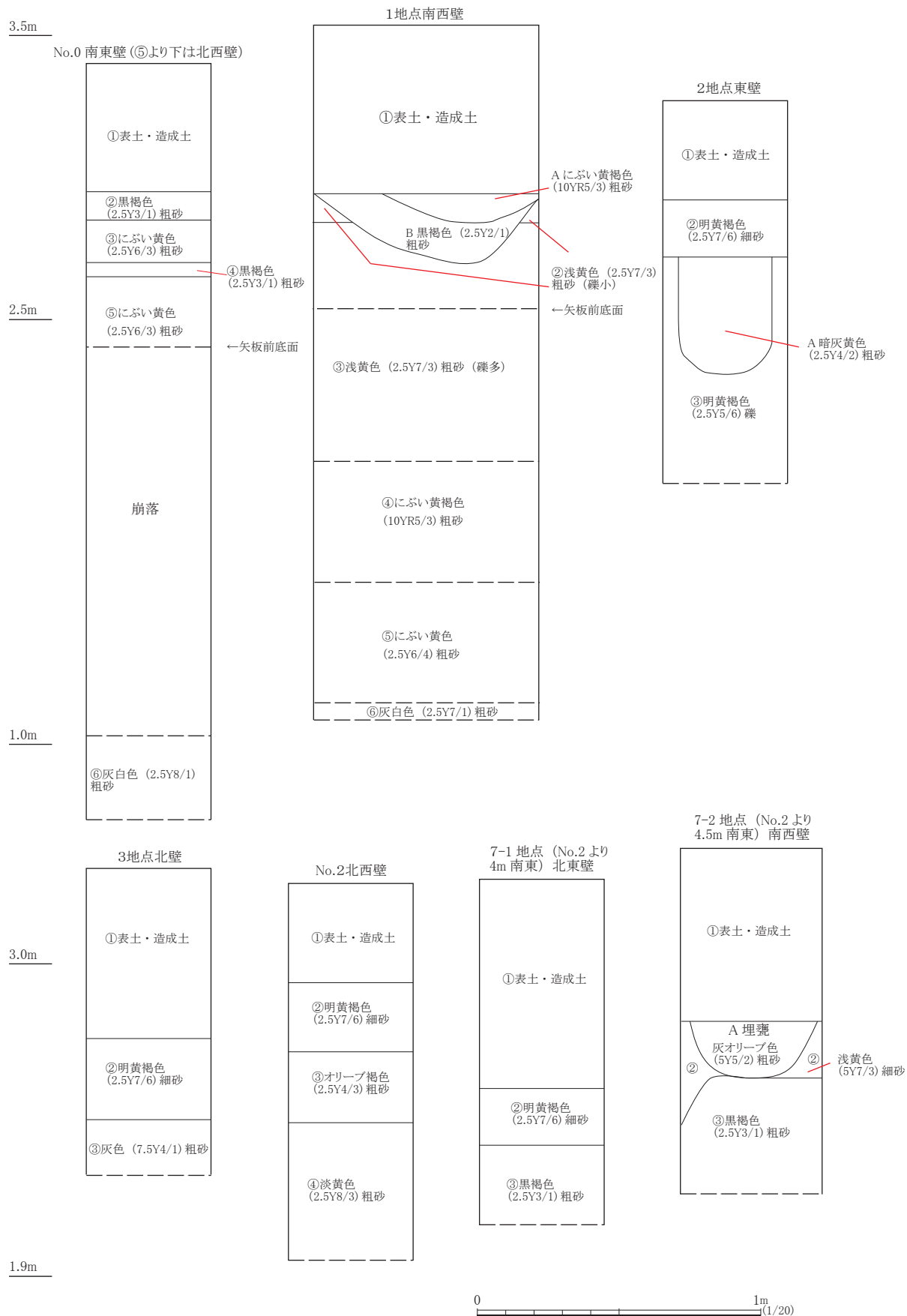


図 98 土層断面柱状図①

光構内(御手洗遺跡・月待山遺跡)の調査

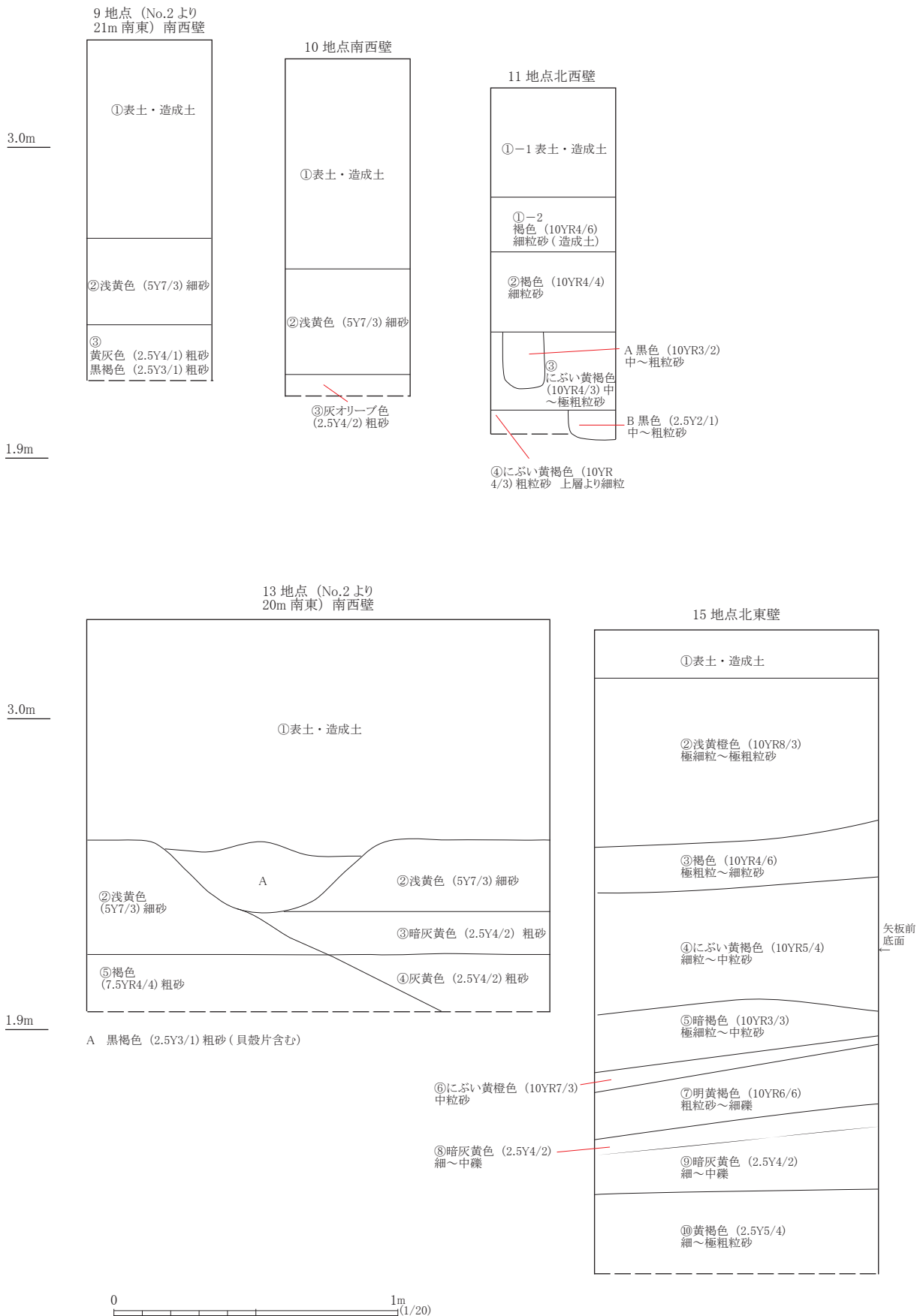


図 99 土層断面柱状図②

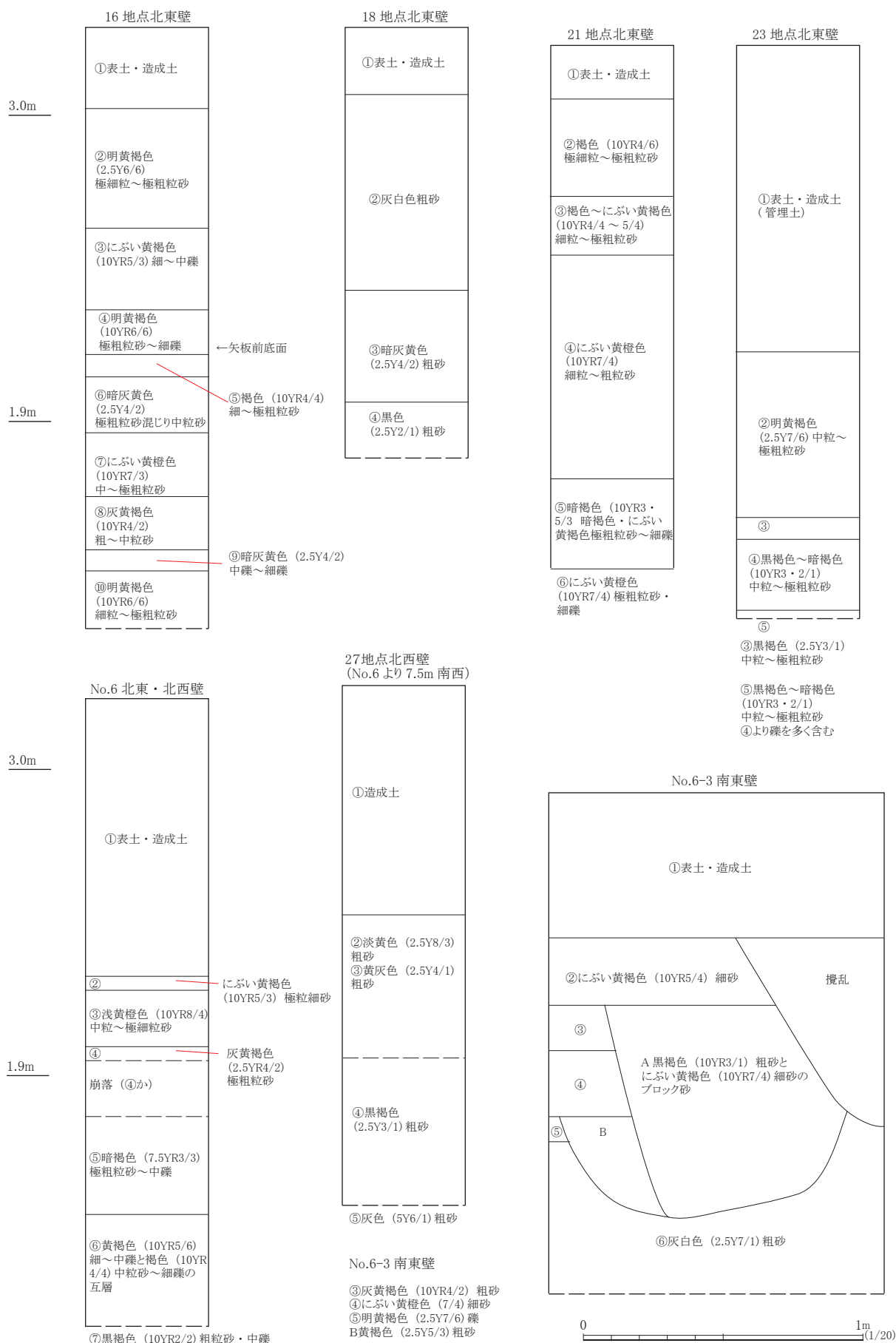


図 100 土層断面柱状図③

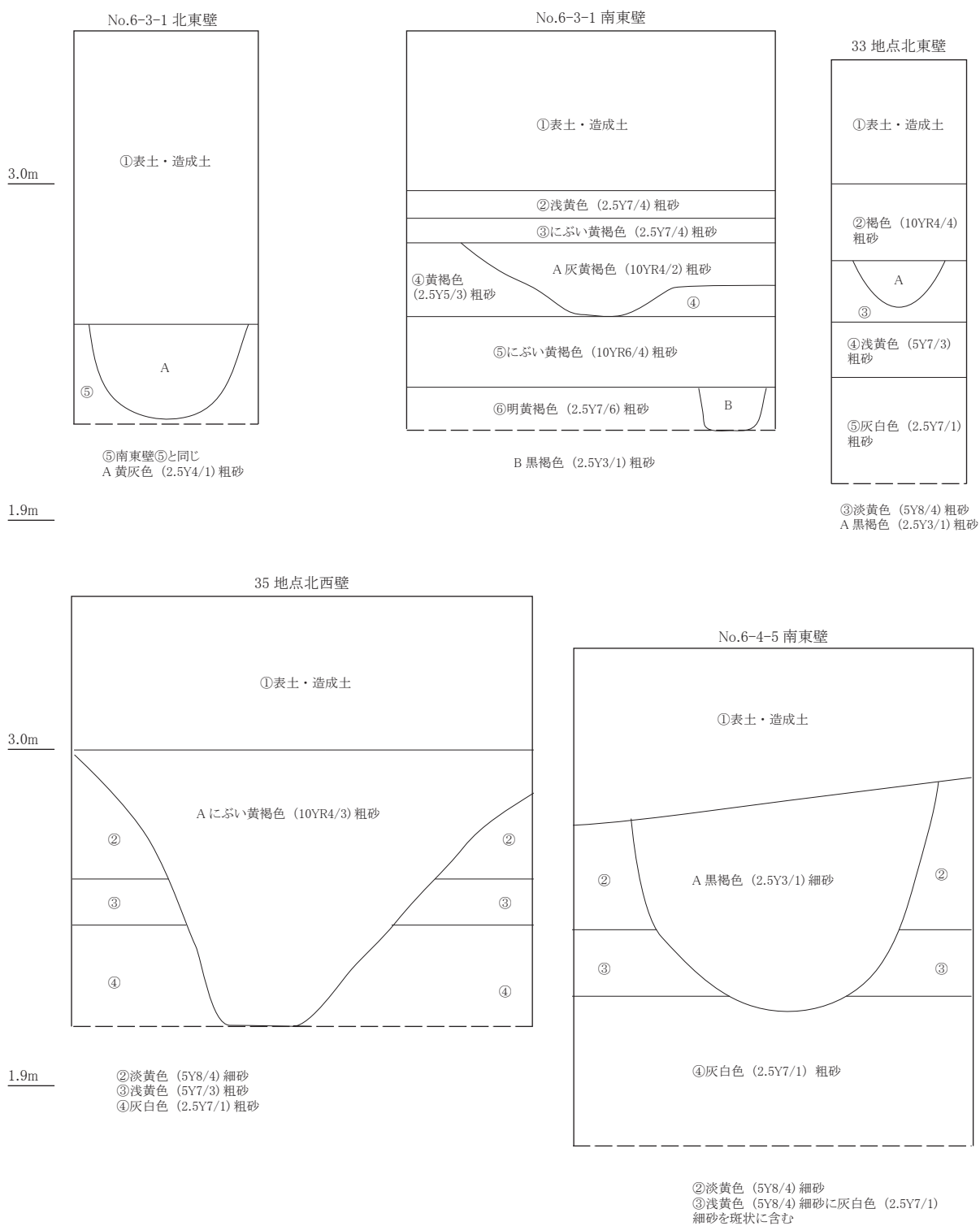


図 101 土層断面柱状図④

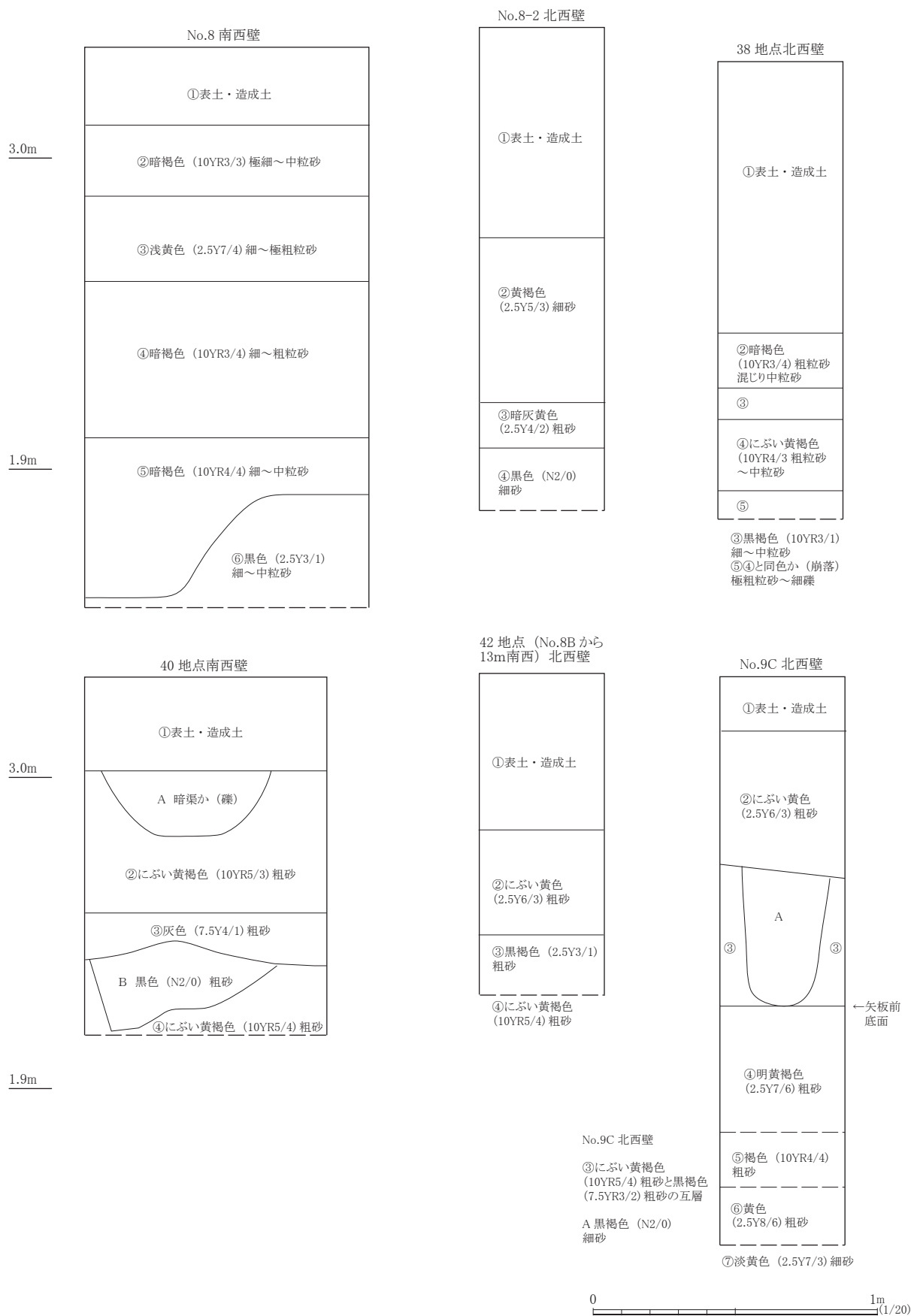


図 102 土層断面柱状図⑤

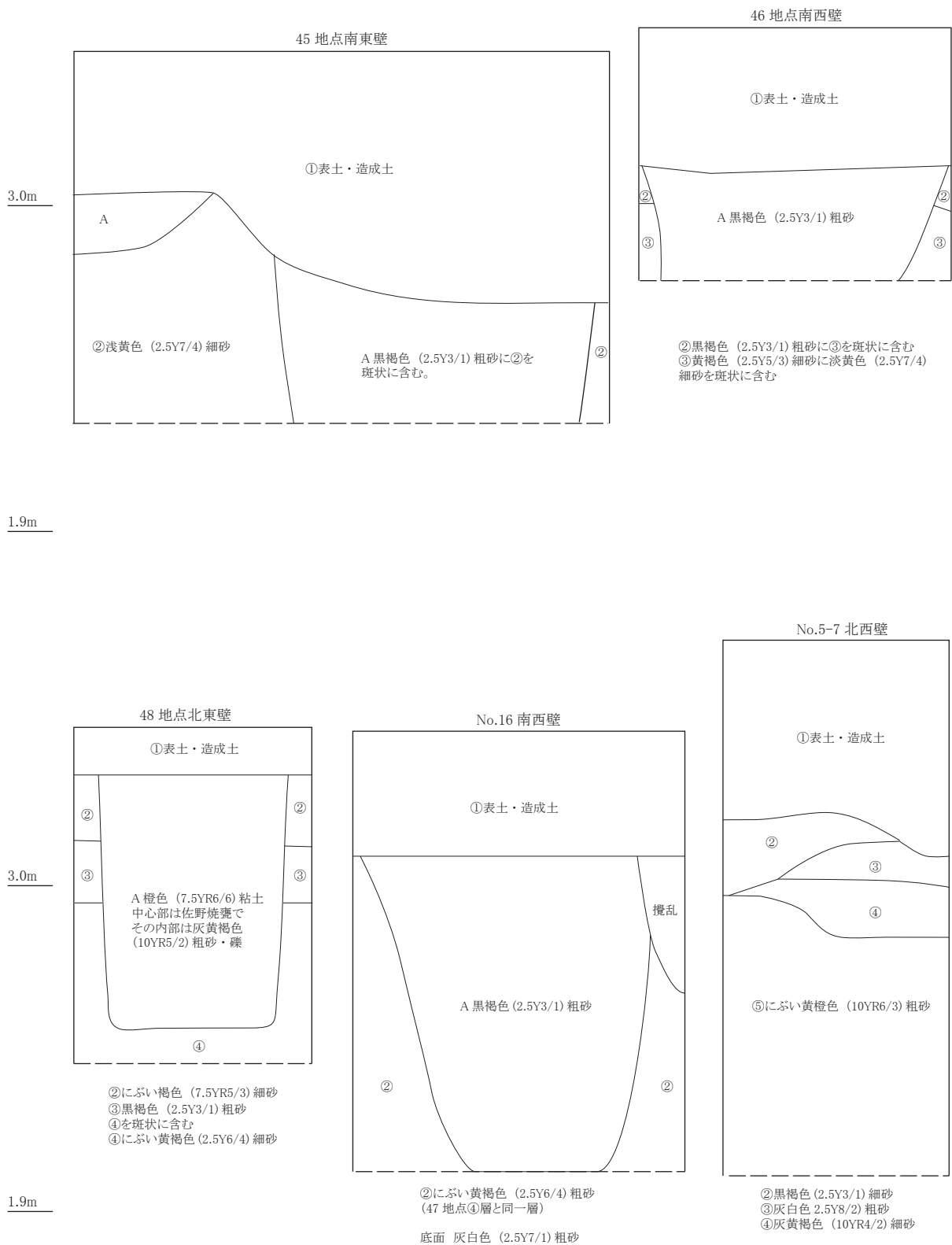


図 103 土層断面柱状図⑥



写真167 No.0南西壁土層断面(北西から)

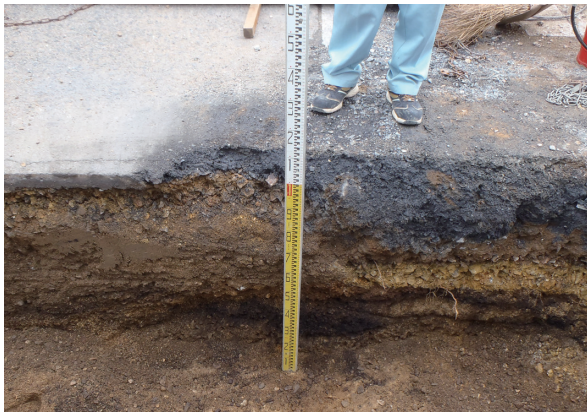


写真169 1地点南西壁土層断面(北東から)



写真168 No.0北西壁土層断面(南東から)



写真170 2地点東壁土層断面(西から)



写真171 2地点ピット・落ち込み検出状況(南東から)



写真172 3地点北壁土層断面(南から)



写真173 4地点ピット検出状況(北西から)





写真174 5地点東壁土層断面(南西から)



写真175 No.2ピット検出状況(南東から)



写真176 No.2北西壁土層断面(南東から)



写真177 7-1地点(No.2より4m南東)  
北東壁(南西から)



写真178 7-1地点(No.2より4.5m南東)南西壁土層  
断面(北東から)



写真179 9地点南西壁土層断面(北東から)



写真180 10地点ピット検出状況(北東から)



写真181 No.11北西壁土層断面(南東から)



写真182 11地点ピット検出状況(北西から)



写真183 12地点北東壁土層断面(南西から)



写真184 13地点南西壁土層断面(北東から)



写真185 No.14地点ピット検出状況(北東から)



写真186 15地点北東壁・南東壁土層断面(西から)



写真187 16地点北東壁・南東壁土層断面(西から)



写真188 17地点南西壁土層断面(北東から)



写真189 18地点北東壁土層断面(南西から)



写真190 No.5北東壁土層断面(南西から)



写真191 23地点北東壁下部土層断面(南西から)



写真192 26地点南東壁土層断面(北西から)



写真193 27地点北東部遺物包含層検出状況(南西から)



写真194 27地点北東部調査風景(南西から)



写真195 29地点南東壁土層断面(北西から)



写真196 30地点北西壁土層断面(南東から)



写真197 No.6-2南東壁土層断面(北西から)



写真198 No.6-3南東壁土層断面(北西から)



写真199 No.6-3-1北東壁土層断面(南西から)



写真200 No.6-3-1南東壁土層断面(北西から)



写真201 33地点北東壁土層断面(南から)



写真202 35地点北西壁土層断面(南東から)



写真203 36地点北西壁土層断面(南東から)



写真204 No.6-4-5南東壁土層断面(北西から)



写真205 No.8北西壁土層断面(南から)



写真206 No.8-2北西壁土層断面(南東から)



写真208 38地点南西壁土層断面(北東から)



写真207 37地点北西壁下部土層断面(南東から)



写真209 39地点南西壁土層断面(北東から)



写真210 40地点南西壁土層断面(北東から)



写真211 41地点南西壁土層断面(北東から)



写真212 42地点北西壁土層断面(南東から)



写真213 No.9C北西壁土層断面(南東から)



写真214 43地点北西壁土層断面(南東から)



写真215 No.13北西壁土層断面(南東から)



写真216 44地点南東壁土層断面(北西から)



写真217 45地点南東壁土層断面(北西から)



写真218 No.14南西壁土層断面(北東から)



写真219 46地点南西壁土層断面(北東から)



写真220 47地点北東壁土層断面(南西から)



写真221 48地点北東壁土層断面(南西から)



写真222 No.16南西壁土層断面(東から)

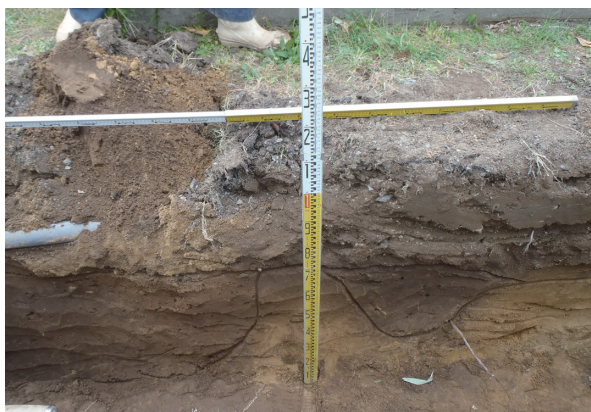


写真223 50地点南西壁土層断面(北東から)



写真224 No.5-7北西壁土層断面(南東から)

## (10) 立会調査出土遺物(図104～110・写真225～239)

以下では各地点別に出土した主な遺物を報告する。なお、陶質土器と初期須恵器は、小片の場合両者の識別が困難であるため、検討の余地がある。

## a. 北西部

【No.0排土】1は縄文土器の深鉢胴部。内外面に巻貝条痕を施す。後～晩期か。

【No.0～No.1排土】2は縄文時代晩期の深鉢口縁部。緩やかな波状口縁を呈すると考えられる。内外面に二枚貝条痕を施す。3は縄文時代晩期の深鉢底部。摩滅が激しい。底面にミガキを施す。

【2地点SX】4は土師器甕もしくは鉢。5は土師器甕口縁部。外面はヨコナデによる凹みが顕著である。6は須恵器坏底部。底面にナデを施す。

【3地点SX】7は土師器甕口縁部。8はSX排土表採で、陶質土器の壺もしくは甕の胴部。外面に格子目タタキ、内面にナデを施す。

【2～3地点間②層】9は土師器高坏裾部。10は韓式系瓦質土器壺の胴部。外面は縄蓆文タタキ後、4条の沈線を施す。内面は斜方向のミガキを施す。

【2～3地点間排土】11は古式土師器の高坏脚部。脚部内面には右から左方向のケズリを施す。

【4地点ピット】12は小型丸底壺の底部。外面は丹塗りである。

【5地点SX】13は古墳時代中期の土師器甕口縁部。口唇部をヨコナデによりつまみ上げる。接合しない同一個体と思われる胴部片がある。14も古墳時代中期の土師器甕。口縁部外面は頸部のヨコナデにより肥厚させる。胴部外面にはタテハケ、内面はケズリ後ナデを施す。15は土師器甕胴部。外面に平行タタキを施す。内面には外面のタタキと近似した当て具痕があるが、切り合いが著しく単位は不明確である。16は弥生土器もしくは土師器甕の底部である。東海系台付甕の模倣品<sup>註1</sup>か。内面はナデ、外面にタテハケを施す。17は古式土師器の小型丸底壺(鉢)。二重口縁で胴部内面も屈曲する。胎土は精良。

【No.2SX】18は土師器甕もしくは鉢。口縁部外面に板状工具が当たった痕跡がある。

【6地点SX】19は東海系台付甕の底部で、搬入品と考えられる<sup>註2</sup>。端部には折り返しがあり、ナデを施す。外面は左上がりのハケで下半はナデ消される<sup>註3</sup>。赤塚次郎氏分類のB類もしくはC類で、廻間Ⅱ～Ⅲ式、弥生時代終末期～古墳時代前期に位置づけられる。

【2地点～No.2間排土】20は佐野焼甕の口縁部である。口縁部はやや内傾しており、肥厚させて1条沈線を施す。口縁部の特徴から18世紀頃と推測される<sup>註4</sup>。7-2地点で検出されたような埋甕の一部であった可能性が高い。

【7地点北西部1③層】21は土師器坏口縁部。内面にヨコミガキを施す。22は土師器甕口縁部。23は韓式系軟質土器甕の胴部。外面に格子目タタキ、内面にヨコナデを施す。24は韓式系軟質土器鉢の胴部～底部。底部側面にヨコナデを施す。残存部は少ないが、その上部には平行タタキが残る。25は須恵器甕胴部。焼成不良(素焼き)で外面は平行タタキ後4条の沈線を施す。内面には同心円当て具痕が残る。

【7地点北西部2③層】26は韓式系軟質土器甕の口縁部～胴部。胴部外面に格子目タタキを施す。27～29も韓式系軟質土器甕の胴部片で、26と同一個体の可能性がある。30は同層排土出土。韓式系軟質土器甕の胴部～底部である。胴部外面上半に格子目タタキ、下半にナデ、同下半に横方向のケズリを施す。31は竈形土器の基部。外面にやや荒いタテハケ、内面にタテナデを施す。32は同層排土出土の須恵器高坏脚部。脚部は2孔透かして裾端部をつまみ上げる。33は同層排土出土。韓式系瓦質土器の坏もしくは塼。口縁端部を折り返し、外面には不明瞭な沈線状の痕跡がある。



【7地点南東部③層】34は古墳時代中期の土師器高坏脚部。外面は丹塗りで、内面にヨコハケを施す。35は陶質土器(伽耶系)高坏もしくは脚付壺の裾部。外面には1条の突帯があり、その上部には透孔(現状2箇所・4方透かし)、突帯に伴う沈線の下半部が残存する。36は無蓋高坏口縁部。37は須恵器甕の口縁部。外面に9条単位の波状文を施す。

【7地点排土】38は六連式製塩土器の胴部。内面に布目痕と布の皺が残る。

【7-2地点埋甕】39は佐野焼甕の胴部～底部。外面はナデ、内面にはハケを施し、上半には同心円当て具痕が残る。

【9地点③層】40は縄文土器深鉢口縁部。口唇部に押圧が1箇所あり、口唇部外面に撚糸文と1条沈線を施す。縄文時代中期の里木Ⅱ式系土器か。41は韓式系瓦質土器の鍋か。外面に格子目タタキを施す。42は須恵器坏底部。底面に断面方形の高台を貼り付ける。

【10地点②・③層】43は土師器甕口縁部。口縁部をやや長く外反させ、内外面にヨコナデを施す。

【10地点②層】44は六連式製塩土器の胴部。内面に布目痕が残る。

【10地点ピット】45は弥生時代前期の壺口縁部。外面はタテハケ後にヨコナデを施し、段を持つ。内面にはヨコハケを施す。

【11地点ピット】46は古墳時代中期の土師器高坏口縁部。内外面にヨコナデを施す。

【13地点ピット】47は六連式製塩土器の胴部。内面に布目痕が残る。

【No.2-1～No.2-2間②層】48は土師器埴底部。底面に断面台形の高台を貼り付ける。摩滅が激しい。

【14地点～15地点間②層】49は韓式系軟質土器甕もしくは鉢の胴部。外面に格子目タタキ、内面にナデを施す。

【15地点③層】50は磁器碗。外面に草花文を染め付ける。見込みは蛇の目釉剥ぎである。肥前系(波佐見)、18世紀後半。

【15地点④層】51は小型丸底壺の口縁部。内外面は丹塗りである。

【16地点④～⑤層上面機械掘削時】52は縄文土器後～晩期の深鉢底部。底面にナデを施す。内面は摩滅が著しい。

【16地点④層か】53は弥生土器もしくは土師器甕(山陰系)口縁部。外面にススが付着する。

【17地点暗褐色粗砂】54は磁器碗。外面に草花文を染め付ける。見込みは蛇の目釉剥ぎである。肥前系(波佐見)、19世紀前半。

【18地点④層】55は土師器甕の口縁部～胴部。口縁部内外面はヨコナデ。胴部外面はタテハケ、内面は横方向のケズリを施す。56は土師器甕の口縁部。口縁部内外面にヨコナデを施す。57・58は韓式系軟質土器甕もしくは鉢の胴部。外面に格子目タタキ、内面にナデを施す。

【No.4～No.5間排土】59は弥生土器壺もしくは鉢の底部。外面は摩滅している。内面にヨコミガキを施す。弥生時代中～後期か。

【22地点表採(21地点③層か)】60は弥生時代後期の甕底部。外面はタテハケ、内面は下から上方向のケズリ後、ナデを施す。

【23地点③層か】61は23地点③層出土と考えられるが、註記の不備により、断定できない。陶質土器の壺もしくは甕の胴部で、外面には縄蓆文タタキ後、8条の沈線を施し、内面にはヨコナデを施す。

## b.南東部

【27地点北東部④・⑤層】62～64は古墳時代中期の土師器甕。62・63は口縁部で、62は口縁部外面にヨ

コナデ、内面にヨコハケ、63は口縁部内外面にヨコナデを施す。64は口縁部内外面にヨコハケ、胴部外面にタテ・ヨコハケ、内面にナデを施す。65～68は古墳時代中期の土師器高坏。65・66は坏部で口縁部内外面にヨコナデを施すが、65は下地のハケが顕著に残る。66は67の脚部と同一個体の可能性がある。68は脚部で坏部との接合部で剥離する。脚部はヨコミガキ、裾部にはヨコナデを施す。69～74は韓式系軟質土器。69は甕の口縁部～胴部。外面に格子目タタキ・内面にナデを施す。外面にはススが付着する。70・71は甕もしくは鉢の胴部か。70は外面に格子目タタキ、71は外面に縄蓆文タタキの後1条沈線を施す。内面は共にナデを施す。72・73は甕の胴部。外面は格子目タタキ、内面にナデを施し、73はタタキ後に1条沈線を施す。74は鉢底部。内外面にナデを施す。75～77は陶質土器。75は壺もしくは甕の胴部。外面に縄蓆文タタキを施す。76は壺もしくは甕の胴部。外面に平行タタキ後2条沈線を施す。77は器種不明。外面に縄蓆文タタキを施し、内面に矢羽根状の当て具痕が残る。78～82は須恵器。78・80は壺で外面に1条突帯を持つ。79は甕の口縁部。81・82は甕の胴部。81は外面に格子目タタキ後、カキメによる沈線を施す。内面には同心円当て具痕が残る。82は外面に平行タタキを施す。内面には同心円当て具痕が残る。

【27地点南西部④・⑤層】83・84は排土出土。83は土師器小型丸底壺の胴部。外面はヨコハケを施す。内面には粘土紐接合痕が顕著に残る。84は土師器甕口縁部。外面にヨコナデ、内面にヨコハケを施す。85・86は土師器甕口縁部。内外面にヨコナデを施すが、86は外面にタテハケが残る。87～90は韓式系軟質土器甕もしくは鉢の胴部で外面に格子目タタキ、内面にナデを施す。90は排土出土。91は甕か。外面に格子目タタキを施す。内面は剥離が著しい。92は土師器竈形土器の底部。接合部で剥離し、外面は丹塗りである。93～97は同一個体の土師器竈形土器か。93は掛口部がわずかに残存し、直下に断面方形の1条突帯を貼り付ける。94は把手。先端を尖らせ内部を穿孔する。把手は器壁横断面(A-A'断面)に対して、長軸断面(B-B')断面を約20度傾けて貼り付ける。95は焚口側面、96は焚口上面の底部。小片のため、傾きは検討の余地がある。97は基部で、焚口と庇の一部も残存する。庇の下部には連続して1条の貼付突帯を持つ。98は土師器竈形土器の基部か。内湾しながら立ち上がる。天地逆の別器種の可能性もある。99・100は同一個体と考えられる土師器竈形土器。99は掛口部で、外面は平行タタキ後ヨコナデを施し、内面には同心円当て具痕が残る。100は基部で、側面に断面方形の突帯を貼り付ける。101～106は陶質土器。101は排土出土。伽耶系平底鉢。口縁部～胴部上半と内面に回転ナデを施し、胴部下半はヘラによる荒いナデを施す。102～106は壺もしくは甕胴部で外面に縄蓆文タタキを施す。タタキ後外面に102は1条、103は3条、104は3条、105は2条沈線を施す。内面は102～105はナデで、106は当て具痕が残る。107～112は須恵器坏蓋。108・109は排土出土で、口唇部に段を持つ。113～120は排土出土。113・114は須恵器坏身。114は焼成不良で土師質である。115は須恵器壺口縁部。口唇部直下に1条の貼付突帯を持つ。116は須恵器甕口縁部。口唇部をつまみ上げており、口縁部外面に櫛描波状文を2段施す。内外面に自然釉が付着する。117・118は初期須恵器壺もしくは甕の胴部。外面に格子目タタキ、内面にナデを施す。119は須恵器甕の胴部。外面に平行タタキ、内面にナデを施す。120は須恵器甕の胴部。外面に平行タタキを施し、内面には同心円当て具痕が残る。121は須恵器の鉢口縁部。外面下半に横方向のケズリを施す。

【No.8⑥層】122は土師器鉢の口縁部～胴部。123は土師器器種不明の底部。底面、外面にタテハケ、内面にナデを施す。外面・底面は丹塗りである。124は須恵器坏蓋。

【No.8-1～2間④層】125は弥生時代前期の壺口縁部で、口縁部に段を持つ。126は土師器坏。底面に重ね焼き痕がある。須恵器模倣か。小片のため、検討の余地がある。127は土師器竈形土器の基部

で、焚口側も残存する。底部は剥離しているが、底部から連続する1条の貼付突帯を持つ。128は把手。一部しか観察できないが、内面に粘土を充填する。129は弥生土器もしくは土師器の底部。器種不明。底部は不明瞭で丸底に近い形態である。大型品と考えられる。

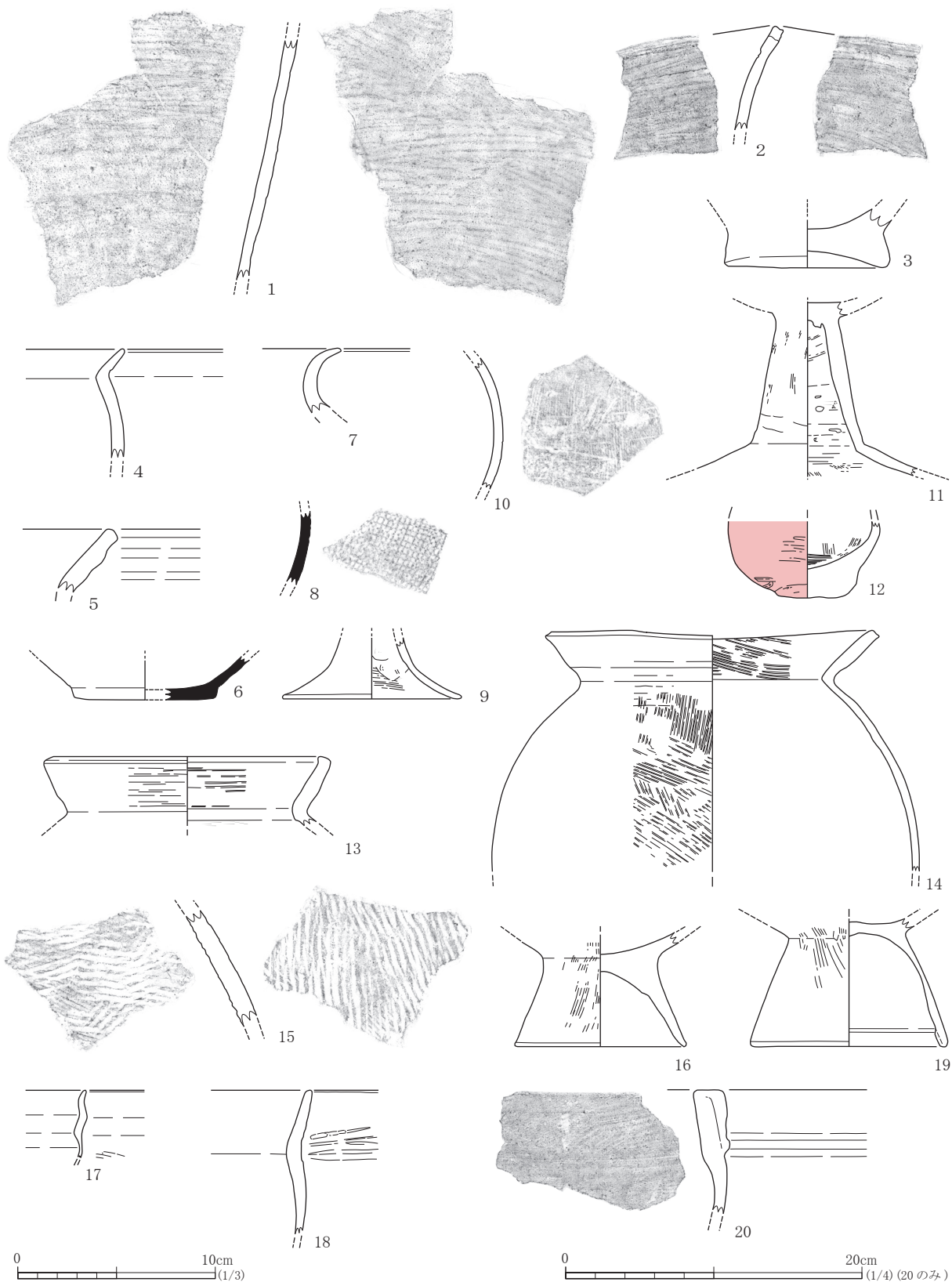
【No.8～No.8-1間⑥層排土】130は土師器坏口縁部。内外面に回転ナデを施す。131・132は土師器甕口縁部。133は韓式系軟質土器甕もしくは鉢の胴部。外面に格子目タタキの後、1条沈線を施す。134は土師器竈形土器の基部で、焚口側も残存する。基部から上部に底部を持つ。135～140は須恵器坏蓋。136は天井部に回転ナデ及びヘラケズリを施す。137は内外面に回転ナデを施す。139は口唇部に段を持つ。141は須恵器坏身。142は甕口縁部で、外面に1条の貼付突帯を持つ。143は須恵器甕。外面は自然釉により調整は定かではない。内面には回転ナデを施す。144・145は須恵器甕胴部。144は外面に格子目タタキを施し、一部をナデ消す。内面にはナデを施す。145は外面に平行タタキ後、カキメによる沈線を2箇所施す。内面には同心円当て具痕が残る。

【No.8-2付近排土表採】146は陶質土器壺もしくは甕の胴部。焼成不良(酸化炎焼成)で、胴部外面に格子目タタキの後、1条沈線を施す。

【48地点埋甕】147は佐野焼甕の口縁部。口縁部は直立して外面に沈線状の段を持ち、内面を肥厚させる。外面は摩滅により調整は不明。内面はタタキ後に左上がりのハケを施す。他に接合しない胴部片がある。口縁部の特徴から19～20世紀に位置づけられる。<sup>註5</sup>

#### 【註】

- 1) 愛知県埋蔵文化財センター・永井宏幸氏のご教示による。
- 2) 愛知県埋蔵文化財センター・永井宏幸氏のご教示による。
- 3) 赤塚次郎(1990)「V考察」愛知県埋蔵文化財センター(編)『廻間遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第10集,愛知
- 4) 下記文献の6②Aないし6②B型式と考えられる。  
 上山佳彦(2003)「4(3)山口県内の中世・近世の埋甕型式分類及び編年試案」山口県埋蔵文化財センター(編)『東禅寺・黒山遺跡』(東大円・上徳田地区)山口県埋蔵文化財センター調査報告第34集,山口
- 5) 前掲註4)文献の7②A型式と考えられる。

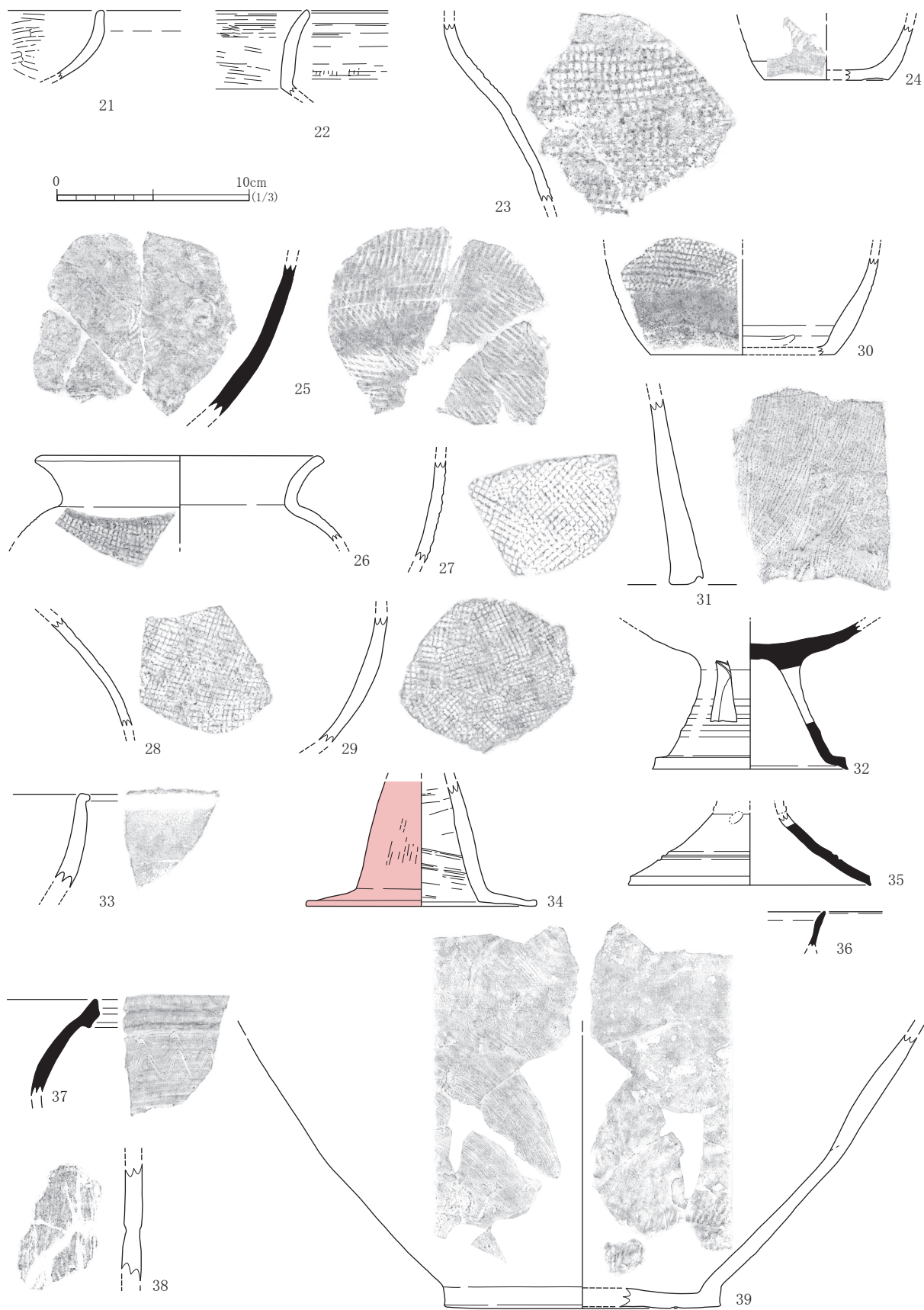


- 1 : No.0 排土
- 2・3 : No.0 ~ No.1 排土
- 4~6 : 2地点 SX
- 7 : 3地点 SX
- 8 : 3地点 SX 埋土表採

- 9~10 : 2~3地点間②層
- 11 : 2~3地点間排土
- 12 : 4地点ビット
- 13~17 : 5地点 SX
- 18 : No.2SX (5地点 SX 続き)

- 19 : 6地点 SX
- 20 : 2地点 ~ No.2間排土

図 104 出土遺物実測図①

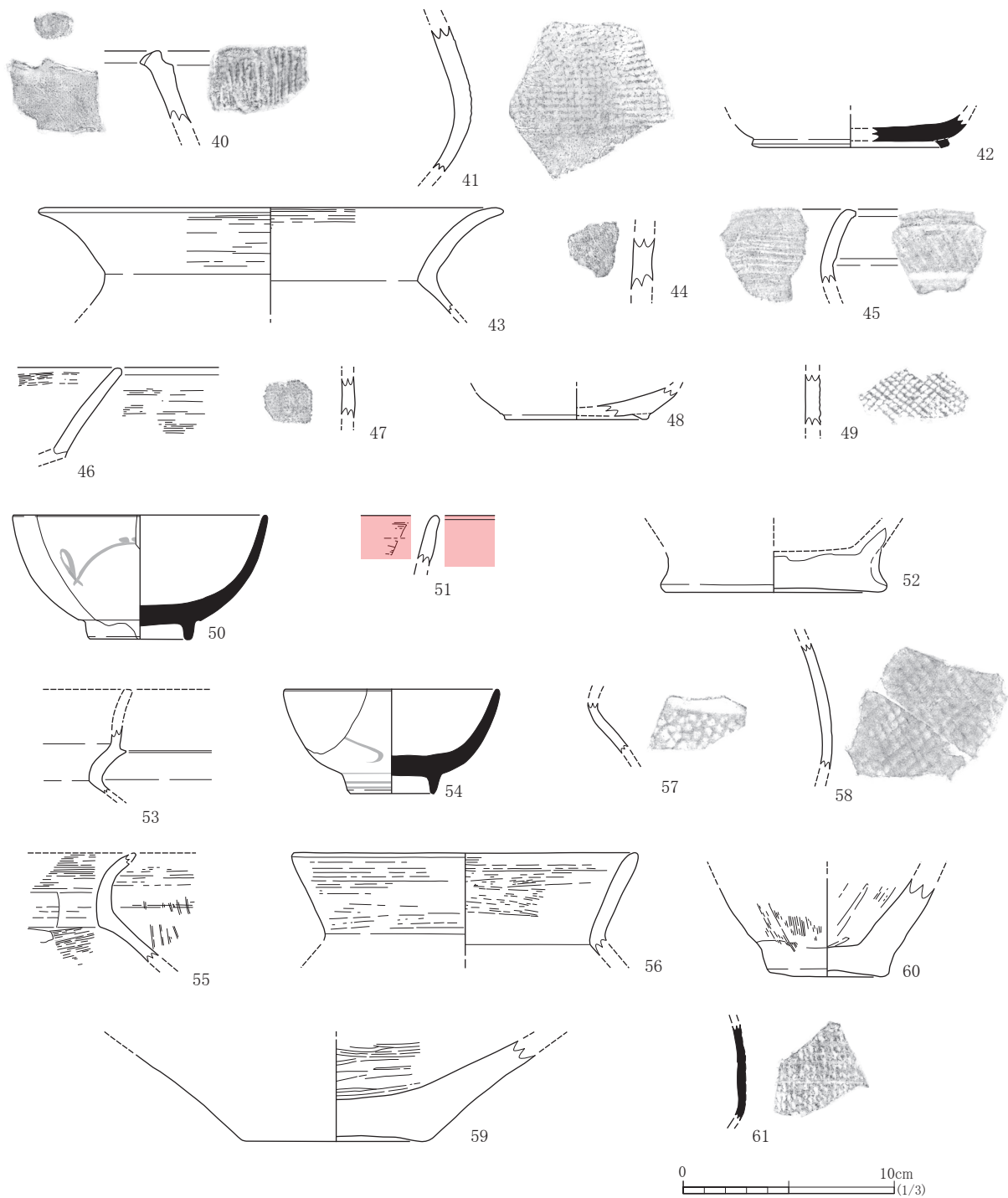


21 ~ 25 : 7地点北西部1㉓層  
 26 ~ 29・31 : 7地点北西部2㉓層  
 30・32・33 : 7地点北西部2㉓層排土  
 34 ~ 37 : 7地点南東部㉓層

38 : 7地点排土  
 39 : 7-2地点埋甕

0 20cm (1/4) (39のみ)

図 105 出土遺物実測図②



40～42：9地点③層

43：10地点②・③層

44：10地点②層

45：10地点ピット

46：11地点ピット

47：13地点ピット

48：No.2-1～No.2-2間②層

49：14地点～15地点間②層

50：15地点③層

51：15地点④層

52：16地点④～⑤層上面機械掘削時

53：16地点④層か(業者表採)

54：17地点暗褐色粗砂

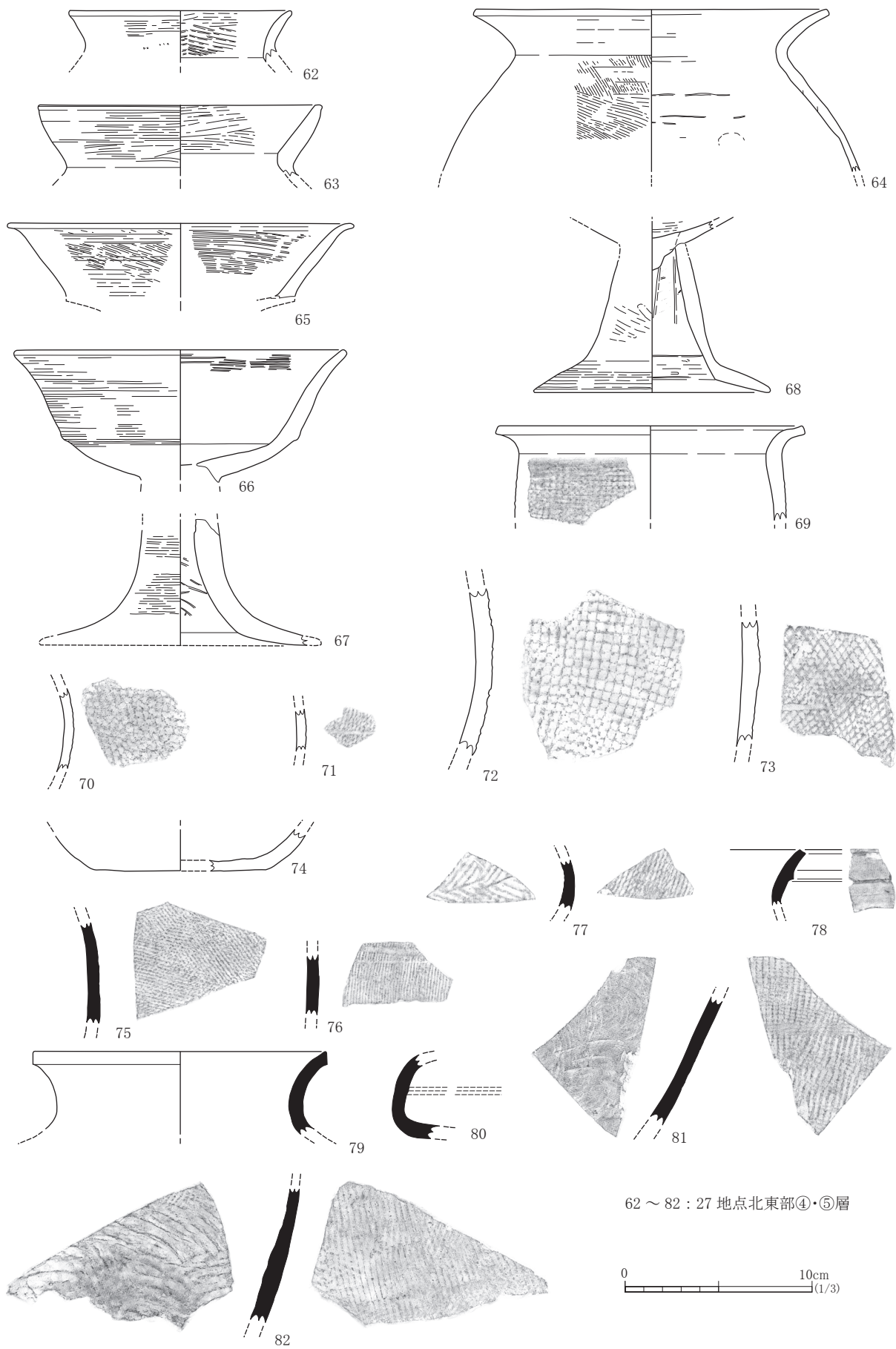
55～58：18地点④層

59：No.4～No.5間排土表採

60：22地点表採

61：23地点③層か

図106 出土遺物実測図③



62 ~ 82 : 27 地点北東部④・⑤層

0 10cm (1/3)

図 107 出土遺物実測図④

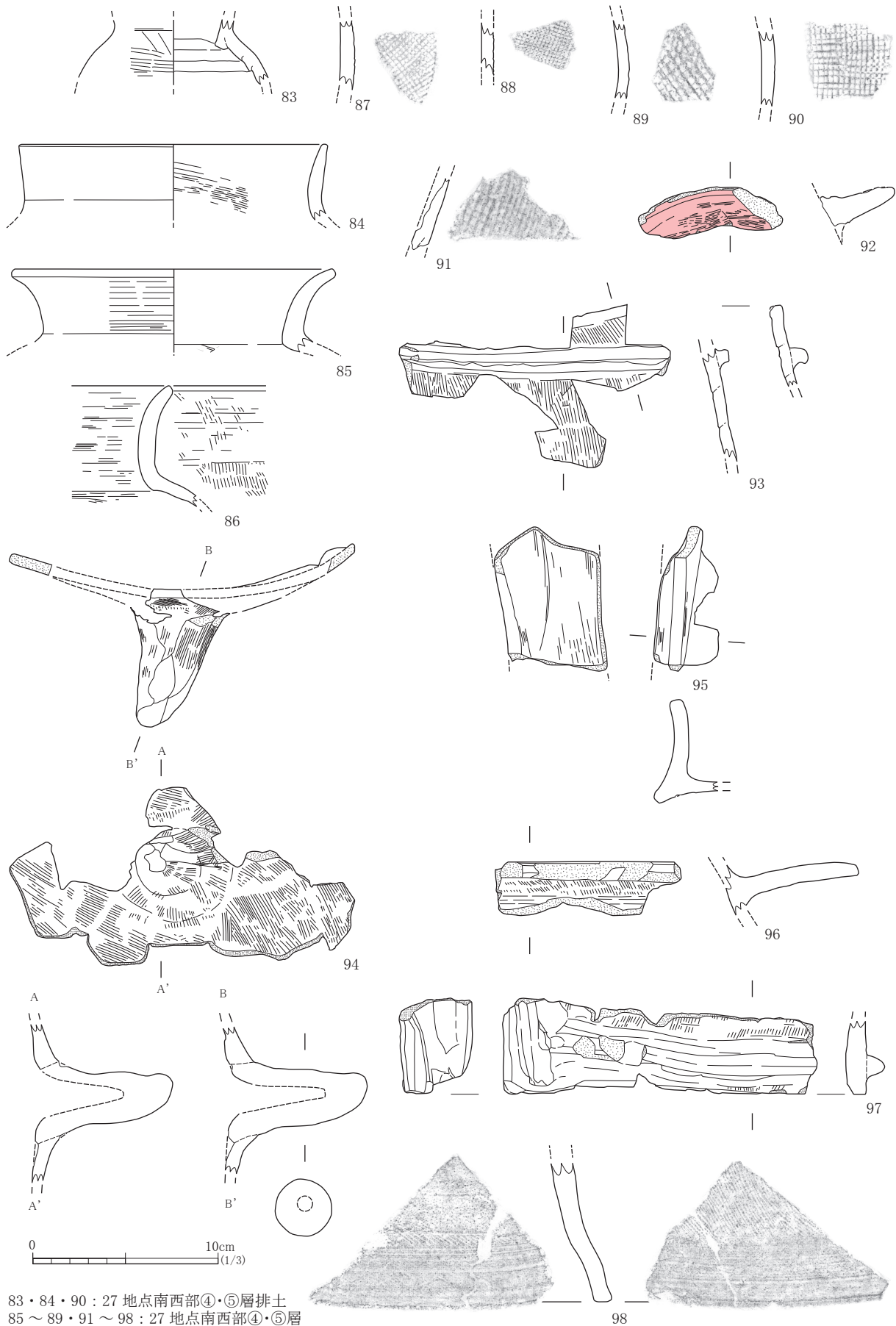
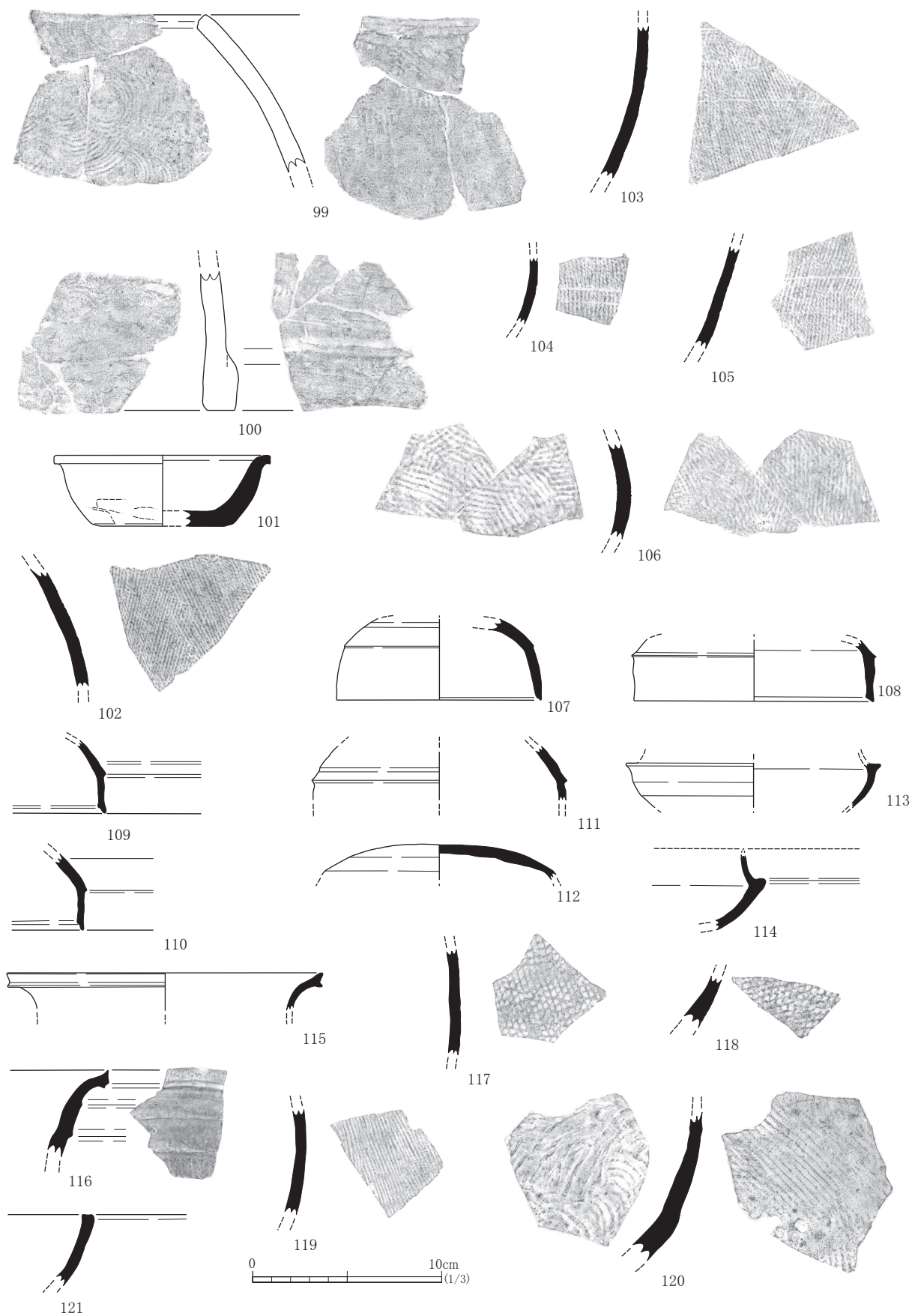


図 108 出土遺物実測図⑤





99・100・103～107・110～112：27 地点南西部④・⑤層  
 101・102・108・109・113～121：27 地点南西部④・⑤層排土

図 109 出土遺物実測図⑥

光橋内(御手洗遺跡・月待山遺跡)の調査

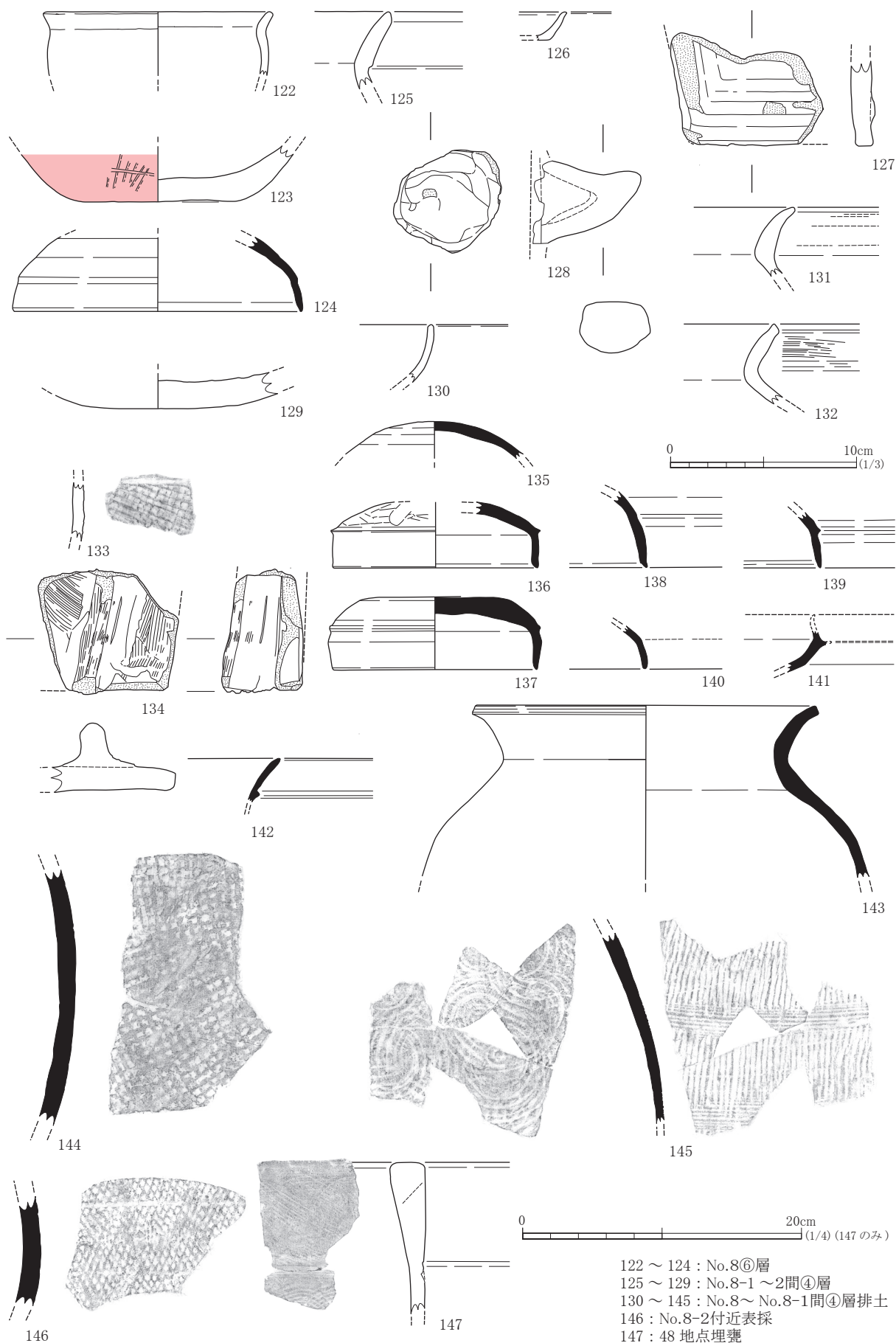


図 110 出土遺物実測図⑦



写真 225 出土遺物①



写真 226 出土遺物②

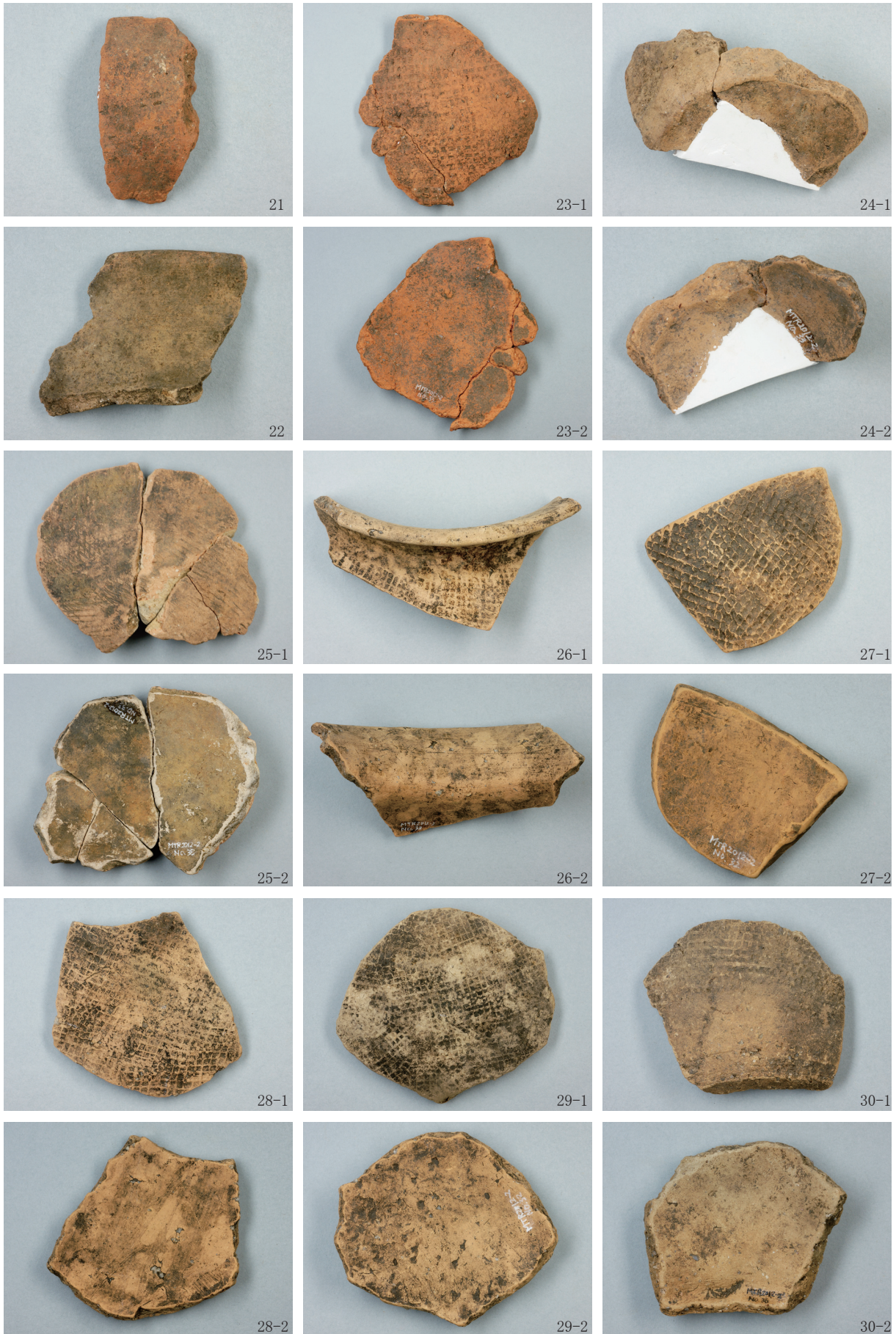


写真 227 出土遺物③



写真 228 出土遺物④



写真 229 出土遺物⑤



写真 230 出土遺物⑥



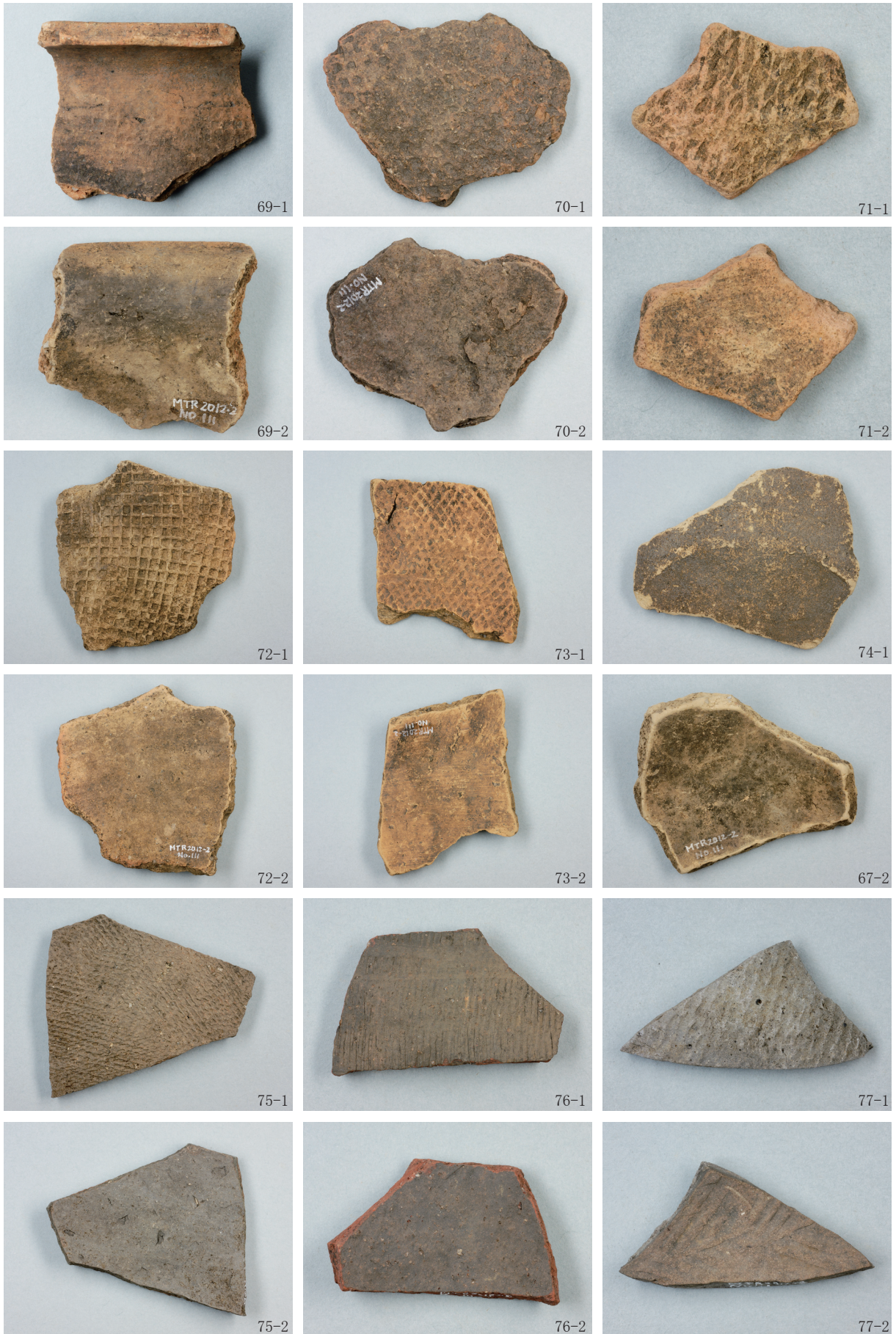


写真 231 出土遺物⑦

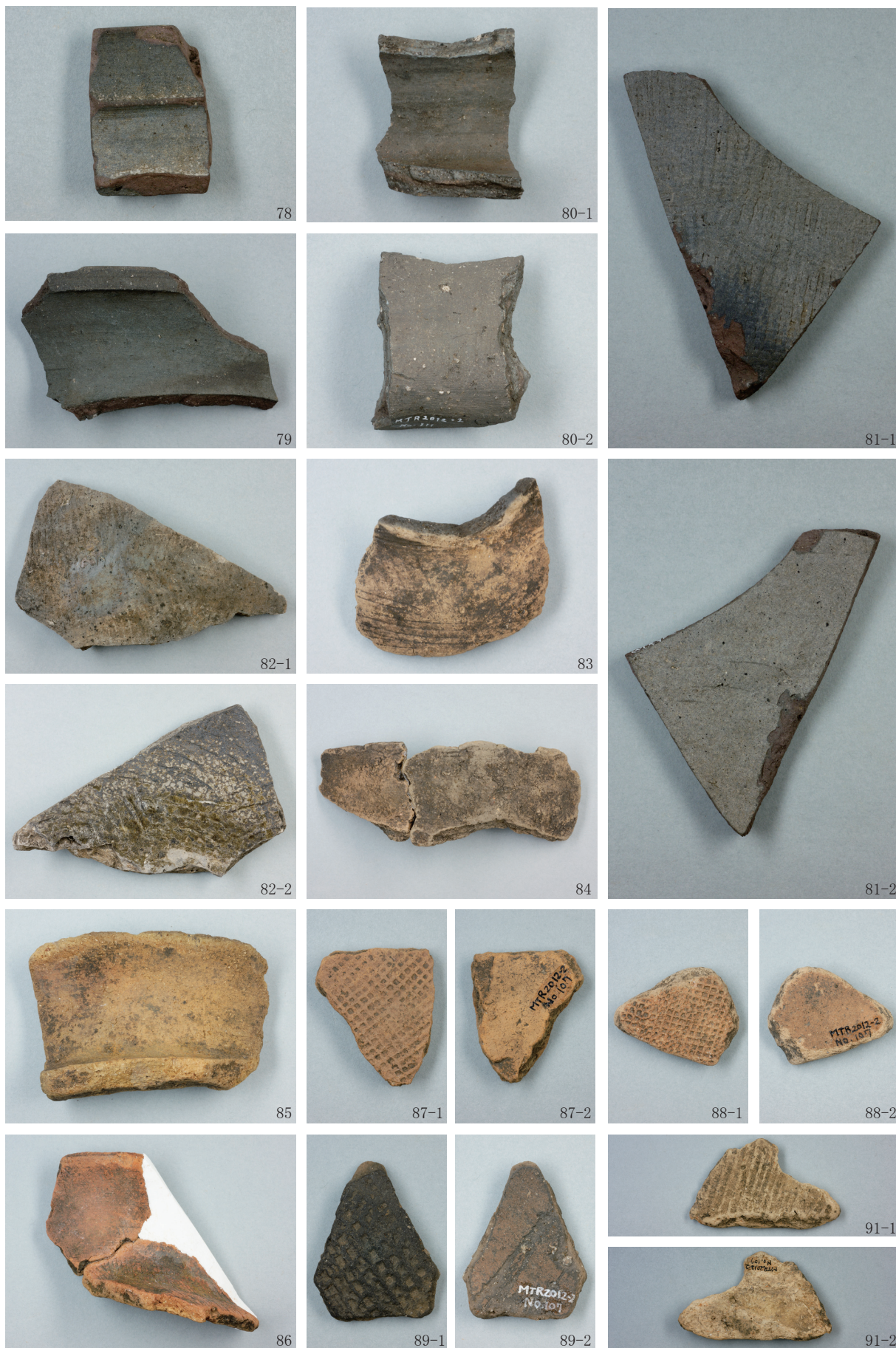


写真 232 出土遺物⑧

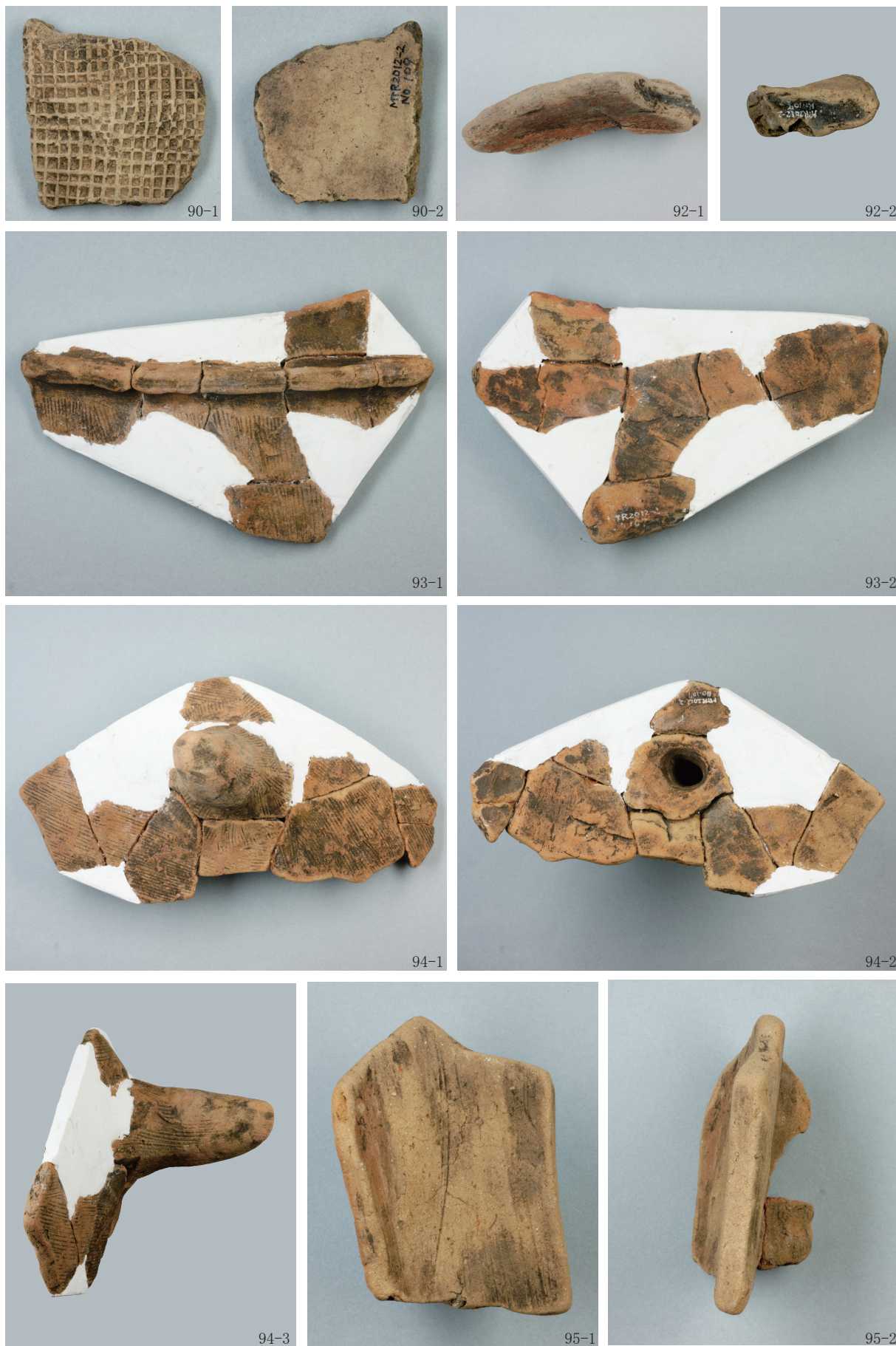


写真 233 出土遺物⑨



96-1



96-2



97-1



97-2



97-3



98-1



98-2



99-1



99-2

写真 234 出土遺物⑩



写真 235 出土遺物①

光構内(御手洗遺跡・月待山遺跡)の調査



写真 236 出土遺物⑫

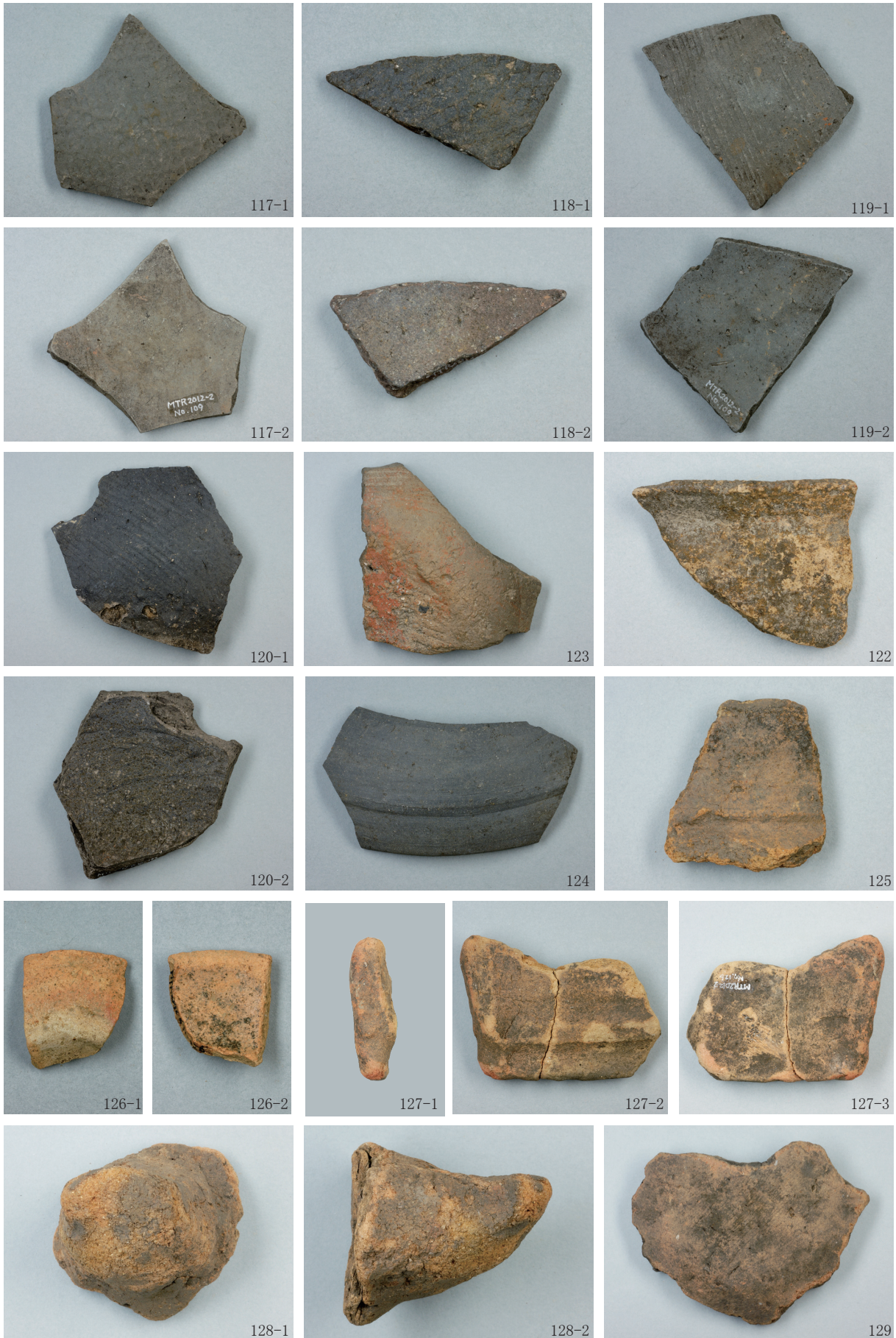


写真 237 出土遺物⑬



写真 238 出土遺物⑭





写真 239 出土遺物⑮

表21 出土遺物(土器)観察表

法量( )は復元値

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調		胎土	備考
					①外面	②内面		
1	No.0排土	縄文土器 深鉢	胴部		①にぶい黄橙色(10YR6/3) ②にぶい橙色(7.5YR6/4)	0.1~3mmの砂粒を含む		
2	No.0~No.1間排土	縄文土器 深鉢	口縁部		①暗灰黄色(2.5Y4/2) ②にぶい黄褐色(10YR5/3)	0.1~5mmの砂粒を含む		
3	No.0~No.1間排土	縄文土器 深鉢	底部		①②灰オリーブ色(5Y5/2)	0.1~3mmの砂粒を含む		
4	2地点SX	土師器 甕もしくは鉢	口縁部 ~胴部		①暗灰黄色(2.5Y5/2) ②にぶい黄橙色(10YR7/4)	0.1~2mmの砂粒を含む		
5	2地点SX	土師器 甕	口縁部		①②にぶい黄橙色(10YR6/4)	0.1~3mmの砂粒を含む		
6	2地点SX	須恵器 坏	底部	②(7.2)	①灰オリーブ色(5Y6/2) ②オリーブ灰色(2.5GY6/1)	0.1~2mmの砂粒を含む		
7	3地点SX	土師器 甕	口縁部		①にぶい黄橙色(10YR6/3) ②にぶい黄橙色(10YR7/3)	0.1~1mmの砂粒を含む		
8	3地点SX 排土表採	陶質土器 壺もしくは甕	胴部		①②にぶい黄橙色(10YR6/3)	0.1~2mmの砂粒を含む		
9	2~3地点間 ②層	土師器 高坏	裾部	裾部径(9.1)	①にぶい黄色(2.5Y6/3) ②にぶい橙色(7.5YR6/4)	0.1~2mmの砂粒を含む		
10	2~3地点間 ②層	韓式系 瓦質土器 壺	胴部		①灰白色(5Y7/1) ②灰白色(5Y7/2)	0.1~1mmの砂粒を含む		
11	2~3地点間排土	土師器 高坏	脚部		①にぶい黄色(2.5Y6/4) ②にぶい黄橙色(10YR7/4)	0.1~3mmの砂粒を含む		
12	4地点ピット	土師器 壺	底部	②3.5	①②にぶい黄色(2.5Y6/3)	0.1~2mmの砂粒を含む	外面丹塗り	
13	5地点SX	土師器 甕	口縁部	①(14.6)	①黄褐色(10YR6/4) ②にぶい黄色(2.5Y6/4)	0.1~1mmの砂粒を含む	接合しない胴部片あり	
14	5地点SX	土師器 甕	口縁部 ~胴部	①16.3	①②にぶい黄色(2.5Y6/4)	0.1~1mmの砂粒を含む		
15	5地点SX	土師器 甕	胴部		①にぶい橙色(7.5YR6/4) ②にぶい黄橙色(10YR6/3)	0.1~1mmの砂粒を含む		

## 光構内(御手洗遺跡・月待山遺跡)の調査

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm)		色調		胎土	備考
				①口径②底径③器高		①外面 ②内面			
16	5地点SX	弥生土器もしくは土師器 甕	底部	②(8.7)		①にぶい黄褐色(10YR5/3) ②にぶい黄色(2.5Y6/4)		0.1~3mmの砂粒を含む	東海系 模倣か
17	5地点SX	土師器 壺もしくは鉢	口縁部			①黄褐色(2.5Y5/3) ②にぶい黄色(2.5Y6/4)		精良	
18	NO.2SX (5地点SX続き)	土師器 甕もしくは鉢	口縁部			①にぶい黄褐色(10YR5/4) ②にぶい黄褐色(10YR7/3)		0.1~5mmの砂粒を含む	
19	6地点SX	弥生土器もしくは土師器 甕	底部	②(10.1)		①灰黄色(2.5Y6/2) ②浅黄色(2.5Y7/4)		0.1~2.5mmの砂粒を含む	東海系
20	2地点~No.2 間排土	土師質土器 甕	口縁部			①灰色(7.5Y7/1) ②浅黄色(2.5Y7/3)		0.1~8mmの砂粒を含む	佐野焼
21	7地点 北西部1③層	土師器 坏	口縁部			①明赤褐色(5YR5/6) ②にぶい赤褐色(5YR5/4)		0.1~1mmの砂粒を含む	
22	7地点 北西部1③層	土師器 甕	口縁部			①黄褐色(2.5Y6/3) ②灰オリーブ色(5Y5/2)		0.1~2mmの砂粒を含む	
23	7地点 北西部1③層	韓式系 軟質土器 甕	胴部			①橙色(5YR6/8) ②明赤褐色(5YR5/6)		0.1~5mmの砂粒を含む	
24	7地点 北西部1③層	韓式系 軟質土器 鉢	胴部~ 底部			①にぶい黄褐色(10YR6/3) ②にぶい橙色(7.5YR6/4)		0.1~1mmの砂粒を含む	
25	7地点 北西部1③層	須恵器 甕	胴部			①にぶい橙色(7.5YR6/4) ②黄褐色(2.5Y5/3)		0.1~2mmの砂粒を含む	焼成不良
26	7地点 北西部2③層	韓式系 軟質土器 甕	口縁部 ~胴部	①(15.1)		①にぶい橙色(7.5YR7/4) ②橙色(7.5YR7/6)		0.1~3mmの砂粒を含む	
27	7地点 北西部2③層	韓式系 軟質土器 甕	胴部			①にぶい橙色(7.5YR6/4) ②橙色(7.5YR6/6)		0.1~1mmの砂粒を含む	
28	7地点 北西部2③層	韓式系 軟質土器 甕	胴部			①にぶい黄褐色(10YR7/4) ②橙色(7.5YR7/6)		0.1~3mmの砂粒を含む	
29	7地点 北西部2③層	韓式系 軟質土器 甕	胴部			①灰黄色(2.5Y6/2) ②にぶい黄褐色(10YR7/4)		0.1~2mmの砂粒を含む	
30	7地点 北西部 2③層排土	韓式系 軟質土器 甕	胴部~ 底部			①にぶい黄褐色(10YR6/4) ②にぶい黄褐色(10YR7/4)		0.1~4mmの砂粒を含む	
31	7地点 北西部2③層	土師器 竈形土器	基部			①黄褐色(2.5Y5/3) ②灰黄褐色(10YR5/2)		0.1~3mmの砂粒を含む	
32	7地点 北西部 2③層排土	須恵器 高坏	脚部	裾部径(10.2)		①②灰色(5Y6/1)		0.1~2mmの砂粒を含む	
33	7地点 北西部 2③層排土	韓式系瓦質土器 坏もしくは埴	口縁部			①灰黄色(5Y7/3) ②灰白色(5Y7/1)		0.1~1mmの砂粒を含む	
34	7地点 南東部③層	土師器 高坏	脚部~ 裾部	裾部径(12.1)		①にぶい黄色(2.5Y6/3) ②にぶい橙色(5YR6/4)		0.1~mmの砂粒を含む	外面丹塗り
35	7地点 南東部③層	陶質土器 高坏 もしくは脚付壺	裾部	裾部径(12.7)		①灰色(N4/0) ②灰色(N6/0)		0.1~2mmの砂粒を含む	伽耶系
36	7地点 南東部③層	須恵器 高坏	口縁部			①灰色(N4/0) ②灰色(7.5Y5/1)		0.1~1mmの砂粒を含む	
37	7地点 南東部③層	須恵器 甕	口縁部			①灰色(N5/0) ②赤灰色(2.5YR6/1)		0.1~2mmの砂粒を含む	
38	7地点排土	六連式製塩土器	胴部			①にぶい橙色(7.5YR6/4) ②橙色(7.5YR7/6)		0.1~3mmの砂粒を含む	
39	7-2地点 埋甕	土師質土器 甕	胴部~ 底部	②(19.3)		①灰黄色(2.5Y6/2) ②黄灰色(2.5Y6/1)		0.1~5mmの砂粒を含む	佐野焼
40	9地点 ③層	縄文土器 深鉢	口縁部			①にぶい黄褐色(10YR6/4) ②にぶい黄褐色(10YR6/3)		0.1~1mmの砂粒を含む	
41	9地点 ③層	韓式系瓦質土器 鍋か	胴部~ 底部			①②灰白色(5Y7/2)		0.1~1mmの砂粒を含む	
42	9地点 ③層	須恵器 坏	底部	②(9.4)		①灰色(N5/0) ②灰色(10Y6/1)		0.1~1.5mmの砂粒を含む	
43	10地点 ②・③層	土師器 甕	口縁部	①(20.1)		①にぶい黄色(2.5Y6/4) ②にぶい橙色(7.5YR7/4)		0.1~1mmの砂粒を含む	
44	10地点 ②層	六連式製塩土器	胴部			①にぶい赤褐色(5YR5/4) ②にぶい橙色(5YR6/4)		0.1~2mmの砂粒を含む	
45	10地点ピット	弥生土器 壺	口縁部			①②にぶい黄色(2.5Y6/3)		0.1~3mmの砂粒を含む	
46	11地点ピット	土師器 高坏	口縁部			①にぶい黄褐色(10YR6/4) ②にぶい橙色(7.5YR6/4)		0.1~4mmの砂粒を含む	
47	13地点ピット	六連式製塩土器	胴部			①にぶい黄褐色(10YR6/3) ②にぶい褐色(7.5YR6/3)		0.1~1mmの砂粒を含む	
48	No.2-1~No.2-2間 ②層	土師器 埴	底部	①(6.9)		①②にぶい黄褐色 (10YR6/3)		0.1~1mmの砂粒を含む	
49	14地点~15地 点間 ②層	韓式系軟質土器 甕もしくは鉢	胴部			①橙色(5YR6/6) ②橙色(7.5YR6/6)		0.1~2mmの砂粒を含む	
50	15地点③層	磁器 碗	口縁部 ~底部	①(12.1) ②(4.8)		素地 灰白色(5Y8/1) 釉 明オリーブ灰色(2.5GY7/1)		精良	肥前系 (波佐見)

## 光構内(御手洗遺跡・月待山遺跡)の調査

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm)	色調	胎土	備考
				①口径②底径③器高	①外面 ②内面		
51	15地点 ④層	土師器 壺	口縁部		①②にぶい黄色(2.5Y6/3)	0.1~3mmの砂粒を含む	内外面丹塗り
52	16地点④~⑤層 上面機械掘削時	縄文土器 深鉢	底部	①10.8	①にぶい黄色(2.5Y6/4) ②にぶい黄橙色(10YR6/3)	0.1~2mmの砂粒を含む	
53	16地点④層か (業者表採)	弥生土器もしくは 土師器 甕	口縁部		①②にぶい黄橙色 (10YR7/4)	0.1~1mmの砂粒を含む	山陰系
54	17地点 暗褐色粗砂	磁器 碗	口縁部 ~底部	①(10.2) ②(4.0)	素地 灰白色(7.5Y7/1) 釉 灰色(10Y6/1)	精良	肥前系 (波佐見)
55	18地点④層	土師器 甕	口縁部 ~胴部		①②にぶい橙色(7.5YR6/4)	0.1~2mmの砂粒を含む	
56	18地点④層	土師器 甕	口縁部	①(16.5)	①にぶい褐色(7.5YR5/4) ②にぶい黄色(2.5Y6/3)	0.1~3mmの砂粒を含む	
57	18地点④層	韓式系軟質土器 甕もしくは壺	胴部		①にぶい黄橙色(10YR7/3) ②にぶい黄橙色(10YR7/4)	0.1~1mmの砂粒を含む	
58	18地点④層	韓式系軟質土器 甕もしくは壺	胴部		①にぶい黄橙色(10YR7/4) ②にぶい黄橙色(10YR7/3)	0.1~1mmの砂粒を含む	
59	No.4~No.5間 排土	弥生土器 壺もしくは鉢	底部	②(9.0)	①にぶい黄色(2.5Y6/3) ②灰黄褐色(10YR6/2)	0.1~9mmの砂粒を含む	
60	22地点表採 (21地点③層か)	弥生土器 甕	底部	②5.4	①にぶい黄褐色(10YR5/3) ②灰オリーブ色(5Y6/2)	0.1~5mmの砂粒を含む	
61	23地点③層か	陶質土器 壺もしくは甕	胴部		①黄褐色(2.5Y5/3) ②にぶい黄色(2.5Y6/3)	0.1~1mmの砂粒を含む	
62	27地点北東部 ④・⑤層	土師器 甕	口縁部	①(12.0)	①②暗灰黄色(2.5Y5/2)	0.1~3mmの砂粒を含む	
63	27地点北東部 ④・⑤層	土師器 甕	口縁部	①(15.1)	①②黄褐色(2.5Y5/3)	0.1~3mmの砂粒を含む	
64	27地点北東部 ④・⑤層	土師器 甕	口縁部 ~胴部	①(19.0)	①②暗灰黄色(2.5Y5/2)	0.1~3mmの砂粒を含む	
65	27地点北東部 ④・⑤層	土師器 高坏	坏部	①(18.6)	①にぶい黄褐色(10YR5/3) ②にぶい黄褐色(10YR6/3)	0.1~2mmの砂粒を含む	
66	27地点北東部 ④・⑤層	土師器 高坏	坏部	①(17.6)	①にぶい黄褐色(10YR5/3) ②灰色(7.5Y4/1)	0.1~2mmの砂粒を含む	67と同一か
67	27地点北東部 ④・⑤層	土師器 高坏	脚部~ 裾部		①にぶい黄褐色(10YR6/3) ②にぶい褐色(7.5YR5/4)	0.1~1mmの砂粒を含む	66と同一か
68	27地点北東部 ④・⑤層	土師器 高坏	脚部~ 裾部	裾部径(12.7)	①暗灰黄色(2.5Y5/2) ②にぶい黄褐色(10YR6/4)	0.1~3mmの砂粒を含む	
69	27地点北東部 ④・⑤層	韓式系軟質土器 甕	口縁部 ~胴部	①(16.6)	①にぶい褐色(7.5YR5/4) ②灰黄色(2.5Y6/2)	0.1~3mmの砂粒を含む	
70	27地点北東部 ④・⑤層	韓式系軟質土器 甕もしくは鉢	胴部		①灰黄褐色(10YR4/2) ②暗灰黄色(2.5Y4/2)	0.1~2mmの砂粒を含む	
71	27地点北東部 ④・⑤層	韓式系軟質土器 甕もしくは鉢	胴部		①にぶい黄褐色(10YR5/3) ②にぶい黄褐色(10YR7/4)	0.1~0.5mmの砂粒を含む	
72	27地点北東部 ④・⑤層	韓式系 軟質土器 甕	胴部		①にぶい黄褐色(10YR6/3) ②にぶい黄褐色(10YR5/3)	0.1~3mmの砂粒を含む	
73	27地点北東部 ④・⑤層	韓式系土器 軟質土器 甕	胴部		①②にぶい褐色(7.5YR5/4)	0.1~2mmの砂粒を含む	
74	27地点北東部 ④・⑤層	韓式系 軟質土器 鉢	底部	②(9.2)	①黄灰色(2.5Y5/1) ②灰黄褐色(10YR6/2)	0.1~3mmの砂粒を含む	
75	27地点北東部 ④・⑤層	陶質土器 壺もしくは甕	胴部		①暗灰黄色(2.5Y5/2) ②灰色(5Y5/1)	0.1~2mmの砂粒を含む	
76	27地点北東部 ④・⑤層	陶質土器 壺もしくは甕	胴部		①灰色(5Y5/1) ②褐灰色(10YR4/1)	0.1~2mmの砂粒を含む	
77	27地点北東部 ④・⑤層	陶質土器 器種不明	胴部		①灰色(5Y5/1) ②灰黄褐色(10YR5/2)	0.1~1mmの砂粒を含む	
78	27地点北東部 ④・⑤層	須恵器 壺	口縁部		①②灰色(N5/0)	精良	
79	27地点北東部 ④・⑤層	須恵器 壺もしくは甕	口縁部	①15.8	①②灰色(10Y5/1)	0.1~2mmの砂粒を含む	
80	27地点北東部 ④・⑤層	須恵器 壺	頸部		①②灰色(5Y4/1)	0.1~3mmの砂粒を含む	
81	27地点北東部 ④・⑤層	須恵器 甕	胴部		①灰色(N5/0) ②黄灰色(2.5Y6/1)	0.1~1mmの砂粒を含む	
82	27地点北東部 ④・⑤層	須恵器 甕	胴部		①灰色(5Y4/1) ②暗灰色(N3/0)	精良	
83	27地点南西部 ④・⑤層排土	土師器 壺	胴部		①にぶい黄褐色(10YR6/3) ②灰黄色(2.5Y6/2)	0.1~1mmの砂粒を含む	
84	27地点南西部 ④・⑤層排土	土師器 甕	口縁部	①(16.8)	①灰色(7.5Y5/1) ②灰黄褐色(10YR5/2)	0.1~1mmの砂粒を含む	
85	27地点南西部 ④・⑤層	土師器 甕	口縁部	①(17.2)	①にぶい黄褐色(10YR5/4) ②灰色(5Y3/1)	0.1~1.5mmの砂粒を含む	

光橋内(御手洗遺跡・月待山遺跡)の調査

遺物番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調		胎土	備考
					①外面	②内面		
86	27地点南西部 ④・⑤層	土師器 甕	口縁部		①にぶい橙色(7.5YR6/4) ②にぶい褐色(7.5Y5/4)		0.1~2mmの砂粒を含む	
87	27地点南西部 ④・⑤層	韓式系軟質土器 甕もしくは鉢	胴部		①にぶい橙色(7.5YR6/3) ②にぶい褐色(7.5YR6/4)		0.1~1mmの砂粒を含む	
88	27地点南西部 ④・⑤層	韓式系軟質土器 甕もしくは鉢	胴部		①にぶい黄褐色(10YR5/4) ②にぶい黄褐色(10YR5/3)		0.1~1mmの砂粒を含む	
89	27地点南西部 ④・⑤層	韓式系軟質土器 甕もしくは鉢	胴部		①褐色(10YR4/1) ②灰黄褐色(10YR5/2)		0.1~3mmの砂粒を含む	
90	27地点南西部 ④・⑤層排土	韓式系軟質土器 甕もしくは鉢	胴部		①灰黄色(7.5Y6/2) ②にぶい黄褐色(10YR6/3)		0.1~1mmの砂粒を含む	
91	27地点南西部 ④・⑤層	韓式系軟質土器 甕か	胴部		①黄褐色(2.5Y5/3) ②にぶい黄色(2.5Y6/3)		0.1~3mmの砂粒を含む	
92	27地点南西部 ④・⑤層	土師器 甕形土器	底部		①②にぶい黄褐色 (10YR6/3)		0.1~2mmの砂粒を含む	丹塗り
93	27地点南西部 ④・⑤層	土師器 甕形土器	掛口部		①にぶい黄褐色(10YR5/4) ②にぶい褐色(7.5YR5/4)		0.1~1.5mmの砂粒を含む	94~97と 同一か
94	27地点南西部 ④・⑤層	土師器 甕形土器	把手		①にぶい黄褐色(10YR5/3) ②にぶい褐色(7.5YR6/4)		0.1~3mmの砂粒を含む	93・95~97 と同一か
95	27地点南西部 ④・⑤層	土師器 甕形土器	底部		①灰黄褐色(10YR5/2) ②にぶい褐色(7.5YR6/4)		0.1~5mmの砂粒を含む	93・94・96・ 97と同一か
96	27地点南西部 ④・⑤層	土師器 甕形土器	底部		①にぶい黄褐色(10YR6/4) ②にぶい黄褐色(10YR7/4)		0.1~1mmの砂粒を含む	93~95・97 と同一か
97	27地点南西部 ④・⑤層	土師器 甕形土器	基部 (焚口下部)		①にぶい褐色(7.5YR6/4) ②にぶい褐色(7.5YR5/4)		0.1~1mmの砂粒を含む	93~96と 同一か
98	27地点南西部 ④・⑤層	土師器 甕形土器か	基部		①灰黄褐色(10YR5/2) ②にぶい黄色(2.5Y6/3)		0.1~3mmの砂粒を含む	
99	27地点南西部 ④・⑤層	土師器 甕形土器	掛口部		①②灰黄色(2.5Y6/2)		0.1~2mmの砂粒を含む	100と同一か
100	27地点南西部 ④・⑤層	土師器 甕形土器	基部		①②灰黄色(2.5Y6/2)		0.1~2mmの砂粒を含む	99と同一か
101	27地点南西部 ④・⑤層排土	陶質土器 平底鉢	口縁部 ~胴部		①灰色(N5/0) ②灰色(N6/0)		0.1~1.5mmの砂粒を含む	伽耶系
102	27地点南西部 ④・⑤層排土	陶質土器 壺もしくは甕	胴部		①黄灰色(2.5Y5/1) ②灰色(7.5Y4/1)		0.1~3mmの砂粒を含む	
103	27地点南西部 ④・⑤層	陶質土器 壺もしくは甕	胴部		①灰色(7.5Y4/1) ②灰色(5Y5/1)		0.1~3mmの砂粒を含む	
104	27地点南西部 ④・⑤層	陶質土器 壺もしくは甕	胴部		①②灰色(5Y4/1)		0.1~2mmの砂粒を含む	
105	27地点南西部 ④・⑤層	陶質土器 壺もしくは甕	胴部		①黄灰色(2.5Y5/1) ②灰色(5Y4/1)		0.1~5mmの砂粒を含む	
106	27地点南西部 ④・⑤層	陶質土器か 壺もしくは甕	胴部		①灰色(7.5Y5/1) ②黄灰色(2.5Y5/1)		0.1~1mmの砂粒を含む	
107	27地点南西部 ④・⑤層	須恵器 坏蓋	口縁部	①(10.9)	①灰色(5Y5/1) ②灰オリーブ色(5Y6/2)		0.1~1mmの砂粒を含む	排土出土 土器と接合
108	27地点南西部 ④・⑤層排土	須恵器 坏蓋	口縁部		①灰色(5Y5/1) ②灰色(N6/0)		0.1~4mmの砂粒を含む	
109	27地点南西部 ④・⑤層排土	須恵器 坏蓋	口縁部		①灰色(10Y6/1) ②灰オリーブ色(5Y6/2)		0.1~2mmの砂粒を含む	
110	27地点南西部 ④・⑤層	須恵器 坏蓋	口縁部		①②灰色(N5/0)		0.1~2mmの砂粒を含む	
111	27地点南西部 ④・⑤層	須恵器 坏蓋	天井部		①灰色(7.5Y5/1) ②灰色(5Y6/1)		0.1~2mmの砂粒を含む	
112	27地点南西部 ④・⑤層	須恵器 坏蓋	天井部		①灰白色(5Y7/1) ②灰色(5Y6/1)		0.1~2mmの砂粒を含む	
113	27地点南西部 ④・⑤層排土	須恵器 坏身	口縁部		①②灰色(7.5Y5/1)		0.1~2mmの砂粒を含む	
114	27地点南西部 ④・⑤層排土	須恵器 坏身	口縁部		①②灰黄色(2.5Y7/2)		0.1~2mmの砂粒を含む	
115	27地点南西部 ④・⑤層排土	須恵器 壺	口縁部	①(16.8)	①灰色(N5/0) ②灰色(5Y5/1)		0.1~2mmの砂粒を含む	
116	27地点南西部 ④・⑤層排土	須恵器 甕	口縁部		①灰色(7.5Y4/1) ②灰白色(7.5Y7/1)		0.1~2mmの砂粒を含む	
117	27地点南西部 ④・⑤層排土	須恵器 壺もしくは甕	胴部		①灰色(10Y5/1) ②灰色(5Y5/1)		0.1~1mmの砂粒を含む	
118	27地点南西部 ④・⑤層排土	須恵器 壺もしくは甕	胴部		①灰色(N5/0) ②灰色(5Y5/1)		0.1~3mmの砂粒を含む	
119	27地点南西部 ④・⑤層排土	須恵器 壺もしくは甕	胴部		①灰色(5Y5/1) ②灰色(10Y5/1)		0.1~2mmの砂粒を含む	
120	27地点南西部 ④・⑤層排土	須恵器 甕	胴部		①灰色(N4/0) ②灰色(7.5Y4/1)		0.1~2mmの砂粒を含む	

## 光構内(御手洗遺跡・月待山遺跡)の調査

遺物 番号	遺構・層位	器種	部位	法量(cm)		色調		胎土	備考
				①口径②底径③器高		①外面	②内面		
121	27地点南西部 ④・⑤層排土	須恵器 鉢	口縁部				①②灰色(5Y5/1)	0.1~2mmの砂粒を含む	
122	No.8 ⑥層	土師器 鉢	口縁部 ~胴部	①(12.4)			①②灰オリーブ色(5Y4/2)	0.1~2mmの砂粒を含む	
123	No.8 ⑥層	土師器	底部				①暗灰黄色(2.5Y5/2) ②黒褐色(2.5Y3/1)	0.1~5mmの砂粒を含む	
124	No.8 ⑥層	須恵器 坏蓋	口縁部	①(15.6)			①灰色(N5/0) ②灰色(N6/0)	0.1~0.5mmの砂粒を含む	
125	No.8-1~2間 ④層	弥生土器 壺	口縁部				①灰黄褐色(10YR5/2) ②黄褐色(2.5Y5/3)	0.1~3mmの砂粒を含む	
126	No.8-1~2間 ④層	土師器 坏	口縁部 ~底部				①②橙色(7.5YR7/6)	0.1~0.5mmの砂粒を含む	
127	No.8-1~2間 ④層	土師器 竈形土器	基部 (焚口下部)				①にぶい黄橙色(10YR6/3) ②褐灰色(10YR4/1)	0.1~2mmの砂粒を含む	
128	No.8-1~2間 ④層	土師器	把手				①黄灰色(2.5Y5/1) ②暗黄灰色(2.5Y5/2)	0.1~2mmの砂粒を含む	
129	No.8-1~2間 ④層	弥生土器 もしくは土師器	底部	②7.2			①灰黄褐色(10YR5/2) ②暗黄褐色(2.5Y5/2)	0.1~6mmの砂粒を含む	
130	No.8~No.8-1 間 ⑥層 排土	土師器 坏	口縁部				①②橙色(5YR6/6)	0.1~2.5mmの砂粒を含む	
131	No.8~No.8-1 間 ⑥層 排土	土師器 甕	口縁部				①黄灰色(2.5Y4/1) ②暗黄褐色(2.5Y5/2)	0.1~4mmの砂粒を含む	
132	No.8~No.8-1 間 ⑥層 排土	土師器 甕	口縁部				①暗黄褐色(2.5Y5/2) ②暗黄褐色(2.5Y4/2)	0.1~1.5mmの砂粒を含む	
133	No.8~No.8-1 間 ⑥層 排土	韓式系軟質土器 甕もしくは鉢	胴部				①灰黄褐色(10YR5/2) ②にぶい褐色(7.5Y5/3)	0.1~5mmの砂粒を含む	
134	No.8~No.8-1 間 ⑥層 排土	土師器 竈形土器	基部 (焚口下部)				①灰黄褐色(10YR5/2) ②灰黄褐色(10YR4/2)	0.1~3mmの砂粒を含む	
135	No.8~No.8-1 間 ⑥層 排土	須恵器 坏蓋	天井部				①灰黄色(2.5Y6/2) ②灰黄色(2.5Y7/2)	0.1~2.5mmの砂粒を含む	
136	No.8~No.8-1 間 ⑥層 排土	須恵器 坏蓋	口縁部~ 天井部	①(11.1)			①②灰色(N5/0)	0.1~3mmの砂粒を含む	
137	No.8~No.8-1 間 ⑥層 排土	須恵器 坏蓋	口縁部~ 天井部	①(11.1)			①灰色(5Y5/1) ②黄灰色(2.5Y4/1)	0.1~3mmの砂粒を含む	
138	No.8~No.8-1 間 ⑥層 排土	須恵器 坏蓋	口縁部				①②灰色(5Y5/1)	0.1~2mmの砂粒を含む	
139	No.8~No.8-1 間 ⑥層 排土	須恵器 坏蓋	口縁部				①②灰色(5Y5/1)	0.1~6mmの砂粒を含む	
140	No.8~No.8-1 間 ⑥層 排土	須恵器 坏蓋	口縁部				①②灰色(10Y5/1)	0.1~1.5mmの砂粒を含む	
141	No.8~No.8-1 間 ⑥層 排土	須恵器 坏身	胴部				①②灰色(N5/0)	0.1~2mmの砂粒を含む	
142	No.8~No.8-1 間 ⑥層 排土	須恵器 甕	口縁部				①②灰色(5Y5/1)	0.1~1mmの砂粒を含む	
143	No.8~No.8-1 間 ⑥層 排土	須恵器 甕	口縁部 ~胴部	①(18.6)			①灰色(5Y5/1) ②灰色(5Y6/1)	0.1~3mmの砂粒を含む	
144	No.8~No.8-1 間 ⑥層 排土	須恵器 甕	胴部				①灰色(7.5Y6/1) ②黄灰色(2.5Y5/1)	0.1~3mmの砂粒を含む	
145	No.8~No.8-1 間 ⑥層 排土	須恵器 甕	胴部				①灰色(5Y6/1) ②灰黄色(2.5Y6/2)	0.1~2mmの砂粒を含む	
146	No.8-2付近 排土表採	陶質土器 壺もしくは甕	胴部				①にぶい褐色(7.5YR5/3) ②にぶい赤褐色(5YR5/3)	0.1~1mmの砂粒を含む	
147	48地点 埋甕	土師質土器 甕	口縁部				①橙色(7.5YR7/6) ②にぶい橙色(7.5YR7/4)	0.1~3mmの砂粒を含む	佐野焼

## (11) 立会調査小結

今回の調査は構内の広範囲が対象となったため、多大な成果があった。以下、時期別に述べる。

縄文時代では、No.0において包含層が存在する可能性があるが、崩落により明らかにすることができなかった。また、9地点では縄文時代中期の深鉢片が出土し、広範囲で後～晩期とみられる土器片が出土したが、多くは古墳時代以後の落ち込み・遺物包含層からの出土で、遺構等は未確認である。

弥生時代についても同様である。遺構からも土器が出土したが、遺構面形成層が遺物包含層であるため、混入したものと考えられる。

今回、最も多く検出されたのは古墳時代の遺構・遺物包含層である。まず、北西部の状況について述べたい。2・3・5・No.2・6、13・14地点では落ち込み、7・9・10・18地点では遺物包含層が検出され、縄文土器、弥生土器、土師器、韓式系軟質土器、陶質土器、須恵器片が出土した。これらの落ち込み・遺物包含層の性格と連続性については十分な確認ができなかったが、峨眉山の位置する南西側から廃棄された遺物が旧地形の落ち込む箇所に堆積したものと推測できる。しかし、南西側にあたる平成11年度<sup>註1</sup>、平成23年度調査区<sup>註2</sup>では、顕著な遺構・遺物が確認されていないため、構内外を含めた地域において、分布範囲を確認する必要がある。1・2・4・No.2・11・12・14地点における遺構の時期は遺構に伴う出土遺物がほとんどないため詳細は不明であるが、周辺の落ち込み・遺物包含層出土土器から、5～6世紀と推測される。

次に南東部の状況について述べる。27地点では遺物包含層を検出し、土師器、韓式系軟質土器、陶質土器、須恵器片が多数出土した。27-2地点における遺物包含層の検出標高は1.96mである。小片が多いが、土師器甕、須恵器坏蓋類の特徴から時期は5～6世紀と考えられる。なお、当館が27地点より約18m南西側で平成21年度に実施した中学校改修工事に伴う本発掘調査<sup>註4</sup>では、標高約2.7mで古墳時代と考えられる遺構面を検出している。以上から、旧地形は平成21年度調査区から北東側でやや急激に落ち込んでおり、包含層出土の土器は27地点より南西側から廃棄されたことが推測される。また、27地点の遺物包含層は、今回No.8周辺でも検出された附属中学校体育館周辺の遺物包含層と近似した黒褐色粗砂であることから、両者は一連であった可能性が高い。すなわち、かつて福本幸夫氏によって提示された予想包含層限界線<sup>註5</sup>は北西側にさらに広がるのではないだろうか。27地点の状況から包含層はさらに北西側に広がるのが明らかであり、今後その分布範囲を確認することが必要である。

No.8周辺では、附属中学校体育館周辺で確認されていた遺物包含層を検出した。この包含層からは弥生土器、土師器、韓式系軟質土器、須恵器が出土した。古代以降の遺物をほとんど含まない点は過去の調査と同様で、主体は5～6世紀である。今回の調査では、38地点付近まで分布していた。39地点以東でも遺物包含層が分布していたが、土質が異なり、遺物量も少ない状況であった。以上から、No.8地点で検出された遺物包含層と39地点より南東で検出された包含層は別系統である可能性が高い。上記を前提とすれば、27地点からNo.8地点に分布する遺物包含層から出土する遺物は南西側、現在の小中学校校舎敷地周辺から廃棄されたものと考えられる。

上記を除く小中学校校舎敷地周辺では、42地点で遺物包含層を検出したほか、29、30、No.6-2、No.6-3、32、No.6-3-1、33、34～36、No.6-4-5、No.9B、No.9C、43・No.13、44、45、No.14、46、47、49、No.16、50、No.5-7でピット、土壌、遺構の可能性ある落ち込み等を検出した。しかし、本発掘調査と同様、遺構からほとんど遺物が出土しなかったため、詳細な時期は不明である。本発掘調査でもみられた幅(径)100cm前後の大型土壌の一部は掘立柱建物の一部である可能性を考えたい。

次に特筆される遺物について述べる。まず、注目されるのは、6地点の落ち込みから出土した東海系

台付甕である。この甕は弥生時代終末期から古墳時代初頭に位置づけられるが、博多湾岸では同時期において多数の東海系土器が出土することが知られており、当該期において、御手洗遺跡が西部瀬戸内における海上交通上の重要拠点であったことがうかがえる。ただし、今回の調査区では同時期の遺物の出土量が少ないことから、近辺に拠点が存在した可能性が考えられよう。

古墳時代の遺物のうち、注目されるのは韓式系軟質土器、韓式系瓦質土器、陶質土器である。北西部の落ち込み、包含層、27地点、No.8周辺の包含層を中心に多数出土した。また、韓式系軟質土器は既往の調査においても、武道場敷地、平成11年度調査区、平成15年度調査区から出土している。上記はいずれも系統・器種・詳細な時期を断定できない小片が多いが、時期的には5～6世紀に位置づけられ、5世紀が中心とみられる。韓式系軟質土器には甕、鉢、甑とみられる土器片、韓式系瓦質土器には壺、坏もしくは埴、鍋とみられる土器片、陶質土器には壺もしくは甕とみられる胴部片、平底鉢、高坏があり、分布状況から一時期に複数地点で使用・廃棄されていたと考えられる。以上から、御手洗遺跡には、朝鮮半島から来た渡来人が居住していたかもしくは立ち寄っていた可能性がきわめて高い。4世紀末～5世紀になると、近畿地方では須恵器、鉄器生産の技術導入に伴い、渡来人居住集落が増加するが、御手洗遺跡の状況は正に上記に伴うものであろう。やや時期の下るものを含めて、御手洗遺跡が位置する室積湾周辺では、市延遺跡で新羅系陶質土器長頸壺(6世紀後半～7世紀前半)、伝室積出土の新羅系陶質土器長頸壺(6世紀末～7世紀前半)、伝西内出土の新羅系陶質土器脚付壺(5世紀後半)、伝長徳寺山古墳出土の新羅系陶質土器有蓋高坏(5世紀後半)などの朝鮮半島系考古資料が知られている。以上から、室積湾周辺は山口県東部においては古柳井水道周辺と並び、古墳時代における海上交通上のきわめて重要な拠点であったことは疑いない。

古代については、9地点で須恵器坏、7・10・13地点で六連式製塩土器片が出土した。13地点では、ピットから出土したが、小片のため、古代の遺構とは断定できない。

中世については、時期を断定できる遺構は検出されず、遺物の出土も僅少であった。以上から、古代・中世の遺構については、遺構が検出されている武道場敷地より南東側、すなわち月待山遺跡にその中心がある可能性がある。

近世については、確実な遺構は7-2地点の埋甕のみであった。48地点の埋甕もその可能性があるが、埋設された佐野焼甕の特徴から近代に下る可能性がある。7-2地点の埋甕は上部が大きく削平されている。同様に上部を削平された埋甕は、7-2地点南西側に位置する平成11年度の上水道(給水管)改修に伴う立会調査区でも検出されている。また、近世の遺物の多くは近代の遺構面形成層もしくは近代以後の造成土からの出土であった。以上から、近世の遺構面は近代以後の附属学校前身施設の整備に伴って、大規模な削平を受けたとみられる。光構内では安永年間に会所が設置され、『防長風土注進案』によると、文化二年(1805)年に廻船の「荷揚波戸」(現在の学生研修宿泊棟敷地)が「御撫育方御蔵会所沖手」に築かれたとされる。埋甕の出土地点は「荷揚波戸」の南側に位置することから、会所関連施設に伴うものと考えられよう。この他、当館が行った昭和58年度の小学校自転車置場設置に伴う試掘調査では、19世紀の土器を含む土で埋められた石垣状遺構が検出されており、関連性が指摘されている。今回出土した近世の陶磁器類の多くは18世紀後半以後に位置づけられるが、このことは、存在したであろう遺構の多くが安永年間に設置された会所関連施設に伴うものであったことによるのであろう。一方、「荷揚波戸」が存在したとされる学生研修宿泊棟敷地では、近代以後の施設整備に伴う造成が著しく、顕著な遺構・遺物は確認できなかった。

近代については、本発掘調査の第1遺構面に対応するとみられる遺構面のほか、石積(石垣か)、石

敷暗渠などが広範囲で検出された。

以上の調査成果のうち、特に古墳時代についてはこれまでの御手洗遺跡の評価を大きく変えるものであり、今後さらに調査を進める必要がある。

【註】

- 1) 田畑直彦(2004)「第8章3 平成11年度山口大学構内遺跡調査の概要」山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報XVI・XVII』,山口
- 2) 田畑直彦(2015)「第5節2 教育学部附属光小学校遊具設置工事に伴う立会調査」山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成23年度』,山口
- 3) 久住猛雄(2005)「3世紀の筑紫の土器～北部九州・特に博多湾沿岸周辺における外来系土器の受容と展開」香芝市二上山博物館(編)『邪馬台国時代の筑紫と大和』シンポジウム資料集 香芝市二上山博物館,香芝(奈良)
- 4) 田畑直彦(2013)「第3章第6節 教育学部附属光中学校校舎改修工事に伴う本発掘調査・立会調査」山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成21年度－』,山口
- 5) 福本幸夫(1966)「II 光市における先原史時代の遺跡」,福本幸夫(編)『先原史時代の光市』,光(山口)  
横山成己(2005)「付篇 光市文化センター所蔵の御手洗遺跡出土遺物」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成15年度－』,山口
- 6) 豆谷和之・田崎美佐(1994)「第3章 光構内教育学部附属光中学校武道場新鋭に伴う発掘調査」山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報XII』,山口
- 7) 註1と同じ
- 8) 横山成己(2005)「第1章第6節. 教育学部附属光小学校エレベーター昇降路他新設に伴う試掘・立会調査」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成15年度－』,山口
- 9) 今津啓子(1994)「渡来人の土器－韓式系軟質土器を中心として－」荒木敏夫(編)『古代王権と交流5 ヤマト王権と交流の諸相』名著出版,東京
- 10) 亀田修一(2008)「第五編第八章第一節 周防の韓式系考古資料」山口県(編)『山口県史』通史編 原始・古代,山口
- 11) 山口県文書館(編)1963『防長風土注進案第七卷 熊毛宰判』,山口  
小川国治(1975)「近世のひかり－海の利用と大川の効用－」光市史編纂委員会(編)『光市史』,光(山口)
- 12) 森田孝一・磯部貴文(1985)「第4章 教育学部附属光小学校自転車置場設置に伴う試掘調査」山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報III』,山口